鹿児島大学リポジトリ
Kagoshima University
Repository

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報11 : 平成7年度

雑誌名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
巻	11
ページ	1-162
発行年	1997-03
URL	http://hdl.handle.net/10232/00031505

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 11

平成7年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

1997年3月

〒890 鹿児島市郡元一丁目21-24
鹿児島大学
埋蔵文化財調査室
電話 0992－85－7270

序

鹿児島は縄文時代と弥生時代の上下関係が初めて確認された場所であることからも分かるように、重要な遺跡が数多く存在します。鹿児島大学の構内も例外ではなく、埋蔵文化財の調査がおこなわれるたびに多くの発見があります。平成７年度の調査では、桜ヶ丘の医・歯学部キャンパスから桜島薩摩火山灰層（新規火山灰および軽石層：約１万１千年まえ）の下から「旧石器時代の細石器」が見つかりました。この他に多数の縄文・弥生時代の土器が出土しています。

このような華々しい成果とうらはらに、時間と労力を必要とする埋蔵文化財調査は人手不足と、大学の建設ラッシュで多くの積み残しを出す結果となりました。発掘調査を優先せざるを得ない状況から、記録保存（報告書作成）を義務づけられているにもかかわらず先送りにする事態に追い込まれています。本報告書の『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報11』は、平成７年度の年報として刊行する予定であったものを、埋蔵文化財調査委員会の了解を得て一年遅れで発行にこぎ着けたものです。埋蔵文化財調査委員会では、このような報告書作成経費の返上という異常事態を繰り返さないために、整理作業費を埋蔵文化財調査室費予算に計上するなどの工夫をしてまいりましたが、なお多くの問題をかかえております。

これまでに埋蔵文化財調査・報告の業務に対して全学からご協力とご理解をいただいておりますが、埋蔵文化財調査室の現状をさらにご理解いただきご支援をお願い申しあげます。また、前委員長であった安藤　保名誉教授のご指摘にもありますように、増え続ける貴重な出土品の保管・展示、さらに十分な研究が行える施設の実現に、各学部のご協力を重ねてお願い申しあげます。

平成９年３月

埋蔵文化財調査委員会
委員長　　大木　公彦

例　言

1．本年報は鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成７年１月４日から平成８年３月31日までに行った調査活動の成果をまとめたものである。調査報告は平成６年度分（平成７年１～３月）をⅡ部、平成７年度分（平成７年４月～平成８年３月）をⅢ部とする。郡元団地Ｐ－５区(教育学部実践研究指導センター建設地）における発掘調査報告付編として掲載した。

2．本書に掲載している発掘調査及び立合調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。個々の調査の担当者は各調査報告に記述した。調査における図面の担当は以下のとおりである。
Ⅱ：大西智和・峰山いづみ、Ⅲ．２：古澤生、Ⅲ．３：中村直子・羽生文彦・春成耕一・山下浩太郎・渡辺美晴・藤田紀子・鮎川章子、付編：中村・峰山いづみ

3．本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行った。遺物の実測の担当は以下の通りである。
Ⅱ：峰山、Ⅲ．２：大西、Ⅲ．３：中村、Ⅲ．４：大西、付編：峰山・中村
製図は中村、鮎川、峰山、大西が担当した。
写真撮影は大西、鮎川が行った。
執筆はⅡ・Ⅲ．２・Ⅲ．４を大西が、Ⅰ・Ⅲ．１・Ⅲ．４、付編を中村が行った。編集は中村、大西が行った。

4．郡元団地Ｐ－５区の発掘調査にあたっては、新田栄治氏（鹿児島大学教養部考古学研究室教授）、本田道輝氏（鹿児島大学法文学部考古学研究室）のご教授を賜った。また、遺物に関して本田氏、田崎氏（愛媛大学助教授）、中園聡氏（福岡市教育委員会）のご教授を賜った。
5．発掘調査による遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理の下、各学部、部局が収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡　例

1．昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は以下のようである。

（1）郡元団地では、国土座標第2座標系（X＝－158.200、Y＝－42.400）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った（Fig.3参照）。

（2）桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系（X＝－161.600、Y＝－44.400）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った（Fig.4参照）。

2．本年報において報告を行った調査地点については、立合調査地点を除き、Fig.2～Fig.4にその位置を記している。

3．本年報におけるレベル高はすべて海抜を表し、方位は真北方向を示す。

4．本書で使用した遺構の表示記号は以下の通りである。
SK：土坑　SD：溝状遺構　P：ピット

5．Ⅲ．2～4、付編Ⅰ～Ⅲで使用した土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

6．遺物については観察表を作成した。その表記、表現については以下の通りである。
色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。
胎土：粒子の大きさで礫（～3㎜）・粗砂粒・砂粒・細砂粒・微細な砂粒に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものはその色調で表記した。
法量：復原による法量は、（　）をつけた。

7．本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致させた。

本文目次

Ⅰ　鹿児島大学構内遺跡の立地と環境 …… 1
Ⅱ　平成６年度の調査 …… 7
Ⅱ．１　郡元団地Ｃ－６区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査 …… 9
１．調査に至る経過 …… 9
２．調査の体制 …… 10
３．調査の経過 …… 10
４．層位 …… 11
５．遺構 …… 13
６．遺物 …… 13
７．まとめ …… 15
Ⅱ．２　郡元団地Ｃ－６区におけるプラント・オパール分析結果 …… 16
Ⅲ　平成７年度の調査 …… 19
Ⅲ．１　調査の概要 …… 21
Ⅲ．２　郡元団地Ｑ－４区（附属幼稚園舎建設予定地）における試掘調査 …… 23
１　調査に至る経過 …… 23
２　調査の体制 …… 23
３　調査の経過 …… 24
４　層位 …… 25
５　遺構 …… 25
６　遺物 …… 25
７　まとめ …… 25
Ⅲ．３　郡元団地Ｊ・Ｋ－10・11区（工学部校舎建設予定地）における試掘調査 …… 28
１　調査に至る経過 …… 28
２　調査の体制 …… 28
３　調査の経過 …… 28
４　層位 …… 28
５　遺物 …… 30
６　まとめ …… 31
Ⅲ．４　立合調査 …… 32
鹿児島大学構内遺跡調査要項 …… 36
受贈図書目録 …… 38
付編Ⅰ．郡元団地Ｐ－５区（教育学部教育実践研究指導センター建設地）における発掘調査 …… 45
１．調査に至る経過 …… 47
２．調査の体制 …… 47
３．調査の経過 …… 47
４．層位 …… 48
５．遺構と遺構出土の遺物 …… 48
６．包含層出土遺物 …… 73
７．まとめ …… 101
SUMMARY …… 161

挿図目次

Fig. 1　鹿児島市の位置 …… 3
Fig. 2　鹿児島大学構内遺跡の位置
S=1/50000 …… 4
Fig. 3　鹿児島大学郡元団地構内図
S=1/4000 …… 5
Fig. 4　鹿児島大学桜ヶ丘団地構内図
S=1/4000 …… 6
Fig. 5　トレンチ配置図　S=1/300 …… 9
Fig. 6　層位断面図　S=1/50 …… 10
Fig. 7　RI-1実測図　S=1/30 …… 12
Fig. 8　出土遺物　S=1/3 …… 13
Fig. 9　プラント・オパール定量分析結果 … 17
Fig.10　トレンチ配置図　S=1/400 …… 23
Fig.11　層位断面図　S=1/50 …… 24
Fig.12　出土遺物　S=1/3　9：S=1/1 … 26
Fig.13　調査地点位置図　S=1/1000 …… 28
Fig.14　層位断面図　S=1/40 …… 29
Fig.15　出土遺物　S=1/3 …… 30
Fig.16　95-A調査地点　S=1/2000 …… 32
Fig.17　95-B調査地点　S=1/2000 …… 32
Fig.18　95-B　14地点出土遺物
S=1/3 …… 34
Fig.19　95-C調査地点　S=1/2000 …… 35
Fig.20　遺構平面図　S=1/200 …… 47
Fig.21　層位断面図　S=1/40 …… 49
Fig.22　Ⅳ層・Ⅴ層上面検出遺構図
S=1/40 …… 51
Fig.23　SD1・SD2　平面：S=1/80
断面：S=1/40 …… 52
Fig.24　SD1出土遺物（1）S=1/3 …… 53
Fig.25　SD1出土遺物（2）S=1/3 …… 55
Fig.26　SD1出土遺物（3）S=1/3 …… 57
Fig.27　SD2出土遺物　S=1/3 …… 57
Fig.28　SD3　S=1/50 …… 58
Fig.29　6層上面検出遺構　S=1/100 …… 59
Fig.30　SD4・SD25　S=1/50 …… 61
Fig.31　SD4出土遺物　S=1/3 …… 61
Fig.32　SD5・SD6　S=1/75 …… 62
Fig.33　SD7～9　S=1/50 …… 63
Fig.34　SD10・SD11・SD22
S=1/75 …… 64
Fig.35　SD21　S=1/50 …… 65
Fig.36　SD21出土遺物　S=1/3 …… 65
Fig.37　SK1　S=1/50 …… 66
Fig.38　SK1出土遺物　S=1/3 …… 66
Fig.39　7層上面検出遺構　S=1/100 …… 67
Fig.40　SD23　S=1/50 …… 69
Fig.41　SD23出土遺物　S=1/3 …… 69
Fig.42　SD24　S=1/50 …… 69
Fig.43　SD24出土遺物　S=1/3 …… 69
Fig.44　掘立柱建物跡　S=1/30 …… 70
Fig.45　ピット断面図　S=1/30 …… 73
Fig.46　ピット深さと個数 …… 74
Fig.47　ピット深さ別平面図　S=1/100 … 74
Fig.48　杭列断面模式図　ピット部分=S=1/60
ピット間=S=1/150 …… 75
Fig.49　ピット出土遺物　S=1/3 …… 76
Fig.50　1層出土遺物　S=1/3 …… 76
Fig.51　3a層・3b層・Ⅳ層出土遺物
S=1/3 …… 77
Fig.52　3c層出土遺物（1）　S=1/3 …… 78
Fig.53　3c層出土遺物（2）　S=1/3 …… 80
Fig.54　3c層出土遺物（3）　S=1/3 …… 82
Fig.55　6層出土遺物（1）　S=1/3 …… 83
Fig.56　6層出土遺物（2）　S=1/3 …… 84
Fig.57　6層出土遺物（3）　S=1/3 …… 86
Fig.58　6層出土遺物（4）　S=1/3 …… 88
Fig.59　6層出土遺物（5）　S=1/3 …… 90
Fig.60　6層出土遺物（6）　S=1/3 …… 92
Fig.61　6層出土遺物（7）　S=1/3 …… 94
Fig.62　6層出土遺物（8）　S=1/3 …… 96
Fig.63　6層出土遺物（9）　S=1/3 …… 98
Fig.64　6層出土遺物（10）　S=1/3 …… 99
Fig.65　6層出土遺物（11）　S=1/3 … 101
Fig.66　6層出土遺物散布図 S=1/160 … 104
Fig.67　接合遺物散布図　S=1/100 …… 105

表目次

Tab.1 出土遺物観察表 …… 14
Tab.2 プラント・オパール定量分析結果 … 16
Tab.3 平成7年度調査一覧 …… 21
Tab.4 出土遺物観察表 …… 26
Tab.5 出土遺物観察表 …… 30
Tab.6 95-B 14地点出土遺物観察表 …… 34
Tab.7 SD1出土遺物観察表（1） …… 54
Tab.8 SD1出土遺物観察表（2） …… 56
Tab.9 SD1出土遺物観察表（3） …… 57
Tab.10 SD2出土遺物観察表 …… 58
Tab.11 SD4・SD21・SK1出土遺物観察表 …… 66
Tab.12 ピット一覧表 …… 71
Tab.13 SD23・SD24・ピット出土遺物観察表 …… 76
Tab.14 1層・3a層・3b層・Ⅳ層出土遺物観察表 …… 77
Tab.15 3c層出土遺物観察表（1） …… 79
Tab.16 3c層出土遺物観察表（2） …… 81
Tab.17 3c層出土遺物観察表（3） …… 82
Tab.18 6層出土遺物観察表（1） …… 83
Tab.19 6層出土遺物観察表（2） …… 85
Tab.20 6層出土遺物観察表（3） …… 87
Tab.21 6層出土遺物観察表（4） …… 89
Tab.22 6層出土遺物観察表（5） …… 91
Tab.23 6層出土遺物観察表（6） …… 93
Tab.24 6層出土遺物観察表（7） …… 95
Tab.25 6層出土遺物観察表（8） …… 97
Tab.26 6層出土遺物観察表（9） …… 97
Tab.27 6層出土遺物観察表（10） …… 100
Tab.28 6層出土遺物観察表（11） …… 102
Tab.29 層別遺物出土状況 …… 103

図版目次

PL.1 郡元団地C-6区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査（1） …… 109
1.調査地点 2.2トレンチRI-1検出状況 3.2トレンチRI-1の層 4.2トレンチ北RI-1完掘状況
PL.2 郡元団地C-6区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査（2） …… 110
1.1トレンチ完掘状況 2.2トレンチ完掘状況 3.出土遺物（表） 4.出土遺物（裏）
PL.3 郡元団地C-6区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査（3） …… 111
1.1トレンチ北壁 2.2トレンチ東壁
PL.4 郡元団地Q-4区（幼稚園舎建設予定地）における試掘調査（1） …… 112
1.1トレンチ調査地点 2.2トレンチ調査地点
PL.5 郡元団地Q-4区（幼稚園舎建設予定地）における試掘調査（2） …… 113
1.1トレンチ完掘状況 2.2トレンチ完掘状況 3.出土遺物（表） 4.出土遺物（裏）
PL.6 郡元団地Q-4区（幼稚園舎建設予定地）における試掘調査（3） …… 114
1.1トレンチ西壁 2.2トレンチ西壁
PL.7 郡元団地J・K-10・11区（工学部校舎建設予定地）における試掘調査（1） …… 115
1.1トレンチ調査地点 2.2トレンチ調査地点
PL.8 郡元団地J・K-10・11区（工学部校舎建設予定地）における試掘調査（2） …… 116
1.1トレンチ完掘状況 2.2トレンチ完掘状況 3.出土遺物（表） 4.出土遺物（裏）
PL.9 郡元団地J・K-10・11区（工学部校舎建設予定地）における試掘調査（3） …… 117
1.1トレンチ西壁 2.2トレンチ西壁

PL.10 平成7年度立合調査 …… 118
1.95-B 14地点住居跡検出状況 2.95-B 15地点住居跡検出状況
3.95-B 14地点出土遺物（表） 4.95-B 14地点出土遺物（裏）
PL.11 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（1） …… 119
1.表土剥ぎ中 2.SD1検出状況 3.SD1・2完掘状況
PL.12 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（2） …… 120
1.SD1・2完掘状況（北東から） 2.SD2埋土断面 3.SD1埋土断面
PL.13 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（3） …… 121
1.3c層上面溝状遺構検出状況 2.SD3 3.SD3埋土断面
PL.14 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（4） …… 122
1.6層上面遺構検出状況 2.6層上面遺構検出状況（西から） 3.6層上面遺構検出状況
PL.15 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（5） …… 123
1.SD4完掘状況 2.SD5・6完掘状況 3.SD5断面
PL.16 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（6） …… 124
1.SD7・8完掘状況 2.SD9完掘状況 3.SD12～20完掘状況
PL.17 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（7） …… 125
1.SD10・11検出状況 2.SD10・11完掘状況 3.SD10断面 4.SD11断面
PL.18 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（8） …… 126
1.SD21完掘状況 2.SD22完掘状況 3.SK1完掘状況
PL.19 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（9） …… 127
1.7層上面遺構検出状況 2.SD23検出状況 3.SD23完掘状況
PL.20 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（10） …… 128
1.SD24検出状況 2.SD24完掘状況
PL.21 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（11） …… 129
1.P52・56・77完掘状況 2.P56 3.P52 4.P77
PL.22 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（12） …… 130
1.P45断面 2.P46断面 3.P80断面 4.P109断面 5.P135・136断面 6.P151断面
PL.23 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（13） …… 131
1.P157断面 2.P158断面 3.P166断面 4.P180断面 5.P186断面 6.P198
PL.24 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（14） …… 132
1.調査区完掘状況 2.6層出土遺物 中央ベルトd区付近 3.6層遺物出土状況(327) 4.遺物出土状況(327)
PL.25 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（15） …… 133
1.②-d南壁 2.④-d南壁
PL.26 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（16） …… 134
1.SD1出土遺物（表） 2.SD1出土遺物（裏）
PL.27 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（17） …… 135
1.SD1出土遺物（表） 2.SD1出土遺物（裏）
PL.28 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（18） …… 136
1.SD1出土遺物（表） 2.SD1出土遺物（裏） 3.SD1出土遺物（側面）
PL.29 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（19） …… 137
1.SD2出土遺物（表） 2.SD2出土遺物（裏） 3.SD4・21出土遺物（表） 4.SD4・21出土遺物（裏）
PL.30 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（20） …… 138
1.SK1・SD23・SD24・ピット出土遺物（表） 2.SK1・SD23・SD24・ピット出土遺物（裏）
3.1・3a・3b・Ⅳ層出土遺物（表） 4.1・3a・3b・Ⅳ層出土遺物（裏） 5.Ⅳ層出土遺物（真上から）
PL.31 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（21） …… 139
1.3c層出土遺物（表） 2.3c層出土遺物（裏）

PL.32 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（22）…… 140
1.3c層出土遺物（表） 2.3c層出土遺物（裏） 3.3c層出土遺物（側面）
PL.33 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（23）…… 141
1.3c層出土遺物（表） 2.3c層出土遺物（裏）
PL.34 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（24）…… 142
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏）
PL.35 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（25）…… 143
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏）
PL.36 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（26）…… 144
1.3c層出土遺物（177文様接写） 2.6層出土遺物（側面） 3.6層出土遺物（側面）
PL.37 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（27）…… 145
1.6層出土遺物（側面） 2.6層出土遺物（218穿孔接写） 3.6層出土遺物（側面）
4.6層出土遺物（表） 5.6層出土遺物（裏）
PL.38 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（28）…… 146
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏）
PL.39 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（29）…… 147
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏）
PL.40 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（30）…… 148
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏） 3.6層出土遺物（側面）
PL.41 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（31）…… 149
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏）
PL.42 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（32）…… 150
1.6層出土遺物（側面） 2.6層出土遺物（側面） 3.6層出土遺物（側面） 4.6層出土遺物（288口縁部接写） 5.6層出土遺物（288文様接写）
PL.43 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（33）…… 151
1.6層出土遺物（側面） 2.6層出土遺物（表） 3.6層出土遺物（裏）
PL.44 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（34）…… 152
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏）
PL.45 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（35）…… 153
1.6層出土遺物（側面） 2.6層出土遺物（側面） 3.6層出土遺物（表） 4.6層出土遺物（裏）
PL.46 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（36）…… 154
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏）
PL.47 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（37）…… 155
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏） 3.6層出土遺物（側面）
4.6層出土遺物（側面） 5.6層出土遺物（側面）
PL.48 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（38）…… 156
1.6層出土遺物（327文様接写） 2.6層出土遺物（332文様接写） 3.6層出土遺物（334文様接写）
4.6層出土遺物（335文様接写） 5.6層出土遺物（336文様接写） 6.6層出土遺物（376文様接写）
PL.49 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（39）…… 157
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏）
PL.50 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（40）…… 158
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏）
PL.51 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（41）…… 159
1.6層出土遺物（側面） 2.6層出土遺物（側面） 3.6層出土遺物（表） 4.6層出土遺物（裏）
PL.52 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（42）…… 160
1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏） 3.6層出土遺物（側面）

I　鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

I　鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島東岸部のほぼ中央に位置する。鹿児島市は、東側の湾岸部以外はシラス台地に囲まれ、シラス台地と諸河川によって形成された沖積平野に分かれる。鹿児島大学構内遺跡のうち、本書に掲載する調査地域は郡元団地、桜ヶ丘団地である。

郡元団地は、標高７mほどで、鹿児島市の沖積平野の中央に位置する。東側は鹿児島湾に向かい、西にはシラス台地が後背地となっている。周辺では、一の宮遺跡[1]など弥生時代から古墳時代の遺跡が多い。郡元団地でも、これまでの調査によって、弥生時代・古墳時代・中世・近世の遺物包含層が確認されており、特に古墳時代の住居跡が密集している。住居跡の集中する場所は、理学部から教養部の一帯と、教育学部付属小学校・中学校から運動場の南西側一帯の２ヶ所が確認されている。

桜ヶ丘団地は郡元団地から約2.5km南の亀ヶ原台地上に位置する。鹿児島市のシラス台地上の遺跡は、縄文時代早期から後期にかけての遺跡が点在しており、弥生時代や古墳時代の遺跡が少ない。

桜ヶ丘所地では、これまでの調査で同地の東側に縄文時代草創期・早期・弥生時代前期・中期の遺物包含層が存在し、特に縄文時代早期と弥生時代中期前半の住居跡が確認されている。

註

1）河口貞徳「一の宮遺跡の報告」『考古学雑誌』37-4，1951

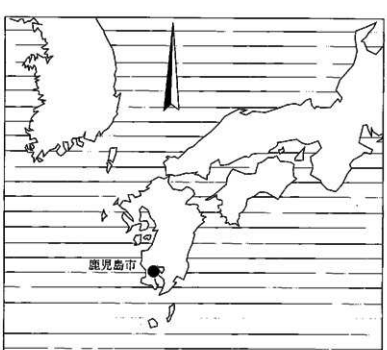


Fig.1　鹿児島市の位置

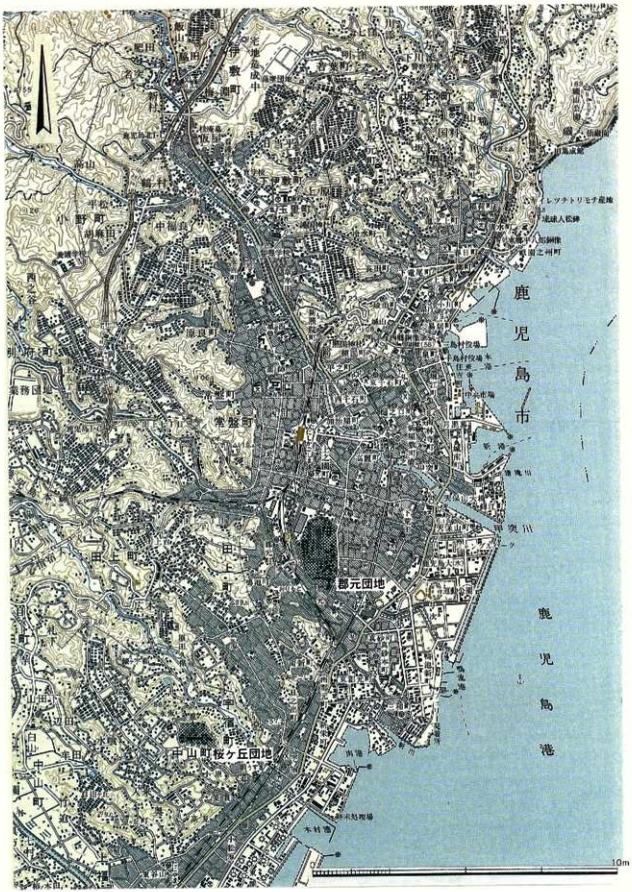


Fig.2 鹿児島大学構内遺跡の位置

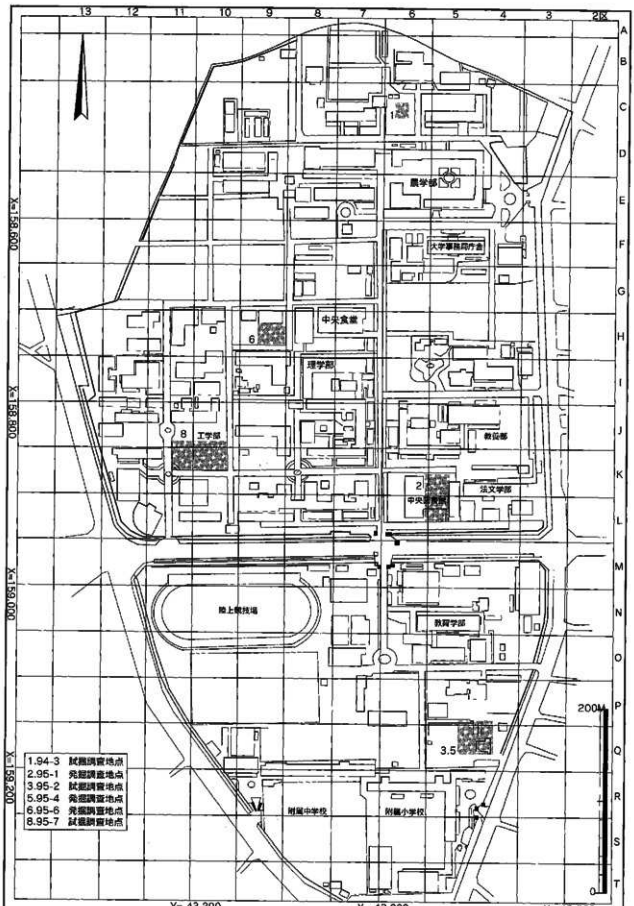


Fig.3 鹿児島大学郡元団地構内図 S＝1/4000

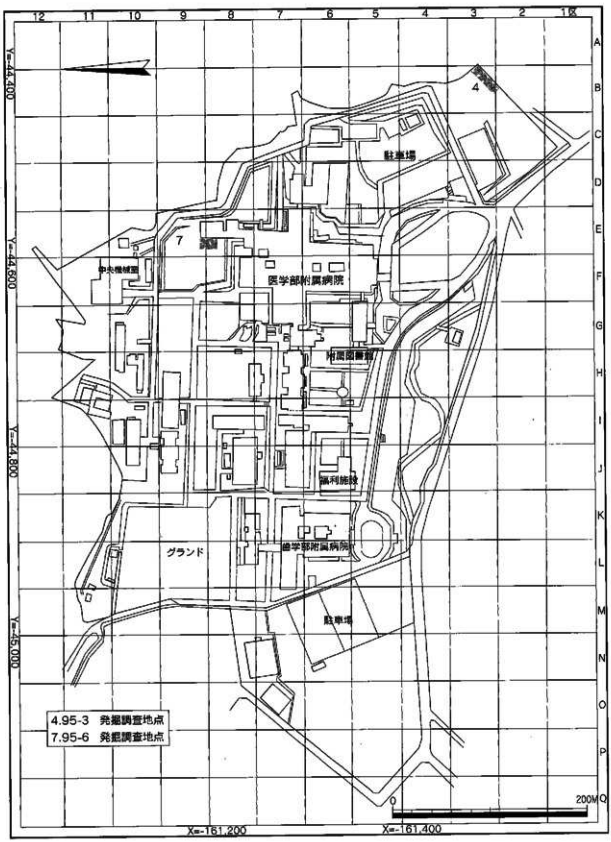


Fig.4 桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000

II　平成６年度の調査

II．1　郡元団地C-6区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査

II．2　郡元団地C-6区におけるプラント・オパール分析結果

Ⅱ．1　郡元団地C-6区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査

1　調査にいたる経過

鹿児島大学では、郡元団地内に遺伝子実験施設の建設が計画され、郡元団地の北部、農学部附属家畜病院の南側がその予定地とされた（Fig.3-1）。本地点の北西～南東部のB～D-9･10区（農学部温室改築及び実験温室、網室新設地）では昭和58･60年に試掘調査が行われた。調査の結果、中世末～近世にかけての溝などの遺構と、該期の遺物が確認されている[1]。また、本地点北西部のB-8区（RI実験室増築地）では昭和61年に試掘調査が行われ、河川跡や中世以降の遺物が検出されている[2]。B-8･9区（課外活動施設建設予定地）では平成３年に試掘調査が行われ、ピットや土壙が検出され、各時期の遺物も出土している[3]。これらのことから、本地点においても埋蔵文化財の包蔵が推定された。そこで埋蔵文化財調査室では本地点における遺構および遺物包含層の有無を確認するため、試掘調査を行うことになった。

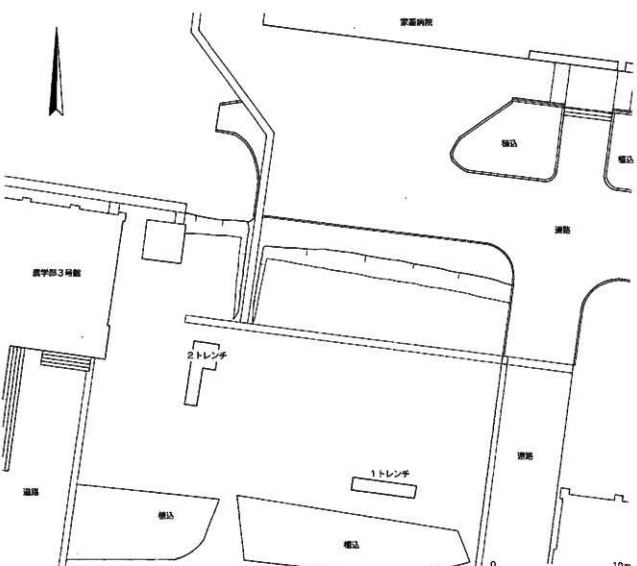


Fig.5　トレンチ配置図　S=1/300

2 調査の体制

調査主体者　鹿児島大学埋蔵文化財調査室長
　　上村俊雄
調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
　　大西智和・峰山いづみ・古澤　生
発掘調査作業員　瀬戸口論・西正司・臼田和吉・
　　新原和子・重信及武子

3 調査の経過

試掘調査は、平成7年3月1日～3月15日にかけて実施した。造伝子実験施設建設予定地の北西隅付近と南西隅付近に、幅1m・長さ5mのトレンチを2カ所設定し、東側を1トレンチ、西側を2トレンチとした(Fig.5)。

1トレンチでは表土・客土除去後、水田と考えられる層を確認した。この層は開に河川から流されてきた

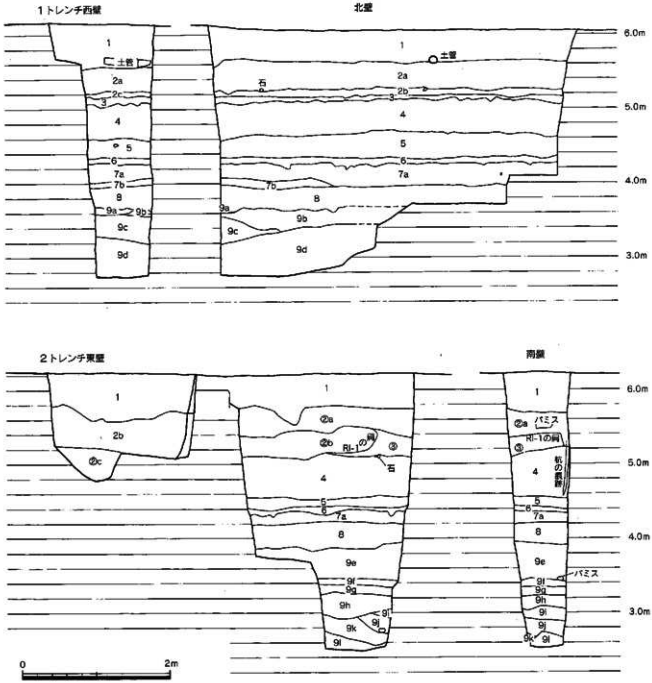


Fig.6 層位断面図 S=1/50

と考えられる砂層を１枚挟むものの、約1.5mにわたって続いている。その下は細砂・粗砂層となっており、河川（RI-2）に伴うものと判断した。この河川の埋土を1.5m掘り下げたところ、水が湧き出したため以下の掘り下げは行わなかった。一部で泥炭層を確認することができたため、川の底は泥炭層によって形成されている可能性がある。

２トレンチでは表土・客土の下は、細砂・粗砂層となっており河川跡（RI-1）と判断した。河の堆土が崩れやすいため、北側の一部を拡張して掘り下げた。RI-1の深さは約0.7mであった。調査区の南側をさらに掘り下げたところ、RI-1の下からは水田と思われる層を検出した。この層は約1.0m続き、その下からは１トレンチと同様にRI-2の堆土（細砂・粗砂層）を検出した。地表下3.7mまで掘り下げたが、川の底は検出できなかった。

RI-1の平面図、各トレンチの層位断面図、プラント・オパール分析のためのサンプルを採取し、埋め戻しを行って調査を終了した。

4　層位（Fig.6）

１トレンチ

１層　表土・客土・カクラン層などをまとめて１層とした。

2a層　褐色（7.5YR4/6）を呈するシルト質細砂層。２cm大くらいまでのパミスを含む。

2b層　灰褐色（7.5YR5/2）を呈するシルト質砂層。粘性はほとんどなく、１cm大ほどのパミスを含む。マンガンの浸透が見られる。

３層　鈍い黄橙色（10YR7/3）・灰黄褐色（10YR6/2）などを呈する細砂層で粘性はない。４層土をブロック状に含み、マンガンの浸透が見られる。１cm大程度までのパミスを含むが、部分的に５mm大程度までのパミスが集中している。河川（RI-1）から流れてきたものと考えられる。

４層　にぶい黄褐色（10YR5/3）を呈するシルト層。１cm大までのパミスを含む。粘性をやや帯びており、マンガンの浸透が見られる。

５層　灰褐色（7.5YR4/2）を呈するシルト層。１cm大程度までのパミスを含む。粘性をやや帯びており、マンガンの浸透が見られる。

６層　灰黄褐色（10YR6/2）を呈するシルト質砂層で粘性はほとんどない。マンガンの浸透が見られる。

7a層　灰褐色（7.5YR5/1）を呈するシルト層。５mm大程度までのパミスを含む。粘性をやや帯びており、マンガンの浸透が見られる。

7b層　褐灰色（7.5YR5/1）を呈するシルト層。１cm大程度までのパミスを含む。マンガンの浸透は見られない。

２･4～７層は層の特徴や、マンガンが浸透していることなどから、水田として用いられていたと考えられる。

８層　黄灰色（2.5Y5/1）を呈するシルト質砂層。１cm大程度までのパミスを含む。粘性はほとんどなく、マンガンの浸透も見られない。

9a･9b層　灰黄褐色（10YR6/2）を呈する粘性をやや帯びたシルト質砂と灰白色（2.5Y8/1）・にぶい黄橙色（10YR7/2）などを呈する細砂層と、にぶい黄橙色（10YR7/2）を呈する粗砂が縞状に堆積した層。

9c層　灰黄褐色（10YR6/2）を呈する粘性をやや帯びたシルト質砂、灰白色（2.5Y8/1）・にぶい黄橙色（10YR7/2）などを呈する細砂層と、にぶい黄橙色（10YR7/2）を呈する粗砂が縞状に堆積した層。

9d層　灰黄褐色（10YR6/2）を呈し粘性をやや帯びたシルト質砂、灰白色（2.5Y8/1）・にぶい黄橙色（10YR7/2）などを呈する細砂と赤褐色（5YR4/6）・灰白色（10YR7/1）・黒褐色（10YR3/1）などを呈する粗砂が縞状に堆積した層。粗砂の粒子は9c層のものより大きい。

２トレンチ

1･4･5･6･7a･8層は１トレンチと同一の層と考えた。

②a層　にぶい黄褐色（10YR5/3）・灰黄色（2.5Y6/2）などを呈する細砂層。一部に粗砂が含まれる。５cm大くらいまでのパミスがわずかに含まれるが、まれに20cmを超えるものも見られる。

②b層　灰黄色（2.5Y7/2）・灰白色（2.5Y7/1）などを呈する粗砂層で、ラミナの形成が見られる。２cm大程度までの礫・パミスを含み、黒色の砂鉄が縞状に堆積している。

②c層　にぶい黄褐色（10YR5/3）を呈する粗砂と５cm大程度までの礫・パミスからなる層。

②a～②c層は河川（RI-1）の堆土である。

③層　４層土に灰黄色（2.5Y6/2）を呈する細砂がブロック状に含まれた層。上面はRI-1の肩を形成している。

9e･9g･9i･9k層　灰黄褐色（10YR4/2）を呈するシルトと、褐色（10YR4/6）・灰黄色（2.5Y7/2）を呈する細砂が縞状に堆積した層。パミスはほとんど含まれないが、まれに10cmを超すものが見られる。

9f層　明褐色（7.5YR5/6）・灰白色（10YR7/1）・

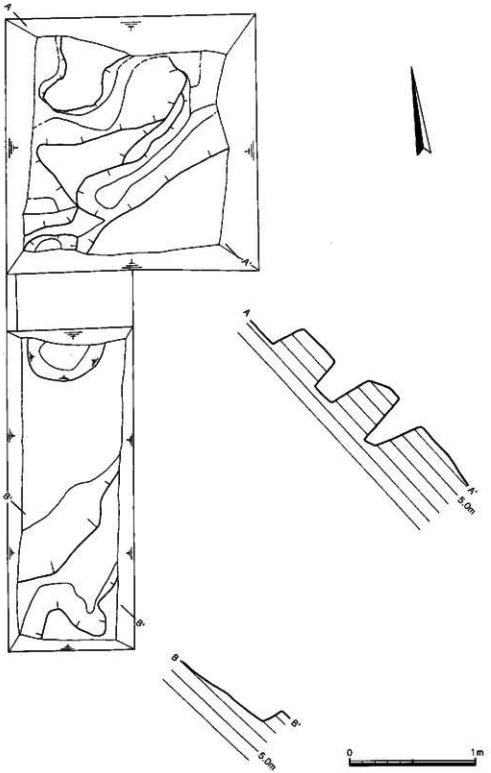


Fig.7 RI-1実測図 S=1/30

黒褐色（10YR3/1）などを呈する粗砂層。2～3cm大のパミスを少量含む。

9h層 9f層と同様であるが、9e層と同じようなシルト～細砂をブロック状に含んでいる。

9j層 灰黄褐色（10YR4/2）シルト、灰白色（10YR7/1）・黒褐色（10YR3/1）などを呈する粗砂との混土層。1cm大程度までのパミスを含む。まれに5cm大程度のものも見られる。

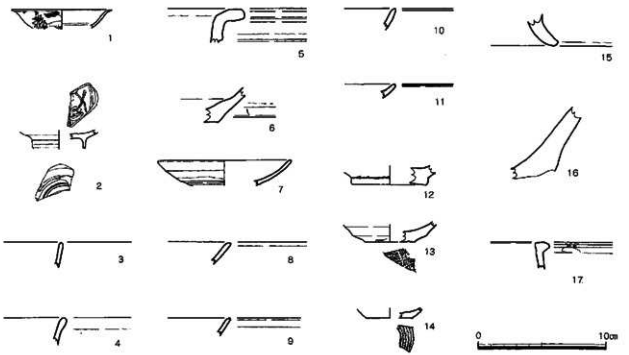


Fig.8　出土遺物　S=1/3

91層　褐色（7.5YR4/4）、黒色（7.5YR2/1）などを呈する粗砂層。2～3cm大の礫、5cm大程度までのパミスを多く含む。

1･2トレンチの9a～91層は河川（RI-2）の埋土と考えられる。

5　遺構

RI-1（Fig.7）

2トレンチにおいて検出した。トレンチの南側で一方の肩を確認することができたため、向きは北東－南西であったことがわかったが、流れていた方向は調査範囲の制約から、明らかにすることができなかった。川底に打ち込まれた杭の痕跡を1カ所確認した。鉄釘、素焼き土器などが出土している。

RI-2

1･2トレンチで確認することができたため、かなり大きな河川であったことが想定できる。河川の肩ならびに、川底が検出されていないため、河川の方向や流れの向きは不明である。埋土はシルト・細砂・粗砂でそれらが縞状に堆積している。ラミナの形成が多く見られたことから、流れはかなり速かったものと考えられる。

1トレンチの埋土中から陶器の杯あるいは皿の破片が1点出土した。

6　遺物

水田層や河川跡から遺物が出土したが、量はそれほど多くなく、いずれの遺物も小破片である。

2層からは薩摩焼の甕の小破片が比較的多く見られる。江戸時代以降の時期を想定することができる。

4層からは染付の小破片が出土している。

5層からは素焼き土器のほか、陶器・土師器・須恵器などの小破片が出土している。

7層からは素焼き土器のほか、青磁・染付・糸切り底の土師器などが出土している。

8層以下から出土した遺物はひじょうに少ない。8層では土師器が1点、9層からは陶器が1点出土している。

以下に実測が可能であったものを個別に説明する（Fig.8・Tab.1）。

1は染付の皿の口縁部～体部の破片と考えられる。口縁端部付近で緩やかに外反する。2は染付の碗と考えられる。底部～高台の破片である。3は青磁の碗の口縁端部小破片と考えられる。風化が激しいため、釉の残りは良くない。4は青磁の碗の口縁部小破片である。口縁端部は肥厚している。内外面とも貫入が見られる。

5は薩摩焼の甕の口縁部小破辺で、口縁端部付近で大きく外反している。内面上方と突帯部分は無釉で、その他には黒色の釉が施されている。6は陶器の底部

Tab.1 出土遺物観察表

No.	種別	器種	出土ﾄﾚﾝﾁ・層	色調・釉調	胎土・砥鉢	調整・施文	備考
1	施釉	皿	1トレンチ, 7a層	透明釉.			口縁の約1/6残存. 口径8cm.
2	施釉	碗	1トレンチ, 1層	透明釉.			高台の約1/4残存. 高台径4.2cm.
3	青磁	碗?	1トレンチ, 5層	釉：灰白色（10Y7/1～7/2）～灰色（N6/）に類似.	微細粒を含む.		かなり風化している.
4	青磁	碗	1トレンチ, 7a層	釉：オリーブ灰色（10Y6/2～5/2）の半透明釉. 灰白色（N7/）～灰色（N6/）.	微細粒を若干含む.		
5	龍泉窯	碗	1トレンチ, 2a層	外面：オリーブ黒色（10Y3/2）と褐灰赤褐色（5YR2/4）に類似. 内面：暗赤褐色（5YR2/3）とオリーブ灰色（10Y5/2）に類似.	砂粒を含む.	回転ナデ.	
6	陶器		1トレンチ, 1層	釉：黄褐色（2.5Y5/6）～オリーブ色（5Y5/6）. 外面：後黄橙色（10YR6/3）. 内面：にぶい橙色（7.5YR6/4）～にぶい褐色（7.5YR5/4）.	微細粒をわずかに含む.	回転ナデ.	器種不明.
7	陶器	杯or皿	1トレンチ, RI-2. 9d層より下部	釉外面：灰白色（5Y8/1）. 内面：灰白色（5Y8/1～2.5Y8/1）. 灰白色（2.5Y8/1）.	微細粒をわずかに含む.	回転ナデ.	
8	土師器	杯?	1トレンチ, 5層	外面：橙色（5～7.5YR6/8）. 内面：鈍い黄橙色（10YR7/3～7/4）.	砂粒を含む.	回転ナデ.	
9	土師器	杯or碗	1トレンチ, 7a層	灰白色（2.5Y8/2）.	微細粒を若干含む.	回転ナデ.	
10	土師器	杯or碗	1トレンチ, 7a層	にぶい橙色（7.5YR7/4）.	微細粒を若干含む.	回転ナデ.	
11	土師器	杯or皿	1トレンチ, 8層				鉄分付着のため色調・胎土・調整は不明.
12	土師器	碗?	1トレンチ, 5層	橙色（7.5YR7/6）. 一部灰黄褐色（10YR6/2）.	微細粒を含む.		底部の約1/4残存. 底径6cm. 摩滅している.
13	土師器	杯or碗	1トレンチ, 7a層	外面：浅黄橙色（10YR8/4）～にぶい黄橙色（10YR7/4）. 内面：にぶい黄橙色（10YR7/2～7/3）.	細粒をわずかに含む.	糸切り底.	底部の約1/6残存.
14	土師器	杯?	2トレンチ, 7a層	外面：浅黄橙色（7.5YR8/4）～にぶい橙色（7.5YR7/4）. 内面：にぶい橙色（5YR7/3）.	微細粒を若干含む.	回転ナデ. 糸切り底.	底部の約1/5残存. 底径3.7cm.
15	土師器		1トレンチ, 1層	外面：浅黄橙色（7.5YR8/4）～にぶい橙色（7.5YR7/4）. 内面：浅黄橙色（7.5YR8/3～8/4）.	微細～砂粒を含む.	ナデ.	器種不明.
16	成川式土器	甕	1トレンチ, 2a層	外面：橙色（2.5YR6/8）～明赤褐色（2.5YR5/8）. 内面：上部/赤褐色（5YR4/8）. 下部/褐灰色（5YR4/1）～黒褐色（5YR3/1）.	砂粒を多く含む. 細砂～礫を多く含む.	ナデ?	磨滅している.
17	弥生土器	甕	1トレンチ, 2a層	浅黄橙色（10YR8/3）～にぶい黄橙色（10YR7/3）.	砂粒を多く含む.	突帯部にユビオサエ.	弥生時代前期.

小破辺であるが，器種は不明。外面は回転ヘラケズリ状の痕跡を残す。底から2cmほどまでは無釉、それから上位には緑色の釉が施される。7は陶器の杯あるいは皿の口縁部～体部である。外面上から2cmくらいまでと内面には白色の釉が施され、貫入が見られる。1トレンチのRI-2埋土から出土した。

8は土師器の杯の口縁部小破片と考えられる。9は土師器の杯あるいは碗の口縁部小破片と考えられる。外面に緩やかな稜が見られる。10は土師器の杯あるいは碗の口縁部小破片と考えられる。11は土師器の杯あ

るいは皿の口縁部小破片と考えられる。12は土師器の碗の底部～高台の破片と考えられ、充実高台である。13は土師器の杯あるいは碗の底部と考えられる。底部に糸切りの痕跡が見られる。14は土師器の小杯の底部と考えられる。底部に糸切りの痕跡が見られる。15は土師器の高台部分と考えられる。形態は「成川式」土器の脚台に似るが、胎土や色調が異なることから、土師器と判断した。

16は「成川式」土器の甕の底部小破片である。下部は接合面で剥離している。やや赤味がかっており、熱を受けたためと思われる。

17は弥生土器の壺の小破片である。亀の甲タイプの口縁部であるが、厚みがそれほどないため、前期のものと判断できる。口唇部には刻み目が施されるが、刻み目は小さい。

7　まとめ

試掘の結果、カクラン・客土層の厚さは薄く、以下の層の残りは良好であることがわかった。また、この地点で河川が、おそらく時期を違えて2回以上存在していたことも明らかになった。とくに下側の河川（RI-2）は、いずれのトレンチでも埋土が確認されたが、河の肩は確認されていないため、かなり大きなものであったと考えられる。RI-2の埋土からは陶器が1点出土しており、河川の年代は古代以降と考えられることから、この河の下に鄙元団地で広く見られる古墳時代の包含層が存在している可能性は否定できない。しかし、2トレンチで部分的ではあるものの、泥炭層が検出されており、この泥炭層が、稲盛会館[4]や地域共同研究センターの発掘調査で確認された泥炭層と同一のものであり、かつ本地点でそれが地山に相当する場合は、本地点には古墳時代の包含層が存在しないことになる。この理由としてもともと存在していなかった、河川によって浸食された、などが考えられる。

包含層の残りは良好で、遺物なども出土したことから、本地点において、現状変更が行われる場合は、事前に埋蔵文化財に対する十分な配慮を行う必要があると判断される。

註

1）本田道輝　1987　『鹿児島大学鄙元団地内遺跡（B～D-9,10地点）－鹿児島大学農学部温室改築及び実験温室、網室等新設に伴う試掘調査報告書－I』鹿児島大学農学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室.

2）坪根伸也　1987「第II部　第4章　鹿児島大学鄙元団地B-8区における試掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報II』鹿児島大学埋蔵文化財調査室.

3）松永幸男　1992「第I部　第2章　鹿児島大学鄙元団地B-8・9区（課外活動施設建設予定地）における試掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VII』鹿児島大学埋蔵文化財調査室.

4）大西智和編　1994『鹿児島大学構内遺跡鄙元団地L-11・12区　鹿児島大学稲盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』鹿児島大学埋蔵文化財調査室.

II．2　郡元団地C-6区におけるプラント・オパール分析結果

宮崎大学　藤原宏志

1995年3月13日、鹿児島大学構内遺跡（遺伝子実験施設用地）で採集した土壌資料に関するプラント・オパール分析結果について、次のとおり報告する。

1．分析試料

遺伝子実験施設用地：15試料

2．分析方法

供試試料は宮崎大学農学部地域農学研究室でプラント・オパール定量分析法（ガラス・ビーズ法）により処理分析された。

3．分析結果

分析結果は別表および別図に示した。

4．分析結果の検討

(1)イネは3層および最下層（泥炭層）を除く各層から検出された。その検出量から、9層堆積時以降、ほぼ連続的に稲作が行われていたものと推定される。

(2)各層から、ヨシが多量に検出されるところをみると、この地点が湿潤な環境下で堆積したものと推定される。したがって、ここで行われた稲作は水田稲作だったと考えてよかろう。

(3)キビ属のプラント・オパールは9層で検出されるだけである。しかし、その量がイネより多いところから、水田の雑草というより、キビ図（おそらくヒエであろう）自体も収穫の対象になっていたものと思われる。

Tab.2　プラント・オパール定量分析結果

Sampling block [c6]　Sampling date [3/13 '95]

層名	植物体乾重（t/a．cm）						
	イネ (O. sati.)	イネ籾 (Rice g.)	キビ族 (Pani.)	キビ族種実 (Pani. seed)	ヨシ (Phragi.)	タケ亜科 (Bamb.)	ススキ (Andoro.)
1	6.190	2.169	0.000	0.000	0.000	0.155	1.607
2a	4.451	1.559	0.000	0.000	0.000	0.509	0.939
2b	4.579	1.604	0.000	0.000	0.000	0.224	1.738
3	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.054	0.281
4	3.742	1.311	0.000	0.000	0.000	0.382	1.578
5	2.387	0.836	0.000	0.000	0.000	1.325	5.236
6	1.861	0.652	0.000	0.000	0.000	0.122	1.099
7a	5.247	1.838	0.000	0.000	0.000	0.428	4.979
7b	3.069	1.075	0.000	0.000	0.000	0.501	1.295
8	4.749	1.664	0.000	0.000	1.399	0.581	2.003
9a	0.312	0.109	0.000	0.000	0.000	0.051	0.000
9b	1.383	0.484	0.000	0.000	0.000	0.151	0.389
9c	2.081	0.729	2.878	1.307	0.000	0.226	0.293
9d	0.541	0.190	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
泥炭	0.000	0.000	0.000	0.000	4.000	0.000	0.000

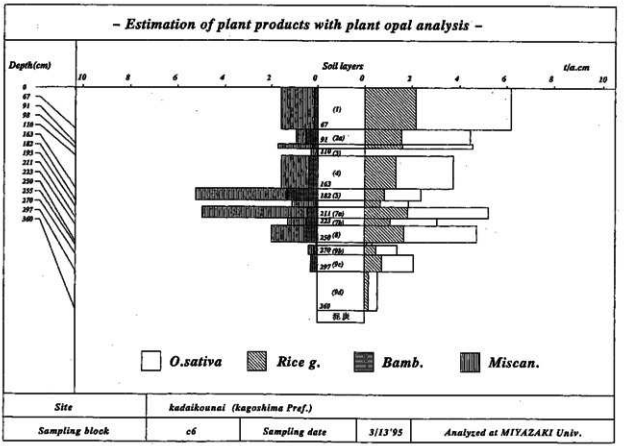


Fig.9　プラント・オパール定量分析結果

Ⅲ　平成７年度の調査

Ⅲ．１　調査の概要

Ⅲ．２　郡元団地Q-4区（附属幼稚園舎建設予定地）における試掘調査

Ⅲ．３　郡元団地J･K-10･11区（工学部校舎建設予定地）における試掘調査

Ⅲ．４　立合調査

Ⅲ．1　調査の概要

平成７年度は、発掘調査５件、試掘調査２件、立合調査３件の調査を行った（Tab.3・Fig.3・4）。都元団地では、調査No.95-1・95-2・95-4で、古墳時代の遺物および遺構が、95-5では近世以前から流れていたと考えられる河川跡を検出し、また、時期は不明だがその河川跡に切られた７基の楕円形の土壙状遺構を検出した。

95-1では、古墳時代の溝状遺構を確認し、その埋土中に土器を主体とする多量の遺物が包含されていた。付近の調査では住居跡が多く確認されており[1]、今回検出した溝状遺構も、これらと同時期に営まれた遺構であろう。

95-2の試掘調査では、古墳時代の包含層を確認したため、本調査（95-4）を行うことになった。調査の結果、古墳時代の住居跡４基と多数のピット跡を検出したが、このピットの中に堀立柱建物跡を２基を確認した。この調査地点は都元団地の南東端にあたり、調査結果から古墳時代の集落が都元団地よりも東側にさらにのびている可能性が考えられる。

桜ヶ丘団地では、調査No.95-3で縄文時代早期の遺物が、95-6で同じく縄文時代早期の遺物と細石刃が出土した。桜ヶ丘団地では縄文時代早期の遺物包含層が団地の北東部に広がっていることが確認されており[2]、また、平成６年度のG-11区の調査では前平式土器に伴う住居跡が一軒確認されている。

95-3で出土した土器は塞之神式と押型文土器であり、桜ヶ丘団地で多く出土している前平式より新しい型式になる。これらは昭和45～46年に本田道輝氏がこの調査区周辺から表面採集した遺物の型式と一致することから、塞之神式の時期の包含層が一帯に広がっていると考えられる。しかし、95-3では遺物の密度が非常に低く、分布域の周辺部にあたるものと考えられる。

Tab.3　平成７年度調査一覧

調査の種類	調査No.	調査・工事名	期　間	地　区
発掘調査	95-1	中央図書館建設に伴う発掘調査（第３次）	平成７年５月８日～８月30日	都元団地Ｋ・Ｌ－５・６区
	95-3	要壁工事に伴う発掘調査	平成７年７月５日～７月14日	桜ヶ丘団地Ｂ－２・３区
	95-4	幼稚園舎建設に伴う発掘調査	平成７年７月21日～10月28日	都元団地Ｑ－４・５区
	95-5	情報処理センター増築に伴う発掘調査	平成７年12月６日～平成８年３月19日	都元団地Ｈ－９区
	95-6	ＭＲＩ－ＣＴ装置棟増築に伴う発掘調査	平成７年12月12日～平成８年３月19日	桜ヶ丘団地Ｅ－８・９区
試掘調査	95-2	幼稚園舎建設予定地における試掘調査	平成７年５月30日～６月13日	都元団地Ｑ－４区
	95-7	工学部校舎建設予定地における試掘調査	平成８年３月５日～３月15日	都元団地Ｊ・Ｋ－10・11区
立合調査	94-A	農学部アース板埋め込み工事	平成７年６月27日	都元団地Ｃ－５区
	94-B	教育学部校内樹木移植工事	平成７年７月11～20日	都元団地Ｏ・Ｐ－３～６、Ｑ－10区
	94-C	教育学部水道管埋設工事	平成７年10月23・24日	都元団地Ｍ－５区

95-3で出土した細石刃は、桜ヶ丘団地で確認されたのは初めてである。これは、サツマ火山灰直下のチョコ層と呼称される層から出土している。この層からの遺物の出土は平成元年に調査を行ったE-8・9区で石鏃が一点出土している[3]のみであった。鹿児島市内では、この層から縄文時代草創期の遺構や旧石器時代の遺物が発見されており[4]、桜ヶ丘団地でもこれらの遺物に伴う遺構が発見される可能性が出てきたといってよいだろう。

註

1）釘田第Ⅰ地点
松永幸男1992「付編　釘田第一地点（鹿児島大学教養部）遺跡発掘調査報告－遺構および遺物出土遺物編－（昭和50年度　鹿児島県教育委員会文化課調査）」『南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究：平成3年度教育研究学内特別経費研究成果報告書』
郡元団地　－　区
中村直子1995「Ⅱ．1　調査の概要」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅸ・Ⅹ』1995
中村直子1995「Ⅲ．1調査の概要」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅸ・Ⅹ』

2）桜ヶ丘団地Ⅰ－8区
坪根伸也・松永幸男1988「第Ⅱ部第3章　鹿児島大学宇宿団地Ⅰ-8区（医学部臨床研究棟増築地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ』
桜ヶ丘E-8・9区
砂田光紀・松永幸男・中村直子1990「第Ⅱ部第2章　鹿児島大学宇宿団地E-8・9区における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅴ』

3）註2）文献
砂田・松永・中村1990に同じ

4）出口浩編1990『横井竹ノ山遺跡』鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（10）　鹿児島市教育委員会
出口浩編1992『掃除山遺跡』鹿児島市埋蔵文化財調査報告書（12）鹿児島市教育委員会

Ⅲ．2　郡元団地Q-4区（附属幼稚園舎建設予定地）における試掘調査

1　調査に至る経過

鹿児島大学では附属幼稚園の園舎の建設が計画され、郡元団地の南東部、もとの幼稚園舎の東側から記念会館周辺が、その予定地とされた（Fig.3-3）。本地点西側のP-6・7区（教育学部文系研究棟）では昭和59（1984）年から昭和60（1985）年にかけて発掘調査が[1]、Q-6・7区（教育学部美術科棟建設予定地）では、昭和61（1986）年に試掘調査が行われている[2]。本地点の北西に位置するP-4・5区（教育実践研究指導センター・音楽美術科棟建設予定地）では、昭和63（1988）年[3]、平成4（1992）年[4]、平成5（1993）年[5]に試掘調査や本調査が行われている。それらの調査では、古墳時代から近代にかけての遺構や遺物が確認されており、本予定地においても遺構・遺物の存在が予想された。埋蔵文化財調査室では予定地におけるそれらの有無を確認するため試掘調査を行うことになった。

2　調査の体制

調査主体者　鹿児島大学埋蔵文化財調査室長
　　上村俊雄
調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
　　中村直子・古澤　生・峰山いづみ
発掘調査作業員　坂口ミエ子・谷口ノリ・福永シノブ・福永花江・柳田キミ子・末吉サチ

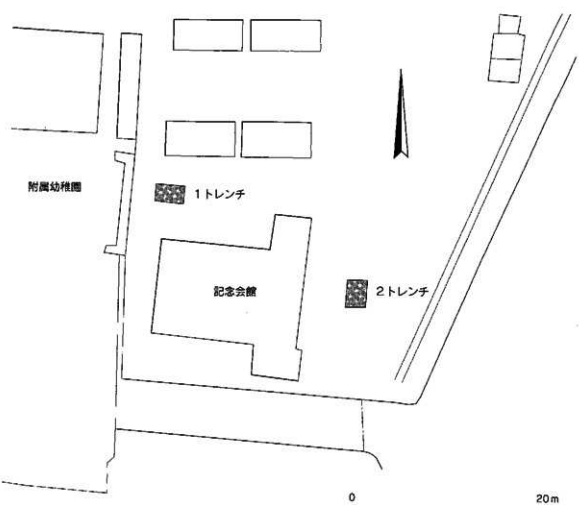


Fig.10　トレンチ配置図　S＝1/400

子・柳田二三子

3　調査の経過

試掘調査は、平成7年5月30日から6月13日まで行った。

記念会館の北側と東側に長さ3m、幅2mのトレンチを2ヶ所設定し、北側を1トレンチ、東側を2トレンチと呼んだ。1トレンチは長軸がおよそ東西方向、2トレンチはおよそ南北方向である（Fig.11）。

1トレンチでは、表土・客土（Ⅰ層）を除去したところ、水田層（Ⅱ・Ⅲ層）と考えられる層を検出した。その下には黒褐色シルト質層（Ⅳ層）を検出した。この層は郡元団地で広く確認されている古墳時代の包含層と考えられる。その下はシルトがかった砂質層（Ⅴ層）になっていた。Ⅴ層検出後、トレンチの西壁から幅80cmの範囲をさらに掘り下げた。Ⅴ層の下は砂層（Ⅵ層・Ⅶ層）であり、地表面から約2m下まで掘り下げた。

2トレンチでは表土・客土（1層）を除去したところ、1トレンチと同様、水田層（Ⅱ・Ⅲ層）と考えられる層を検出した。しかし、2トレンチではⅢ層はわずかに確認されたのみであった。その下は黒褐色シルト層（Ⅳ層）となる。Ⅳ層上部の南東部分から土器が比較的集中して出土した。Ⅳ層を30cm掘り下げ、以下は南西隅を南北80cm、東西50cmの範囲のみ掘り下げた。1トレンチと同様の砂層（Ⅴ・Ⅵ層）を確認し、地表面から約1.4m下まで掘り下げた。

両トレンチの遺構実測、壁面の層位断面図を作成して調査を終了した。

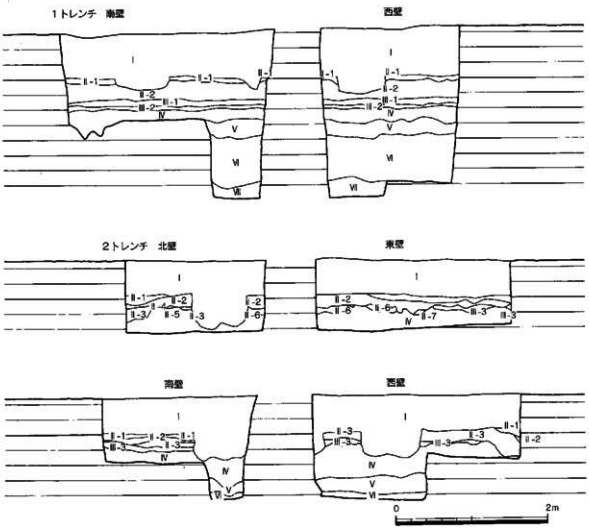


Fig.11　層位断面図　S＝1/50

4　層位（Fig.11）

1トレンチ

Ⅰ層　表土・客土・カクラン層などをまとめてⅠ層とした。地表から40cm下までは一部ピンク色を呈するシラスの客土である。層の厚さは約60cmである。

Ⅱ-1層　褐灰色（2YR5/1）を呈するシルト質土層で粘性をやや帯びており、若干硬くしまっている。マンガンの浸透は見られない。なお、2トレンチでは褐灰色（10YR4/1）を呈する。水田層と考えられる。

Ⅱ-2層　灰黄褐色（10YR5/2）を呈するシルト質土層で粘性をやや帯び、若干硬くしまっている。マンガンの浸透が見られ、4cm大ほどのパミスが少し含まれている。なお、2トレンチでは褐灰色（10YR5/1）を呈する。水田層と考えられる。

Ⅲ-1層　にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈するシルト質土層で、若干粘性を帯びている。鉄分が浸透しており、かなり硬い。4cm大ほどのパミスが少し含まれている。水田層と考えられる。

Ⅲ-2層　黒褐色（5YR2/2）を呈する土層で、鉄分が浸透し非常に硬く、粘性は帯びていない。4cm大程度のパミスが若干含まれる。

Ⅳ層　黒色（10YR2/1）を呈するシルト質土層で、粘性を帯びている。4cm大程度のパミスを含む。なお、2トレンチでは黒色（10YR1.7/1）を呈する。郡元団地で広く確認されている、古墳時代の包含層に相当すると考えられる。しかし、遺物は2トレンチで上部に土器が集中して出土したのみであった。

Ⅴ層　黄灰色（2.5Y4/1）を呈するシルト質砂層。4cm大程度のパミスを若干含み、これはⅣ層からの影響が想定できる。なお、2トレンチでは黒褐色（2.5Y3/1）を呈する。

Ⅵ層　灰オリーブ色（5Y4/2）を呈する砂層。4cm大程度のパミスをわずかに含む。なお、2トレンチでは淡黄色（2.5Y8/3）を呈する。

Ⅶ層　橙色（7.5Y6/8）を呈する粗砂層で、Ⅵ層より若干粗い。5cm大までの礫がまれに含まれる。

2トレンチ

Ⅰ・Ⅱ-1・Ⅱ-2・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層は色調が若干異なる場合もあるが、1トレンチと同一であると考えられる。以下に、2トレンチのみで確認された層の説明を行う。

Ⅱ-3層　灰黄褐色（10YR5/2）を呈するシルト質層。粘質をわずかに帯び、マンガンがやや浸透している。水田層と考えられる。

Ⅱ-4層　Ⅳ層土とⅡ-2層土の混ざったもの。

Ⅱ-5層　Ⅱ-2層土とⅢ-3層土の混ざったもの。

Ⅱ-6層　Ⅱ-2層土とⅢ-3層土、Ⅳ層土の混ざったもの。

Ⅱ-7層　Ⅱ層と黒褐色（7.5YR2/1・10YR2/2）を呈するシルト質層で粘性をやや帯びている。5mm大までのパミスをわずかに含む。

Ⅲ-3層　黒褐色（7.5YR3/1）を呈するシルト質層。鉄分が浸透してかなり硬い。1cm大までのパミスをごくまれに含む。

5　遺構

遺構は1トレンチ・2トレンチから溝状遺構と思われる落ち込みを検出した。しかし、平成7年7月21日～10月28日に行われた発掘調査では、それらに連続する溝状遺構を検出することはできなかった。したがって、試掘調査で検出した落ち込みは溝状遺構ではないと判断した。

6　遺物（Fig.12・Tab.4）

Ⅱ-1、Ⅱ-2層から陶器片・磁器片・土器片が数点出土した。Ⅲ-1層からは、須恵器の小片が1点、土器片が十数点出土した。Ⅲ-2層からは土器片が1点出土したにとどまる。1トレンチではⅣ層から遺物の出土を確認できなかったが、2トレンチでは、Ⅳ層の上部から土器片が集中して20数点出土した。Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層の砂層から遺物は出土しなかった。

以下に実測が可能であった遺物の説明を行う。

1は染付の皿と考えられる小破片で、内外面に貫入が見られる。2は陶器の皿の小破片で、内外面に貫入が見られる。3は薩摩焼の甕の小破片である。口縁端部は下方にやや突出し、口縁部上端面は無釉である。胴部には3条の沈線が施されている。4は茶家の蓋の小破片である。5は須恵器の胴部小破片である。傾き、器種、部位は不明である。3条の櫛描き波状文が確認できる。6は甕の口縁部小破片である。やや外反しながら立ち上がり、外面上部にはハケメが残る。「成川式」の笹貫タイプに比定できる。7は甕の脚端部の小破片である。8は突帯部の小破片である。9は寛永通宝で、カクラン土中からの出土である。直径2.3cm、孔の1辺は7mmを測る。いわゆる「ハ宝銭」で、裏は無文である。

7　まとめ

調査の結果、両トレンチで7枚の基本土層を確認した。Ⅱ層には近世以降に位置づけられる陶磁器片が比較的多く含まれていることから、郡元団地造成直前まで営まれていた水田層である可能性が強い。またⅡ層

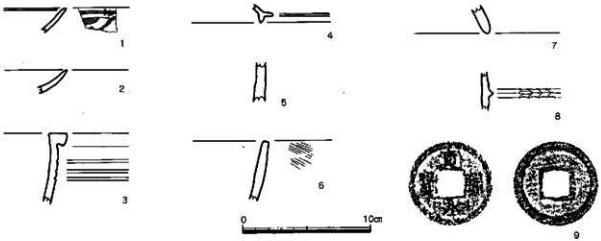


Fig.12　出土遺物　S＝1/3　　9:S＝1/1

Tab.4　出土遺物観察表

No.	種別	器種	出土層	色調・釉調	胎土・混入	調整・施文	備考
1	染付	皿？	1トレンチ，Ⅱ－2層	灰白色（7.5Y7/2）に発色．			内外面に貫入．
2	陶器	皿	1トレンチ，Ⅱ－2層	釉：透明．胎肉：灰白色（5Y8/2～5Y7/1）．		外面：回転ヘラケズリ？	内外面に貫入．
3	陶器焼	壺	2トレンチ，カクラン	釉：オリーブ黒色（5Y3/2）．胎：砂粒などほとんどふくまない．			口縁部上端面は施釉．
4	陶磁焼	茶家族	1トレンチ，Ⅱ－1層	釉：オリーブ黒色（7.5Y3/1）．胎：砂粒などふくまれない．胎肉：灰色（N5/）とオリーブ灰色（2.5GY5/1）の中間．		回転ナデ．	
5	須恵器	器種不明	1トレンチ，Ⅱ－1層	灰色（7.5Y6/1）．	2・3㎜大程度までの砂粒を含む．	外面：格状文，ヨコナデ．	種き不明．
6	瓦		2トレンチ，瓦層	にぶい黄橙色（10YR7/4）に発色．	1㎜程度までの砂粒多く含む．	外面：ハケ，下部はハケ後ナデ？	笹貝タイプ．
7	瓦		2トレンチ，瓦層	にぶい橙色（7.5YR7/4）に発色．	1㎜程度までの砂粒含む．	ナデ．	弥生前末～古墳時代．
8		器種不明	2トレンチ瓦層	外面：黒褐色（10YR3/1），内面：にぶい橙色（7.5YR6/4）と褐色（7.5YR6/6）の中間．	1㎜程度の砂粒，赤色粒子含む．	ナデ．	弥生～古墳時代，越前焼等．

の下にも水田層であると考えられるⅢ層があることから、比較的長期にわたって水田耕作が営まれていた可能性もある。２トレンチのⅣ層上部で土器片が集中的に出土した。Ⅳ層について、全体的な遺物出土量は少ないものの、古墳時代の土器の割合が高いことから、郡元団地に広く見られる古墳時代の包含層であると思われる。

本地点の遺物包含層の残り具合は良好であり、遺物の出土も見られた。したがって、本地点において現状変更が行われる場合は、事前に埋蔵文化財発掘調査が必要と考えられる[5]。

註

1）坪根伸也　1987「水町遺跡（鹿児島大学郡元団地内遺跡P-6・7地点）－鹿児島大学教育学部校舎新築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」鹿児島大学教育学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室．

2）坪根伸也　1987「第Ⅰ部　第３章　鹿児島大学郡元団地Q-6・7区における試掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅱ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室．

3）松永幸男　1989「第Ⅱ部　第２章　鹿児島大学郡元団地P-4・5区における試掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅳ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室．

4）大西智和　1995「付編Ⅰ．郡元団地P-4･5区（音楽美術科棟）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅸ・Ⅹ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室.

5）本書付編参照.

6）本地点における附属幼稚園舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成7年7月21日から10月28日まで行われた.

Ⅲ．3　郡元団地J･K-10･11区（工学部校舎建設予定地）における試掘調査

1　調査に至る経過

鹿児島大学では、工学部に大学院校舎の建設を予定している。建設予定地の周辺ではこれまでの調査結果によって、近世以前の河川跡[1]や古墳時代の包含層[2]、放射性炭素による年代測定で縄文時代中期に比定できる泥炭層[3]が確認されており、本地点でも埋蔵文化財が包含されていることが予想されるため、埋蔵文化財調査室によって試掘調査を実施することとなった。

2　調査の体制

調査は下記の体制で行われた。

所　在　地　鹿児島市郡元一丁目21番40号
調査期間　平成8年2月26日～3月8日
調査主体者　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
　室長　上村俊雄
調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
　室員　中村直子
発掘調査作業員　安倍松伊都子　上床久美子　脇カズ子　脇チリ子　脇トキエ

3　調査の経過

建設予定地の南側半分は旧校舎跡にあたり、かなり深い部分まで掘削されている可能性があった。そのため、旧校舎跡と接する場所にトレンチを設定することにした。建設予定地の北側に南北5m、東西1mのトレンチを東西に2カ所設置した。東側を1トレンチ、西側を2トレンチと呼称した（Fig.13）。

地表下約60cmを掘削した結果、両トレンチとも、トレンチ内の南側半分は旧校舎の跡だろうと考えられる既掘部分であることがわかった。そのため、北側半分のみをさらに下部まで掘り進めた。1トレンチは地表下2.8m、2トレンチは3.3mの掘削を行った。

その結果、両トレンチとも明確に遺構と判断できるものは検出されなかった。地山と考えられる砂層を確認したところで、掘削を終了し、層位断面図を作成した。また、1トレンチでは泥炭層が検出されたため、放射性炭素による年代測定のためのサンプリングを行い、調査を終了した。

4　層位（Fig.14）

基本土層は1トレンチが15層、2トレンチは7層を確認した。両トレンチの層位は様相が異なっており、対比させるのは難しかったため、それぞれ1層～15層、1層～7層と呼称した。以下、トレンチごとに層位の説明を行う。

1トレンチ

1層　客土。硬くしまり、貝殻を多く含む。
2層　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質砂。橙色（7.5YR6/8）の0.5cm大のパミスを含む。
3層　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）を基調とするシルト質砂。橙色（7.5YR6/8）の0.3cm大のパミスを含む。
4a層　黄褐色（2.5Y5/3）シルト質砂。軽石を含む。

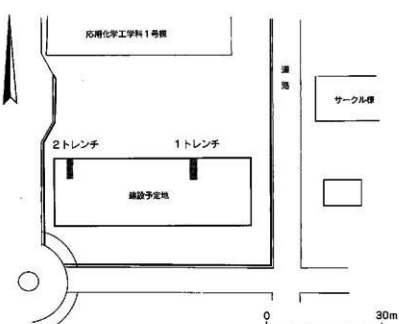
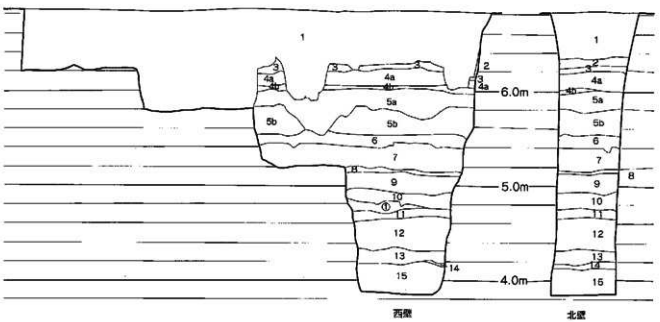
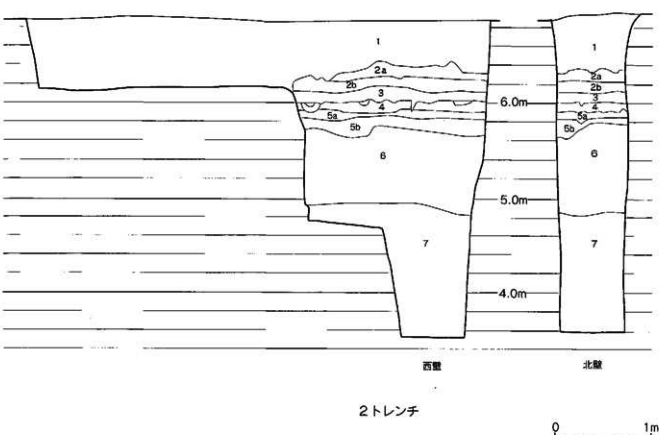


Fig.13　調査地点位置図　S=1/1000



1トレンチ



2トレンチ

Fig.14　層位断面図　S＝1/40

4b層　褐灰色（10YR5/1）シルト質砂。0.5cm大の軽石を含む。
5a層　黄灰色（2.5Y6/1）シルト質砂。0.5～1cm大の軽石を含む。明黄褐色（2.5Y6/6）の鉄分浸透。
5b層　黄灰色（2.5Y6/1）砂質シルト。0.5～1cm大の軽石を含む。黄褐色（10YR5/8）のマンガン浸透。
6層　灰黄褐色（10YR5/2）砂質シルト。0.5～1cm大の軽石を多く含む。黄褐色（10YR5/8）のマンガン浸透。
7層　褐灰色（10YR6/1）シルト質砂。0.5～1cm大の軽石を多く含む。黄褐色（10YR5/8）のマンガン浸透。
8層　灰黄色（2.5Y6/2）粘質シルト。黄褐色（10YR5/8）の筒状に固まった鉄分あり。
9層　褐灰色（10YR4/1）シルト質砂。0.5cm大の軽石少し含む。黄褐色（10YR5/8）の筒状に固まった鉄分あり。
10層　黒色（10YR1.7/1）粘質シルト。
11層　暗褐色（10YR3/3）シルト。
12層　上部：黒色（10YR2/1）泥炭。下部：極暗赤褐色（2.5YR2/3）泥炭。
13層　黒褐色（10YR2/2）泥炭。
14層　黄灰色（2.5Y4/1）泥炭と粗砂の混土。
15層　灰色（5Y4/1）粗砂。2cm大の礫混ざり。
①層　黄灰色（2.5Y6/1）粗砂。

2トレンチ

1層　客土。
2a層　明黄褐色（10YR6/8）シルト質砂。0.5cm大の軽石を含む。
2b層　明黄褐色（2.5Y6/6）砂混じりシルト質砂。0.5～1cm大の軽石を多く含む。
3層　暗黄褐色（2.5Y5/2）シルト質砂。暗赤褐色（5YR3/4）マンガン浸透。
4層　黒褐色（10YR3/1）シルト質砂。
5a層　黒褐色（7.5YR3/2）シルト。黄褐色（10YR5/8）パミスを少し含む。
5b層　黒褐色（10YR3/1）シルト質砂。黄褐色（10YR5/8）パミスを多く含む。
6層　黄褐色（2.5Y5/3）を基調とする粗砂。下部は浅黄色（2.5Y7/3）。はっきりとした境界はない。
7層　浅黄色（2.5Y7/3）を基調とする礫と粗砂の混土。

両トレンチとも出土遺物は土器片数点である。土器が出土した最下層は、1トレンチでは6層、2トレンチでは5層である。それぞれのトレンチの層位はかなり異なっているが、1トレンチ6層は2トレンチの4層、5層のどちらかに対応すると考えられるため、これらの層が遺物出土の最下層であることに矛盾はない。周辺の埋蔵文化財の調査を参考にすれば、2トレンチの4、5層は古墳時代の遺物包含層に類似している。

5　遺物（Fig.15）

出土遺物は土器片数点であった。以下、実測可能な遺物のみ図示し、説明を行う。

1は外面に細い縦位の突帯を張り付け、その上もしくは胴部に直接刺突文を斜めに施したものである。その文様から縄文時代の深浦式の胴部片であると考えられる。2は口唇部をヨコナデ調整によって少しくぼませ、外反気味に開く形態を呈する口縁部で、弥生時代終末期から古墳時代の甕形土器であると推定できる。3は断面がにぶい三角形状を呈する突帯で、ユビオサエのため少しゆがんでいる。粗雑な作りで、古墳時代の甕形土器の胴部片であると推定できる。

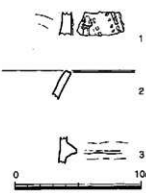


Fig.15　出土遺物　S=1/3

Tab.5　出土遺物観察表

No.	時期	器種	部位	トレンチ	層	色調・胎土	調整・施文	備考
1	縄文	深鉢	胴部	2	6	橙色,5YR7/4.	粗砂粒を多く含む．赤色粒．白色粒．	深浦式
2	古墳?	甕?	口縁部	1	6	灰白色，10YR 8/2.	砂粒を多く含む．	磨滅著しい
3	古墳	甕?	胴部突帯	2	3	にぶい橙色，10YR6/4．砂粒を多く含む．白色粒．		磨滅著しい

6　まとめ

1トレンチでは、6層から弥生時代終末期から古墳時代のものと考えられる土器が出土し、6層と同一層であると推定できる周辺の上層も古墳時代の遺物を主体とする包含層であることから、本地点の遺物包含層の上限は古墳時代であろうと推定できる。

12層から14層は、泥炭層であった。12層は上面から5㎝下がった部分をサンプリングし、放射性炭素年代測定を行った。そのけっか、3860±70B.P.という年代が得られた。この年代は、12層の下限をほぼ示していると考えられる。これは郡元団地とL-11･12区の調査で確認し、放射性炭素による年代測定で4410±90B.P.と測定された層位に類似しており、一帯に泥炭層が広がっていることが予想できる。

しかし、これらの地点にはさまれた位置にある2トレンチでは泥炭層は確認できず、逆に本調査区より東側に存在する古墳時代の包含層[4]に非常に類似した4･5層を確認できた。おそらく、2トレンチ周辺の旧地形は微高地になっていたと考えられるが、このような場所は古墳時代の住居跡などが存在していることが多く、周辺にこれらの遺構が存在している可能性が高い。

註

1）郡元団地G･H-9･10区
松永幸男1988「第Ⅱ部第2章　鹿児島大学郡元団地G･H-9･10区（電子計算機室増築地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅱ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

池畑耕一1991「付編Ⅲ　鹿児島大学電子計算機室新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（昭和58年度　鹿児島県教育委員会調査）」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅵ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

郡元団地H-11･12区
松永幸男・中村直子・黒木綾子・有馬孝一1992「付編Ⅱ　鹿児島大学郡元団地H-11･12区（工学部情報工学科校舎建設予定地）における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2）郡元団地H-11･12区
松永幸男・中村直子・黒木綾子・有馬孝一1992
中村直子・黒木綾子1993「付編Ⅰ　鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-11･12区、工学部情報工学科建設地発掘調査　河2出土遺物の紹介」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

3）郡元団地L-11･12区
大西智和1994「鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11･12区」『鹿児島大学福盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

4）郡元団地J･J-9･10区
松永幸男・坪根伸也1986「第Ⅳ章　昭和60年度鹿児島大学構内遺跡調査報告　1．郡元団地J･J-9･10区（理学部1号館増築地）の発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報1』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

郡元団地J-7区
本田道輝1986「Ⅰ　はじめに」『鹿児島大学郡元団地内遺跡（J-7地点）　鹿児島大学理学部公用車車庫改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』鹿児島大学理学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室

Ⅲ．4　立合調査

平成７年度には３件の立合調査を実施した。以下、各調査ごとに説明する。

95-A　農学部２号館前　アース線埋め込み工事に伴う立合調査（Fig.16）

アース線埋め込みのため、南北1.7m、東西75cm、深さ2.05mが掘削された。

１層　表土およびカクラン土層で、層厚は80cmを測る。

２層　にぶい褐色（7.5YR5/3）、褐色（7.5YR4/4）、灰褐色（7.5YR5/2）などを呈する細砂層。粘性はなく、２～３cm大のパミスを少量含む。

１層から礫岩の破片が少量出土した。２層は河川に伴う可能性がある。

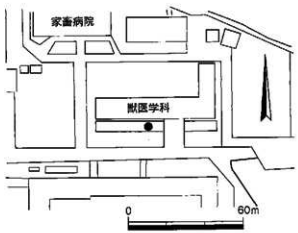


Fig.16　95-A調査地点　S＝1/2000

95-B　教育学部樹木移植工事に伴う立合調査（Fig.17）

掘削地点は教育学部の各地に及ぶ。なお、掘削個所

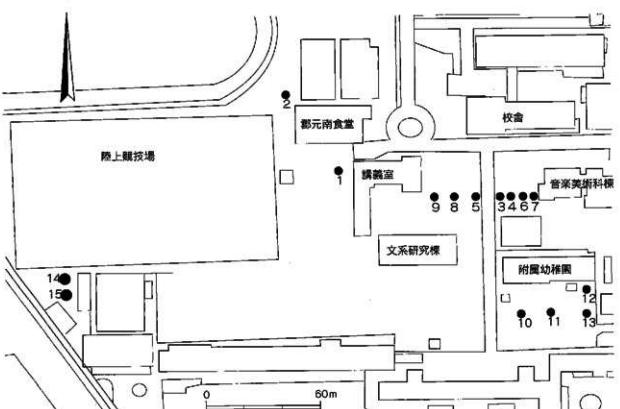


Fig.17　95-B調査地点　S＝1/2000

は1～15の数字で示している。

1地点　福利厚生施設の南側の地点である。南北約2.2m、東西約2.5m、深さ約1.5mが掘削された。

1層　表土および客土で、層厚は約1.15mを測る。土器片が1点出土した。

2層　水田層と考えられ、層厚は約15cmである。

2地点　福利厚生施設の北西側、武道場の西側の地点である。南北約2.4m、東西約2.9m、深さ約1.05mが掘削された。

1層　表土およびカクラン土層で、層厚は84cmである。土器片が1点出土した。

2層　水田層と考えられ、層厚は21cmである。2層の上から6cmくらいの所に、厚さ4cmの黄褐色シルト質砂が部分的に見られた。

3地点　3・4・6・7地点は教育実践研究センターの北側の地点である。No.3は南北2.7m、東西2.2m、深さ1.5mが掘削された。

1層　表土で、層厚は40cmを測る

2層　水田層と考えられ、層厚は12cmである。

3層　黄褐色を呈するシルト質土層で、層厚は4cmである。

4層　黒褐色を呈する層で、古墳時代の包含層と考えられる。層厚は20cmである。

5層　砂層で地山に相当する。

4地点　南北3m、東西2.1m、深さ約1.5mが掘削された。

1層　表土で、層厚は53cmを測る。

2層　水田層と考えられ、層厚は24cmである。

3層　明褐色を呈するシルト質土層で、層厚は2～4cmである。

4層　黒褐色を呈する層で、古墳時代の包含層と考えられる。層厚は約30cmである。

5層　砂層で地山に相当する。

5地点　5・8・9地点は教育実践研究センターの北西側の地点である。No.5は南北2.6m、東西2.1m、深さ約1.4mにわたって掘削されたが、掘削範囲はすべてカクラン土であった。

6地点　1辺2.5m、深さ約1.4mが掘削された。

1層　表土層で、層厚は66cmである。

2層　水田層と考えられ、層厚は10cmである。

3層　明褐色土層で層厚は3cmである。

4層　黒褐色土層で古墳時代の包含層と考えられる。層厚は40cmを測る。

5層　砂層で地山に相当する。

7地点　1辺2.5m、深さ約1.75mにわたって掘削された。4層上面で、北西－南東向きに幅約80cm、深さ約12cmの溝状遺構が検出された。埋土は褐灰色シルト質土である。

1層　表土層で、層厚は62cmを測る。

2層　黄褐色土層で、層厚は2cmである。

3層　明褐色土層で、層厚は5cmである。

4層　黒褐色土層で古墳時代の包含層と考えられる。層厚は55cmを測る。

5層　砂層で地山に相当する。

8地点　南北2.7m、東西3.2m、深さ約1.6mにわたって掘削されたが、掘削範囲はすべてカクラン土であった。

9地点　1辺約3m、深さ約1.7mにわたって掘削されたが、掘削範囲はすべてカクラン土であった。

10地点　1辺1.5m、深さ0.95mにわたって掘削された。

1層　表土および客土層で、層厚は50cmを測る。

2層　灰色を呈する土層で、水田層と考えられる。層厚は20cmである。

3層　同じく水田層と考えられるが、2層よりも赤みがかった色調を呈する。層厚は15cmである。

4層　黄褐色を呈する土層で、水田層と考えられる。10cmほど検出した。

11地点　1辺3.5m、深さ1.2mにわたって掘削された。なお、いずれの層からも出土遺物は確認できなかった。

1層　表土および客土層で、層厚は45cmを測る。

2層　灰色を呈するシルト質土層で、粘性を帯びている。1cm大程度までのパミスを含む。マンガンの浸透が見られ、水田層と考えられる。層厚は17cmである。

3層　灰褐色を呈するシルト質土層で、粘性をやや帯びている。0.5cm大程度のパミスを含み、マンガンの浸透が見られる。層厚は10cmである。

4層　黄褐色を呈するシルト質土層で、粘性を帯びている。2cm大程度までのパミス、1cm大までの黄色粒子を含む。層厚は11cmである。

5層　暗灰褐色を呈するシルト質土層で、粘性を帯びている。2cm大までのパミス、0.5cm大程度の黄色粒子を含む。下方ほど暗い色調を呈する。27cm検出したが、さらに下方に連続すると考えられる。

12地点　12・13地点は附属幼稚園内の遊具撤去に伴う掘削である。No.12は1辺約3m、深さ0.75mが掘削された。

1層　表土および客土層で、層厚は45cmである。

2層　灰色を呈する水田層で30cm確認したが、さらに下方に続くと思われる。

13地点　深さ60cmまで掘削された。

1層　表土で、層厚は30cmである。

2層　灰色を呈する水田層で30cm確認したが、さらに下方に続くと思われる。

14地点　深さ92cmまで掘削され、5層上面で住居跡が検出された。

1層　表土層で層厚は36cmを測る。

2層　水田層と考えられ、層厚は25cmである。1～2cm大の白色パミスを含む。

3層　明黄褐色を呈する土層で、水田層と考えられる。層厚は10cmを測る。1cm大の白色パミスや0.1～1cm大の明黄褐色パミスを含む。

4層　褐灰色を呈するシルト質土層で、層厚は8～11cmである。

5層　暗赤褐色を呈するシルト質土層である。10cmほどが確認されたが、さらに下部に連続している。

出土した遺物はいずれも素焼きの土器であった。小破片のものがほとんどであるが、以下に実測が可能であったものの概要を述べる（Fig.18・Tab.6）。

1は甕の口縁部小破片で、外反しながら立ち上がる。形態や外反の程度から古墳時代のものと考えられる。2は住居跡埋土出土の甕の底部である。下方は脚部との接合部分で剥離している。3は住居跡埋土出土の甕の底部である。比較的薄手で、形態などから古墳時代のものと推定できる。4は突帯部で、丸みを帯びている。器種は甕と考えられる。5も突帯部で、突帯の形状は三角形を呈する。6は突帯部であるが、器種は不明。突帯は三角形を呈し、浅くて幅の広い刻み目が施されている。7は壺の突帯部である。少なくとも2条の突帯が確認できる。突帯は丸みを帯びており、斜め方向に刺突が施される。

地点15　1辺約3m、深さ88cmにわたって掘削された。No.AもしくはNo.14と同様に、5層上面で住居跡が検出された。

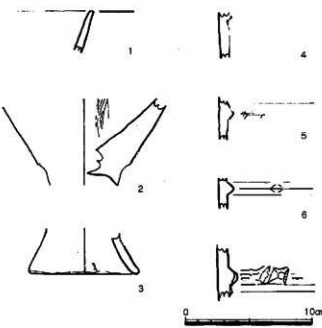


Fig.18　95-B14地点出土遺物　S=1/3

Tab.6　95-B14地点出土遺物観察表

No.	種別	器種	出土層	色調・触感	胎土・破胎	調整・施文	備考
1	弥	甕		外面：にぶい黄橙色（10YR6/4）に近似、内面：灰白色（10YR7/1）と褐灰色（10YR6/1）の中間.	1mm程度の砂粒を含む.	ナデ.	
2	弥	甕	住居跡埋土	浅黄橙色（7.5YR8/4）.	1mm程度の砂粒を含む.	ナデ.	
3	弥	甕	住居跡埋土	外面：にぶい橙色（5YR7/4）～黒褐色（5YR6/6）、褐灰色（5YR5/1）.	1mm程度の砂粒多く含む.	ナデ.	
4	弥?	甕?		橙色（7.5YR6/6）.	1mm程度の砂粒・白色粒子含む.	ナデ?	外面にスス付着.
5				にぶい黄橙色（10YR7/4）、断肉：褐灰色（10YR6/1）.	1mm程度の砂粒含む.		
6				にぶい黄橙色（10YR6/4）に類似.	2mm大程度台程度の砂粒礫を多く含む.	ナデ?	
7	弥	壺		外面：にぶい橙色（7.5YR6/4）、内面・断肉：褐灰色（5YR4/1）.	1mm大程度の砂粒多く含む.		

1層　表土層で、層厚は50cmを測る。
2層　水田層と考えられ、層厚は13cmである。0.5～2cm大の白色パミスを含む。
3層　明黄褐色を呈する土層で水田層と考えられる。層厚は9cmを測り、1cm大の白色パミス、0.2～1cm大の明黄褐色パミスを含む。
4層　褐灰色を呈する土層で、層厚は6cmである。1cm大の白色パミス、0.2～1cm大の明黄褐色パミスを含む。
5層　暗赤褐色を呈するシルト質土層である。10cmほどが確認されたが、まだ下部に連続している。

出土した遺物はいずれも素焼きの土器であった。小破片のため、器種が判明するものはなく、実測は行わなかった。

No.15、No.16では、住居跡が検出されたが、それ以下の掘削は行われないため、発掘調査は行わなかった。

95-C　中央図書館建築・設備工事事務所の仮設水道及び汚水管埋設工事に伴う立合調査（Fig.19）

屋内プールの西側が掘削地点である。●で示した地点は汚水管をマンホールに接続するため、他の掘削場所よりも深く掘られたため、ここで土層の観察を行った。

1層　表土層で、層厚は65cmを測る。
2層　灰褐色シルト質砂層で層厚10cmを測る。
3層　黒褐色シルト質砂層で、層厚15cmを測る。
3層から土器が1点出土している。

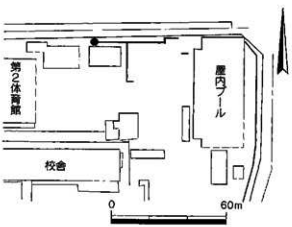


Fig.19　95-C調査地点　S＝1/2000

鹿児島大学構内遺跡調査要項

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

（設置）

第１条　本学に，鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議）

第２条　委員会は，本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

（１）基本計画の策定に関すること。

（２）調査結果に基づく対策に関すること。

（組織）

第３条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

（１）学長

（２）各学部長，教養部長，附属図書館長，医学部附属病院長および歯学部附属病院長

（３）事務局長

（４）学生部長

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，学長をもって充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（議事）

第５条　委員会は，委員の３分の２以上の出席をもって成立し，議事は出席委員の３分の２以上をもって決する。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことが出来る。

（調査委員会）

第７条　委員会は，本学の埋蔵文化財の調査を行なうため，埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置く。

第８条　調査委員会は次の事項を審議する。

（１）調査実施計画に関すること。

（２）第13条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

（３）第13条に規定する調査室の予算に関すること。

（４）その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関すること。

第９条　調査委員会は，次に掲げる委員をもって組織し，学長が任命する。

（１）各学部及び教養部の教授，助教授，講師の中から選任された者各１名

（２）第15条２項に規定する調査室長

２　前項第１号の委員の任期は２年とし，委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は，前任者の残任期間とする。

第10条　調査委員会に委員長を置き，前項第１項第１号の委員の中から互選により選出する。

２　委員長は委員会を招集し，その議長となる。

第11条　調査委員会は，委員の過半数の出席をもって成立し，議事は，出席委員の過半数をもって決する。

第12条　調査委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことができる。

（調査室）

第13条調査委員会に，本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

第14条　調査室は，次の業務を行なう。

（１）調査実施計画の立案

（２）発掘調査，分布調査及び確認調査

（３）調査報告書の作成

（４）その他必要な事項

第15条　調査室に，室長，主任及びその他必要な職員を置く。

２　室長は，本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し，学長が任命する。

３　室長は，調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

４　室長の任期は２年とする。ただし，再任を妨げない。

５　主任は，調査室の職員の中から，特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し，学長が任命する。

６　主任は，室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

７　職員は，調査室の業務に従事する。

（その他）

第16条　埋蔵文化財に関する事務は，事務局施設部において行なう。

付　則

1　この規則は，昭和60年４月18日から施行する。

2　この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は，第９条第２項及び第15条第４項の規定にかかわらず，昭和62年３月31日までとする。

3　鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則（昭和51年１月22日制定）は，廃止する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（平成７年４月１日現在）

委員長　早坂祥三（鹿児島大学学長）

委員　仲村政文（法文学部長）
伊牟田経久（教育学部長）
佐竹巌（理学部長）
田中弘充（医学部長）
吉村望（医学部付属病院長）
小方丘彦（歯学部長）
末田武（歯学部附属病院長）
前田明夫（工学部長）
橋口勉（農学部長）
茶園正明（水産学部長）
森本雅樹（教養部長）
冨田裕一郎（連合農学研究科長）
北板康志（事務局長）
辰村吉康（学生部長）
荒川譲（附属図書館長）

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成７年４月１日現在）

委員長　大木公彦（理学部助教授）

委員　渡辺芳郎（法文学部助教授）
日隈正守（教育学部助教授）
秋山伸一（医学部教授）
山下佐英（歯学部教授）
三隅浩二（工学部教授）
松本光春（農学部教授）
坂田泰造（水産学部助教授）
新田栄治（教養部教授）
上村俊雄（調査室長併任　法文学部教授）

鹿児島大学埋蔵文化財調査室（平成７年４月１日現在）

室長（併）　法文学部教授　上村俊雄

主任（併）　法文学部助手　中村直子
（併）　法文学部助手　大西智和
技術補佐員　古澤生
技術補佐員　峰山いづみ

受贈図書目録（1995年1月21日～1996年３月31日）

書名	発行所
単行書	
マンガで案内する　ハニワ工場公開	高槻市教育委員会
大阪市文化財論集	財団法人　大阪市文化財協会
出雲国風土記論究　上巻	島根県古代文化センター
グスク（城）の姿	鹿児島短期大学付属南日本文化研究所
逐次刊行物	
釧路市立博物館報　No.346	釧路市立博物館
釧路市立博物館報　No347	釧路市立博物館
釧路市立博物館報　No.348	釧路市立博物館
釧路市立博物館報　No.348	釧路市立博物館
釧路市立博物館報　No.350	釧路市立博物館
釧路市立博物館紀要　第19輯	釧路市立博物館
埋文あおもり　第14号	青森県埋蔵文化財調査センター
歴史人類　第23号 峰岸吉一学都宮大学考古学研究会会誌－第１０号	筑波大学歴史・人類学系 宇都宮大学考古学研究会
研究ノート　４号 年報１４　平成６年度	財団法人　炭城県教育財団 財団法人　実城県教育財団
資料館報　No.26 さきたま　No.7	埼玉県立さきたま資料館 埼玉県立さきたま資料館
君津都市文化財センター年報 No.12－平成５年度－	財団法人　君津郡市文化財センター
きみさらづ　－第６号－	財団法人　君津郡市文化財センター
きみさらづ　－第７号－	財団法人　君津郡市文化財センター
きみさらづ　－第８号－	財団法人　君津郡市文化財センター
シンポジウム よみがえる築本城跡－戦国動乱期城郭の謎にせまる－（築本城に見る房総の中世）	財団法人　東総文化財センター／光町教育委員会
平成4年度　市立市川考古博物館年報－第21号－	市立市川考古博物館
平成５年度　市立市川考古博物館年報-第２２号-	市立市川考古博物館
千葉県立房総風土記の丘年報１７－平成５年度－	千葉県立房総風土記の丘
千葉県立房総風土記の丘年報１８－平成６年度－	千葉県立房総風土記の丘
千葉県立房総風土記の丘だより　第28号	千葉県立房総風土記の丘
千葉県立房総風土記の丘だより　第30号	千葉県立房総風土記の丘
千葉県立房総風土記の丘だより　第31号	千葉県立房総風土記の丘
週刊農林　夏季特集号第1596号	農林出版社
年報１　平成５年度	財団法人かながわ考古学財団
神奈川の考古学の諸問題	神奈川県立埋蔵文化財センター
神奈川県立埋蔵文化財センター年報13　平成５年度	神奈川県立埋蔵文化財センター
神奈川の考古学の諸問題（２）	神奈川県立埋蔵文化財センター
長野県埋蔵文化財センター年報10　1993	（財）長野県埋蔵文化財センター
長野県埋蔵文化財センター年報11　1994	（財）長野県埋蔵文化財センター
長野県埋蔵文化財ニュース No.39	（財）長野県埋蔵文化財センター
長野県埋蔵文化財ニュース No.40	（財）長野県埋蔵文化財センター
長野県埋蔵文化財ニュース No.41	（財）長野県埋蔵文化財センター
長野県埋蔵文化財発掘調査要覧　その５　（昭和58年度～昭和61年度）	長野県教育委員会
金沢大学考古学紀要　第22号	金沢大学文学部考古学講座
岐阜市歴史博物館研究紀要第7号　1993年	岐阜市歴史博物館
岐阜市歴史博物館研究紀要第8号　1994年	岐阜市歴史博物館
岐阜市歴史博物館研究紀要第9号　1995年	岐阜市歴史博物館
博物館だより No.30 博物館だより No.31 博物館だより No.32	岐阜市歴史博物館 岐阜市歴史博物館 岐阜市歴史博物館
名古屋市博物館だより　104 名古屋市博物館だより　105 名古屋市博物館だより　106 名古屋市博物館だより　107 名古屋市博物館だより　108 名古屋市博物館だより　109 研究紀要　第３号 発掘ってなんだろう？	名古屋市博物館 名古屋市博物館 名古屋市博物館 名古屋市博物館 名古屋市博物館 名古屋市博物館 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター
平成6年度　三重県埋蔵文化財センター年報６	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋文センター通信　みえ　No.15	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋文センター通信　みえ　No.16	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋文センター通信　みえ　No.17	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋文センター通信　みえ　No.18	三重県埋蔵文化財センター
坂田郡文化財ニュース　佐加太　創刊号	滋賀県坂田郡社会教育研究会／文化財部会
坂田郡文化財ニュース　佐加太　第２号	滋賀県坂田郡社会教育研究会／文化財部会
坂田郡文化財ニュース　佐加太　第３号	滋賀県坂田郡社会教育研究会文化財部会

書名	発行所
埋もれた文化財の話　14　井戸とその祭祀	滋賀県埋蔵文化財センター
埋もれた文化財の話　15　水とマツリ－虎・蔵・滅罪－	滋賀県埋蔵文化財センター
埋もれた文化財の話　16　石の文化史－くらしの道具から石仏まで－	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第177号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第178号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第179号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第180号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第181号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第182号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第183号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第184号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第185号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第186号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第187号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第188号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第189号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第190号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース　第191号	滋賀県埋蔵文化財センター
京都府埋蔵文化財情報　第55号	財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都府埋蔵文化財情報　第56号	財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都府埋蔵文化財情報　第57号	財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都府埋蔵文化財情報　第58号	財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター
大阪市文化財情報速火　54号	（財）大阪市文化財協会
大阪市文化財情報速火　55号	（財）大阪市文化財協会
大阪市文化財情報速火　56号	（財）大阪市文化財協会
大阪市文化財情報速火　57号	（財）大阪市文化財協会
大阪市文化財情報速火　58号	（財）大阪市文化財協会
大阪市文化財情報速火　59号	（財）大阪市文化財協会
大阪市文化財情報速火　60号	（財）大阪市文化財協会
高槻市文化財年報　平成５年度	高槻市教育委員会
現地説明会資料－39　垂生間谷遺跡発掘調査	財団法人　大阪府埋蔵文化財協会
現地説明会資料－40　東奈良遺跡発掘調査	財団法人　大阪府埋蔵文化財協会
大阪府埋蔵文化財協会　研究紀要　3　－設立10周年記念論集－	財団法人　大阪府埋蔵文化財協会
平成６年度　（財）八尾市文化財調査研究会事業報告	財団法人　八尾市文化財調査研究会
枚方市文化財年報14（1992年度分）	財団法人　枚方市文化財研究調査会
枚方市文化財年報15（1993年度分）	財団法人　枚方市文化財研究調査会
財団法人　枚方市文化財研究調査会　研究紀要　第３集	財団法人　枚方市文化財研究調査会
ひらかた文化財だより　第21号	財団法人　枚方市文化財研究調査会

書名	発行所
ひらかた文化財だより　第22号	財団法人　枚方市文化財研究調査会
ひらかた文化財だより　第23号	財団法人　枚方市文化財研究調査会
ひらかた文化財だより　第24号	財団法人　枚方市文化財研究調査会
ひらかた文化財だより　第25号	財団法人　枚方市文化財研究調査会
ひらかた文化財だより　第26号	財団法人　枚方市文化財研究調査会
平成４年度　神戸市埋蔵文化財年報	神戸市教育委員会
城郭研究室年報　Vol.4　1994	姫路市立城郭研究室
城郭研究室年報　Vol.5　1995	姫路市立城郭研究室
兵庫県埋蔵文化財情報　ひょうごの遺跡　18号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
兵庫県埋蔵文化財情報　ひょうごの遺跡　19号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
兵庫県埋蔵文化財情報　ひょうごの遺跡　20号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
兵庫歴博ニュース　No.52・53	兵庫県立歴史博物館
文化財学報　第１２集 文化財学報　第１３集	奈良大学文学部文化財学科 奈良大学文学部文化財学科
島根県教育庁文化課　埋蔵文化財調査センター年報四　平成６年度	島根県教育委員会
島根県埋蔵文化財調査センター－ニュース　10号	島根県教育庁文化課埋蔵文化財調査センター
島根県埋蔵文化財調査センター－ニュース　１１号	島根県教育庁文化課埋蔵文化財調査センター
しまねの古代文化　第二号	島根県古代文化センター
古代文化研究　第３号	島根県古代文化センター
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第11号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第12号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第13号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第14号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山大学構内遺跡調査研究年報12　1994年度	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
自然科学研究所研究報告　第20号	岡山理科大学自然科学研究所
年報　第16号　－平成６（1994）年度－	広島県立歴史民俗資料館
広島県立歴史博物館ニュース　第22号	広島県立歴史博物館
広島県立歴史博物館ニュース　第23号	広島県立歴史博物館
広島県立歴史博物館ニュース　第24号	広島県立歴史博物館

書名	発行所
広島県立歴史博物館ニュース 第25号	広島県立歴史博物館
歴風　第11号	広島県立歴史民俗資料館／広島県立ふよし風土記の丘
歴風　第12号	広島県立歴史民俗資料館／広島県立ふよし風土記の丘
歴風　第13号	広島県立歴史民俗資料館／広島県立ふよし風土記の丘
地域文化研究　第10号	梅光女学院大学地域文化研究所
梅光女学院大学地域文化研究所通信 No.20	梅光女学院大学地域文化研究所
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅶ　平成6年度	松山市教育委員会／財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
古代むなかた史をさぐる	宗像市教育委員会
大分県埋蔵文化財年報3　平成5（1993）年度版	大分県教育委員会
ｕｓｍ QUARTERLY　No.35	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
ｕｓｍ QUARTERLY　No.36	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
ｕｓｍ QUARTERLY　No.37	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
ｕｓｍ QUARTERLY　No.36	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
ｕｓｍ QUARTERLY　No.37	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
ｕｓｍ QUARTERLY　No.38	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報　1994	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
大分市歴史資料館ニュース No.28	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース No.29	大分市歴史資料館
Ｆｕｎａｉ　府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報1	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館年報（平成6年度）	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース No.30	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース No.31	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース No.32	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース No.33	大分市歴史資料館
埋文だより　第7号	鹿児島県立埋蔵文化財センター
鹿児島大学南西地域研究委員会総合研究平成5・6年度	鹿児島大学南西地域研究資料センター
薩摩文化　第50号	鹿児島短期大学付属南日本文化研究所
薩流文化　第51号	鹿児島短期大学付属南日本文化研究所

書名	発行所
薩流文化　第52号	鹿児島短期大学付属南日本文化研究所
南九州縄文通信　No.8	南九州縄文研究会
鹿児島大学南西地域研究資料センター報告	南西地域研究資料センター
鹿児島大学南西地域研究資料センター報告 No.55	南西地域研究資料センター
隼人町立歴史民俗資料館　年報（第3号）平成4年度版	隼人町立歴史民俗資料館
隼人町立歴史民俗資料館　年報（第4号）平成5年度版	隼人町立歴史民俗資料館
上地・親志・都雲の民話	沖縄県読谷村教育委員会読谷村立歴史民俗資料館
第5回神交流会	沖縄県読谷村教育委員会文化振興課
沖縄県立博物館紀要第21号 沖縄県立博物館年報　No.28	沖縄県立博物館 沖縄県立博物館
読谷村立歴史民俗資料館紀要第19号	読谷村立歴史民俗資料館
読谷村立歴史民俗資料館年報第20号	読谷村立歴史民俗資料館

調査報告書

書名	発行所
中曽根遺跡発掘調査報告書	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
向館遺跡発掘調査報告書	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
倍田Ⅳ遺跡発掘調査報告書	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
黒内館・黒内堀遺跡発掘調査報告書	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
矢盛遺跡第1次発掘調査報告書	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
仙台市宮城地区大倉　遺跡範囲確認調査報告書	仙台市教育委員会
伊古田遺跡ー仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅲー	仙台市教育委員会
下ノ内浦遺跡ー第5次発掘調査報告書ー	仙台市教育委員会
富沢・泉崎浦・山口遺跡(8)	仙台市教育委員会
沢田遺跡	茨城県／財団法人　茨城県教育財団
小泉館跡	茨城県／財団法人　茨城県教育財団
於山遺跡	茨城県／財団法人　茨城県教育財団
野殿深作遺跡	茨城県教育委員会／財団法人　茨城県教育財団
（仮称）真壁町南雄尾地区住宅団地事業地内埋蔵文化財調査報告書	茨城県住宅供給公社／財団法人　茨城県教育財団
平出久保遺跡	茨城県土木部道路建設課／財団法人　茨城県教育財団

書名	発行所
一般国道６号（日立バイパス）改築工事地内埋蔵文化財調査報告書	建設省／財団法人　茨城県教育財団
研究学園都市計画板柳崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）	住宅・都市整備公団つくば開発局／財団法人　茨城県教育財団
土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　原出口遺跡	住宅・都市整備公団つくば開発局／財団法人　茨城県教育財団
文脇遺跡	財団法人　君津郡市文化財センター
一千葉県袖ヶ浦市大竹遺跡群調査報告書２－	財団法人　君津郡市文化財センター
嘉登遺跡・大竹長作古墳群	財団法人　君津郡市文化財センター
一千葉県袖ヶ浦市大竹遺跡群発掘調査報告書３－	財団法人　君津郡市文化財センター
上大城遺跡発掘調査報告書	財団法人　君津郡市文化財センター
戸崎城山遺跡３　Ｍ地点	財団法人　君津郡市文化財センター
上笙上谷遺跡	財団法人　君津郡市文化財センター
神田遺跡・神田古墳群	財団法人　君津郡市文化財センター
境遺跡第３次調査	財団法人　君津郡市文化財センター
逆輪寺遺跡２	財団法人　君津郡市文化財センター／宗教法人　護誠寺
請西遺跡群３　鹿島塚Ａ遺跡	財団法人　君津郡市文化財センター／木更津市請西第二土地区画整理組合
高城跡－発掘調査報告書－	財団法人　東総文化財センター
千葉県八日市場市亀田泥炭遺跡	千葉県八日市場市建設課／財団法人　東総文化財センター
市兵衛谷遺跡・新道遺跡 湘南藤沢キャンパス内遺跡情報基盤センター（仮称）	横瀬町教育委員会 慶應義塾湘南藤沢キャンパス埋蔵文化財調査団
舒明天皇押坂内陵の墳丘遺構／腰中天皇百舌鳥耳原南陵の墳丘外形及び出土品／平成五年度陵墓関係調査概要	陵墓課
中井町Ｎｏ．41遺跡 長津田遺跡群Ⅰ　中丸遺跡・玄海田西遺跡・長月遺跡	中井町遺跡調査団 財団法人かながわ考古学財団
青根上野田遺跡	財団法人かながわ考古学財団
宮ケ瀬遺跡群Ⅴ　馬場(No.6)遺跡	財団法人かながわ考古学財団
池子遺跡群Ⅱ No.1－Ｄ地点	財団法人かながわ考古学財団
神奈川県埋蔵文化財調査報告37	神奈川県教育委員会

書名	発行所
神道間遺跡	財団法人　岐阜県文化財保護センター
徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書第４集　戸入村平遺跡	財団法人　岐阜県文化財保護センター
徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書第５集　長者遺跡・普賢寺跡	財団法人　岐阜県文化財保護センター
内多馬場遺跡発掘調査報告書	安濃町教育委員会／安濃町遺跡調査会
昭和63年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告－第２分冊－	三重県教育委員会
鈴鹿市木田町舘城山遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
平生遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
一般国道23号中勢道路（９工区）道路建設事業に伴う門脇北古墳発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
一般県道穴倉南神山津線道路改良事業に伴う小屋城古墳群	三重県埋蔵文化財センター
地方特定道路上野大山田線道路改良事業に伴う高座遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ	三重県埋蔵文化財センター
南谷遺跡・福生遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査報告自然科学編Ⅰ	三重県埋蔵文化財センター
一般県道42号松阪・多気バイパス建設に伴う発掘調査概報Ⅴ	三重県埋蔵文化財センター
一般国道368号鈴鹿道路改良事業に伴う西横尾遺跡	三重県埋蔵文化財センター
一般国道23号中勢道路（９工区）道路建設事業に伴う西岡古墳発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
六地蔵Ａ遺跡・六地蔵Ｂ遺跡・高塚遺跡・東川遺跡	三重県埋蔵文化財センター
一般地方道亀山停車場石水渓線（交差点改良）整備事業に伴う大鹿遺跡発掘調査報告（Ｄ地点）	三重県埋蔵文化財センター
一般国道475号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ	三重県埋蔵文化財センター
鵜居堀内遺跡	三重県埋蔵文化財センター／亀山市教育委員会
京都大学構内遺跡調査研究年報　1992年度	京都大学埋蔵文化財研究センター
芥川遺跡発掘調査報告書－縄文・弥生集落跡の調査－	高槻市教育委員会
鳴上遺跡群19	高槻市教育委員会

書名	発行所
八三ワ工場公園　史跡今城塚古墳附	高槻市教育委員会
大阪市平野区長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅴ	財団法人　大阪市文化財協会
大阪市平野区長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅴ	財団法人　大阪市文化財協会
大阪市北区　天満本願寺跡発掘調査報告Ⅰ	財団法人　大阪市文化財協会
大阪市平野区長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅶ	財団法人　大阪市文化財協会
財団法人　八尾市文化財調査研究会報告42	財団法人　八尾市文化財調査研究会
財団法人　八尾市文化財調査研究会報告43	財団法人　八尾市文化財調査研究会
高安古墳群　大石古墳	財団法人　八尾市文化財調査研究会
西求女塚古墳　第5次・第7次発掘調査概報	神戸市教育委員会
上沢遺跡発掘調査報告書 多可郡黒田庄町岡遺跡	神戸市教育委員会 兵庫県教育委員会
多可郡中町石垣山古墳群　石垣山遺跡	兵庫県教育委員会
山崎山古墳群発掘調査報告	兵庫県教育委員会
川西市下加茂遺跡	兵庫県教育委員会
袋江遺跡群Ⅰ 初山館跡	兵庫県教育委員会 兵庫県教育委員会
柏原陣屋跡（奈良時代遺構の調査）	兵庫県教育委員会
佐用郡佐用町長尾・沖田遺跡（Ⅱ）　岡ノ平遺跡	兵庫県教育委員会
一一般国道375号鍛道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書15	兵庫県教育委員会
堂田・八反長発掘調査報告 国領遺跡（Ⅱ）　（川畑・遠町Ⅲ地区の調査）	兵庫県教育委員会 兵庫県教育委員会
相野古窯跡群 神戸市須磨区大田町遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会 兵庫県教育委員会
神戸市西区玉津田中遺跡－第4分冊－	兵庫県教育委員会
神戸市西区玉津田中遺跡－第3分冊－	兵庫県教育委員会
小野市高田小山ノ下遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
小野市小田城跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
多紀郡西紀町板井寺ケ谷遺跡－旧石器時代の調査	兵庫県教育委員会
多紀郡西紀町内場山城跡	兵庫県教育委員会
姫路市六角遺跡	兵庫県教育委員会
姫路市所在西脇古墳群	兵庫県教育委員会

書名	発行所
三木市別坂遺跡	兵庫県教育委員会
三木市加佐山城跡・慈眼寺山城跡	兵庫県教育委員会
三木市所在大池７号墳	兵庫県教育委員会
氷上郡氷上町所在大岡遺跡 御旅山15号墳	兵庫県教育委員会 姫路市教育委員会
森遺跡／板屋Ⅰ遺跡／森脇山城跡／阿丹谷辻拿跡	島根県教育委員会
松本古墳群	島根県教育委員会／建設省松江国道工事事務所
塩津山１号墳	島根県教育委員会／建設省松江国道工事事務所
遺跡が語る古代の安来	島根県教育委員会／建設省松江国道工事事務所
鏡浦４号墳他発掘調査報告書	島根県邑智郡瑞穂町教育委員会
長尾原遺跡発掘調査報告書Ⅰ	島根県邑智郡瑞穂町教育委員会
岡山大学構内遺跡調査研究年報11　1993年度	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
津島岡大遺跡－第6・7次調査－	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
安芸国祖田荘招田市の調査	広島県立歴史博物館
広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報XII	広島大学統合移転地埋蔵文化財調査委員会調査室
山口大学構内遺跡調査研究年報VII	山口大学埋蔵文化財資料館
十井ケ坂遺跡　第13次発掘調査報告書	豊北町教育委員会
桑原地区の遺跡Ⅱ－本文編・図版編－	松山市教育委員会／（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
福音小学校構内遺跡－弥生時代編－	松山市教育委員会／（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
吉照遺跡－第10・11次調査－	松山市教育委員会／財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
大峰ケ台遺跡－第４次調査－	松山市教育委員会／財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
辻町遺跡－２次調査地－	松山市教育委員会／財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
津福古賀畑遺跡 上津・藤光遺跡群Ⅰ	久留米市教育委員会 久留米市教育委員会
筑後国府跡　平成５年度発掘調査概要	久留米市教育委員会
安武地区遺跡群Ⅲ	久留米市教育委員会
上津・藤光遺跡群　上津・藤光土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要	久留米市教育委員会
神道遺跡第15次調査	久留米市教育委員会
大善寺北部地区遺跡群Ⅲ	久留米市教育委員会

書名	発行所
日渡遺跡	久留米市教育委員会
ヘボノ木遺跡　平成５年度発掘調査概要	久留米市教育委員会
野中三十六遺跡	久留米市教育委員会
津福西小路遺跡	久留米市教育委員会
久留米城外郭　佐々木家城敷跡	久留米市教育委員会
東部地区埋蔵文化財調査報告書　第13集	久留米市教育委員会
ヘボノ木遺跡　平成６年度発掘調査概要	久留米市教育委員会
安武地区遺跡群Ⅵ	久留米市教育委員会
大善寺北郷地区遺跡群	久留米市教育委員会
筑後国府跡　発掘調査概報 平成６年度久留米市内遺跡群	久留米市教育委員会 久留米市教育委員会
九州大学埋蔵文化財調査報告－九州大学筑紫地区遺跡群－	九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室
シルクロードによって結ばれた，中国新疆地区と我が国九州地区との比較考古学的研究	九州大学文学部考古学研究室
平等寺向原Ⅰ	宗像市教育委員会
王丸清勢　福岡県宗像市王丸所在遺跡の発掘調査報告	宗像市教育委員会
王丸清勢Ⅱ　福岡県宗像市王丸所在遺跡の発掘調査報告	宗像市教育委員会
八所宮　福岡県宗像市吉留所在遺跡の発掘調査報告	宗像市教育委員会
富地原上原ノ前－福岡県宗像市富地原所在遺跡の発掘調査	宗像市教育委員会
富地原川原田Ⅰ　福岡県宗像市富地原所在遺跡の発掘調査報告	宗像市教育委員会
三池集治監跡	大牟田市教育委員会
将田遺跡－小城郡三日月町所在－	佐賀県三日月町教育委員会
織島西分遺跡群Ⅰ	佐賀県三日月町教育委員会
織島西分遺跡群Ⅱ	佐賀県三日月町教育委員会
織島東分下遺跡Ⅰ	佐賀県三日月町教育委員会
「玄海幹線」工事に係る文化財確認調査	唐津市教育委員会
唐津市内遺跡確認調査（10）	唐津市教育委員会
徳富谷遺跡（２）	唐津市教育委員会
湊松本遺跡（２）	唐津市教育委員会
寿古遺跡　県営圃場整備事業	大村市文化財保護協会
富の原遺跡 神田遺跡	大村市文化財保護協会 長崎県大村市／神田遺跡調査会
富松神社 寿古遺跡	長崎県大村市教育委員会 長崎県大村市教育委員会
円融寺 双鳥崎古墳群	長崎県大村市教育委員会 長崎県大村市教育委員会
富の原遺跡・小佐古石棺墓群Ｂ地点Ⅱ発掘調査報告書	長崎県大村市教育委員会
熊本大学埋蔵文化財調査室年報第１集 用見崎遺跡	熊本大学埋蔵文化財調査室
一般国道10号徳山バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書（６）森山遺跡	大分県教育委員会

書名	発行所
大分の装飾古墳	大分県教育委員会
河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡	大分県教育委員会
日田市高瀬遺跡群の調査１ 城和神社裏遺跡／後藤家墓地／陣ケ迎辻原遺跡／高瀬深ノ田遺跡	大分県教育委員会
史跡岡城跡Ⅸ　平成6年度史跡岡城跡保存修理事業報告書	竹田市教育委員会
史跡岡城跡Ⅹ　平成6年度史跡岡城跡保存修理（災害復旧）事業報告書	竹田市教育委員会
史跡岡城跡周辺遺跡群竹田地区南部遺跡群Ⅵ	竹田市教育委員会
戸上遺跡・小隅遺跡・大塚遺跡	竹田市教育委員会
野田家屋敷跡 牟礼越遺跡	竹田市教育委員会 別府大学付属博物館
神埋遺跡／ホヤ池窯跡　1994年度中津地区遺跡群発掘調査概報（Ⅶ）	中津市教育委員会
幣旅塚古墳１号墳	中津市教育委員会
月見崎遺跡	熊本大学文学部考古学研究室
野久首遺跡・平原遺跡・妙見遺跡	宮崎県教育委員会
九谷地区遺跡群　七大五郎遺跡	都城市教育委員会
天城遺跡・下鳥権遺跡	伊仙町教育委員会
鹿児島県文化財調査報告書第41集	鹿児島県教育委員会
鹿児島サン・オーシャン・リゾート地域埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）	鹿児島県教育委員会
北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（Ⅳ）	鹿児島県教育委員会
歴史の道調査報告書第三集　海の道	鹿児島県教育委員会
西丸尾Ｂ遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
針原遺跡（伝河上氏墓跡）	鹿児島県立埋蔵文化財センター
平松城跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
本郷内遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
飯盛ケ岡遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
甲突川川底遺跡－玉江橋下－	鹿児島市教育委員会
平田尻遺跡・祝原遺跡	鹿児島県加世田市教育委員会
栴ノ原遺跡	鹿児島県加世田市教育委員会
別府城跡	鹿児島県加世田市教育委員会

書名	発行所
干河原遺跡	鹿児島県加世田市教育委員会
干河原遺跡	鹿児島県加世田市教育委員会
岡泉（IX）遺跡 柿迫（II）遺跡	鹿児島県鹿屋市教育委員会 鹿児島県鹿屋市教育委員会
松の園（I）遺跡 前畑（III）遺跡	鹿児島県鹿屋市教育委員会 鹿児島県鹿屋市教育委員会
中ノ原（II）遺跡 中ノ原（III）遺跡	鹿児島県鹿屋市教育委員会 鹿児島県鹿屋市教育委員会
中ノ原（IV）遺跡・大浦（II）遺跡	鹿児島県鹿屋市教育委員会
山元古窯跡	鹿児島県姶良郡加治木町教育委員会
木場A遺跡2	鹿児島県姶良郡隼野町教育委員会
山野原遺跡 石神原B遺跡	金峰町教育委員会 金峰町教育委員会
河内原遺跡　山野原遺跡第1次調査　小中原遺跡第2次調査　小中原遺跡第3次調査	金峰町教育委員会
立馬遺跡	鹿児島県曽於郡大隅町教育委員会
鳴神遺跡	鹿児島県曽於郡大隅町教育委員会
江内貝塚	鹿児島県出水郡高尾野町教育委員会
ウフタ遺跡 京ノ峯遺跡	龍郷町教育委員会 鹿児島県曽於郡松山町教育委員会
境之原遺跡（江戸時代前半期を中心とする）	鹿児島県知覧町教育委員会
枕崎市立立神中学校（仮称）予定地内の埋蔵文化財発掘調査報告　二本木遺跡	鹿児島県枕崎市教育委員会
県営特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業報告　陵ノ下遺跡	鹿児島県枕崎市教育委員会
松尾城及び泉助寺跡（2）	鹿児島県宮之城町教育委員会
諏訪原遺跡（公営住宅建設計画に伴う発掘調査）	鹿児島県宮之城町教育委員会
南日本文化－1994年度　調査報告－　第28号	鹿児島短期大学付属南日本文化研究所
久米島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築－	沖縄県立博物館

図録・目録

歴史資料目録（5）－生活・産業資料－	釧路市立博物館
第1回企画展　縄文土器の生～縄文人の技術を探る～	上高津貝塚ふるさと歴史の広場
最古埴　第部人と神と水と第II部調のくらし	上高津貝塚ふるさと歴史の広場

書名	発行所
財団法人　東聡文化財センター調査 平成7年度企画展展示図録　住まいと集落	財団法人　東聡文化財センター 千葉県立房総風土記の丘
眠りからさめた古代－第一東海自動車道遺跡発掘調査成果展－	財団法人　かながわ考古学財団
甦る池子の歴史－池子遺跡群発掘調査の記録－	財団法人　かながわ考古学財団
赤い土器のクニ	（財）長野県埋蔵文化財センター
第15回三重県埋蔵文化財展　考古資料にみる神とその周辺	三重県埋蔵文化財センター／津市教育委員会
第4回三重県埋蔵文化財発掘調査速報展　'94発掘三重	三重県埋蔵文化財センター
１０年のあゆみ	財団法人　大阪府埋蔵文化財協会
青銅鏡　卑弥子から浮世絵まで	神戸市教育委員会
企画展示「海辺の古墳」	神戸市教育委員会／神戸市埋蔵文化財センター
地下に眠る神戸の歴史展　X	神戸市教育委員会／神戸市埋蔵文化財センター
雀茶山とその世界－貴族夕陽文塚を中心に－	広島県立歴史博物館
秋の企画展　茶・花・碧－中世にうまれた生活文化－	広島県立歴史博物館
考古企画展　弥生のかたち－土器が語る弥生時代のひろしま－	広島県立歴史民俗資料館
平成7年度特別企画展　古墳誕生の謎をさぐる－特殊器台からはにわへ－	広島県立歴史民俗資料館
別府大学付属博物館展示資料図録　１９９５	別府大学付属博物館
第13回特別展　豊かなる海瀬戸内と豊後	大分市歴史資料館
第14回特別展「城のある風景」図録　豊後府内城	大分市歴史資料館
宇宿貝塚発掘写真集	笠利町教育委員会
磯谷村立歴史民俗資料館開館20周年記念　企画展　磯谷山花絵展	磯谷村立歴史民俗資料館

地図

隼人町文化財分布図	隼人町教育委員会

研究成果報告書

名古屋大学加速器質量分析計業績報告書（VII）	名古屋大学年代測定資料研究センター
日本古代の葬制と社会関係の基礎的研究	大阪大学文学部

付　　編

郡元団地Ｐ－５区（教育学部教育実践研究指導センター建設地）における発掘調査

付　編　郡元団地Ｐ－５区（教育学部教育実践研究指導センター建設地）における発掘調査

１．調査に至る経過

鹿児島大学では，教育学部に教育実践研究指導センターの建設が計画された。建設予定地は，昭和59年度に発掘調査が行われた水町遺跡[1]の約30m東側，平成４年度に発掘調査を行った郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）[2]の約90m南東側、P-4･5区（音楽美術科棟建設地）[3]の約20m西側に隣接しており、これらの調査結果から古墳時代を中心とする埋蔵文化財の存在の可能性が高いと推定できたため、調査を行うことになった。

２．調査の体制

調査は下記の体制で行われた。

所在地　鹿児島市郡元一丁目20番6号
調査期間　　平成５年10月12日～12月24日
調査主体者　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
　室長　上村俊雄
調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
　室員　中村直子・前幸男・峰山いづみ
発掘調査作業員　安倍松伊都子・池口洋人・石谷トキエ・畏谷ミエ子・岩戸エミ子・岩戸トシ子・岩戸ミツ子・上地博・請園アキエ・請園チリ・坂口ミエ子・寺光ミツ子・末吉ナミ・末吉ミヤ・末吉サチ子・園訪田フサエ・谷口ノリ・谷村勝・趙国輿・名越ヒデ子・西庄司・野下ヨシエ・野下チリ子・平美典・福永シノブ・福永花江・星野恵美・牧島知子・増満ミエ子・松下ミチ・松村恵子・盛満アイ子・柳田キミ子・柳田二三子・横手浩二郎・脇ツルエ

３．調査の経過

重機によって表土層（地表下30～40cm）の除去を行い、２層以下を手作業によって掘り下げた。

調査区は、５ｍごとのグリットを東から西へ①～⑥、北から南へａ～ｄと設定し、中央部分に土層観察のための南北方向のベルトを残した。調査は層ごとに遺構を確認しながら行った。２層を除去した面でSD1･2を検出したが、その東側と西側ではSD1･2の検出面から６層上面までの土層が異なったため、西側をⅣ・Ⅴ層、東側を3a･3b･3c層とした。

遺物は、No.を付して出土地点を測量しながら取り

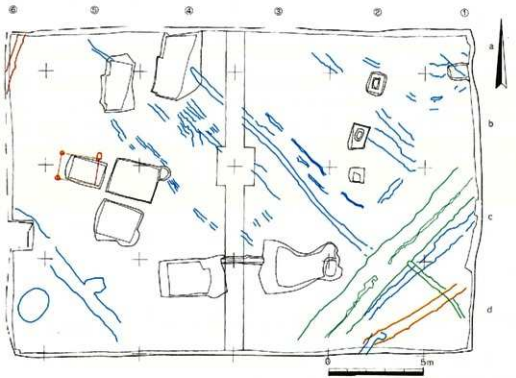


Fig.20　遺構平面図　S＝1/200（緑：Ⅳ・Ⅴ層上面，青：６層上面，赤：７層上面遺構）

上げた。遺構は、Ⅳ層・Ⅴ層上面で溝状遺構、6層上面で溝状遺構、畝状遺構、土壙、7層上面からピット群と溝状遺構を確認したが、それぞれに平面形や断面形および埋土などの写真撮影と実測を行った。

本調査地点では地山である7層が全面に露出した段階で掘削作業を一応終了したが、中央の南北ベルト部分の層位断面図を作成した後、ベルト部分の掘削を遺構確認や遺物を取り上げながら行い、最後に南壁と南北ベルト西壁の層位断面図を作成し、調査を終了した。

4．層位 (Fig.21)

調査の対照となったのは、地山である砂層上面の地表下約1.2mの深さまでで、基本層位は1層から7層までのを確認し、これらを12に分層した。これらはほぼ水平に堆積しており、2～6層が遺物包含層、7層が地山の砂層である。特に、3c層と6層から出土する遺物の出土が多かった。以下、その説明を行う。

1層　表土

2層　暗灰黄色（2.5YR5/2）砂まじりシルト。1cm大の軽石を含む。

3a層　2層土に明黄褐色（2.5YR6/8）の鉄分浸透。

3b層　灰黄褐色（10YR4/2）砂まじりシルト。0.5～1cm大の軽石を含む。

3c層　褐灰色（10YR4/1）砂まじりシルト。0.5～1cm大の軽石を含む。

Ⅳ層　黄褐色（2.5YR5/4）砂まじりシルト。1cm大の軽石を含む。

Ⅴ層　暗黄褐色（10YR6/8）粗砂まじりシルト。0.5～2cm大の軽石を含む。

6層　黒褐色（10YR2/2）シルト。上部は鉄分浸透のため硬く褐色を帯びる。

7層　灰黄褐色（10YR4/2）粗砂。3cm大の軽石を多く含む。

南西方向に旧地形が傾斜しており、南西部ほど3b・3c・6層が厚くなっている。

5．遺構および遺構出土遺物

遺構は、3・Ⅳ層上面でSD1・SD2、Ⅴ層上面でSD3、6層上面でSD4～11・25・畝状遺構（SD12～22）・SK1・ピット1基、7層上面でSD23・24、ピット266基を検出した。7層上面検出のピットの中で、杭列状に並ぶものと、掘立柱建物跡と考えられるものがある。以下、検出面ごとに遺構および出土遺物の説明を行う。

(1) 3・Ⅳ層上面検出遺構 (Fig.22)

2層を除去した面でSD1・2の平面ラインを確認したが、検出面ではSD1・2とも埋土が類似しており、最初は1条の溝状遺構として掘削作業を行った。掘り下げの結果、これらが2条の平行する溝であることがベルトの埋土観察で判明したため、SD1・SD2とした。

SD1 (Fig.23)

調査区の東南部に南西－北東方向に位置する溝状遺構である。SD2と平行し、SD2の東側を切っている。幅120cm、深さ95cmを測る。底面はほぼ平坦で、埋土は3つに分層できる。

埋土①　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト。5cm大の軽石を多く含む。

埋土②　黄橙色（10YR7/8）粗砂層。

埋土③　灰黄色（2.5Y7/2）粗砂層。軽石礫を含む。

遺物は陶磁器のほか、瓦やガラス瓶やガラス製のインク瓶などがあり、近代のものであると考えられる。

出土遺物 (Fig.24～26・Tab.7～9)

SD1からは陶磁器、瓦、煉瓦、須恵器、土器、ガラスが出土している。

1～9は染付の口縁部である。1～3・8は碗である。7・9はプリントによる施文で、9は印判手である。10～16は底部で、高台を持つ。14は見込みと外面に文様を施している。15は見込みに重ね焼きの跡と思われる環状の無釉部があり、その周囲は釉が溜条に盛り上がっている。17・18は染付の小碗である。18は印壁手だが、文様が一部ぼけている。19～28は染付の皿または浅鉢である。23はスタンプ文である。24は口縁部にくぼみをつけ、花弁状を呈する。29～34は磁器の口縁部である。29～31は碗で、32～34は口縁部を少し外反させている。35・36・37・38は青磁である。37は非常に釉が厚い。39は灰色を呈し、半磁器の碗の口縁部である。40～66は陶器である。40・41は皿である。40の見込み部は環状に釉が剥がれており、重ね焼きの跡と考えられる。42は底部が無釉である。43は端部が細く尖った脚で、胴部の釉が脚部まで流れている。

44・45は口縁部である。44は口縁部が玉縁状を呈する。46～48は短く直立する口縁部で、茶家または壺であろう。49は底部で、底面中心部にスタンプで「芳」と刻印されている。50～52は鉢の底部と考えられるが、いずれも外面にススが付着しており、二次的加熱を受けている。53～60は深鉢である。53～56は口縁部で口縁部上面の釉が拭き取られている。60は擂鉢である。かなり磨滅しているが、釉は施されていない。61は壺

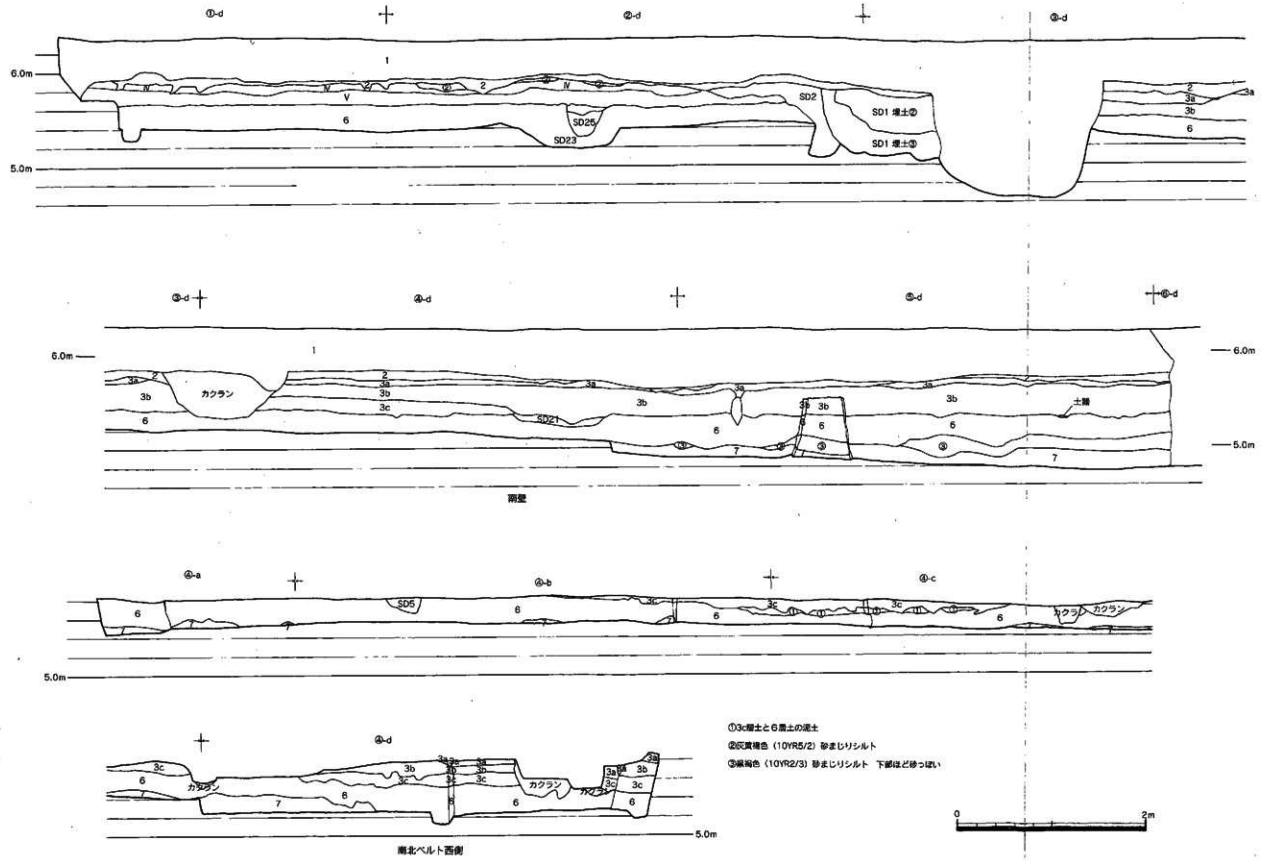


Fig.21 層位断面図 S＝1/40

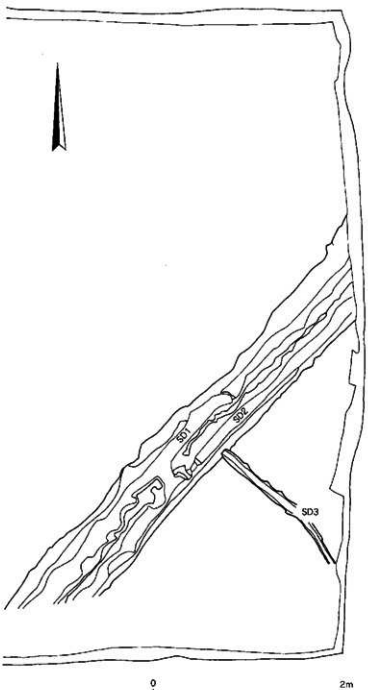


Fig.22　Ⅳ層・Ⅴ層上面検出遺構図　S＝1/40

64～66は蓋である。天井部のみ施釉している。

67はガラス瓶の口縁部である。緑がかった青色を呈し、口縁部が一カ所、窪んでいる。

68は陶器の碗であると考えられるが、残存部には釉は施されていない。内面には見込みの中心部から轆轤引きによる稜線が螺旋状に付いている。

69・70は弥生土器の甕の口縁部である。69は口唇部は丸く、ゆるく「く」の字に屈曲しており、内面には明瞭な稜線がある。71は古墳時代の甕の脚台である。脚台が高く、脚台内面の天井部が胴部丸みにあわせて落ち込んでいる。72は壺の口縁部である。湾曲しながら外反する器形を呈する。

SD2 (Fig.23)

調査区の東南部に位置し、SD1に平行し、東部分がSD1によって切られている。現存している幅は70cm、深さ80cmである。埋土はにぶい黄褐色（10YR 5/3）シルトを基調とし、下部には粗砂層が縞状に混ざっている。

出土遺物はSD1と類似しており、また、同一個体と推定できる磁器の破片がSD1・SD2両方の埋土に含まれていたことから、ある時期は両者とも機能していた時期があったとも考えられる。

出土遺物 (Fig.27)

SD2からは陶磁器と土器を出土している。73～78は磁器である。73・74は染付の口縁部である。75は赤絵の碗で、SD1から出土した32と同一個体であると考えられる。77も赤色の細い線によって汽船のような模様が施されている。78は青磁の小鉢である。段になった底部外面には四角い突起を貼り付けている。79は陶器の皿である。見込みに環状に釉をふき取っている。80は陶器の鉢の底部である。底面には、糸切り痕が認められる。81・82は陶器の深鉢の口縁部である。いづれも口縁部上面の釉を拭き取っている。83は蓋である。天井部の突起部分から中心部のみ釉をほどこされている。84はガラスの瓶の底部である。表面に「迩元金□□」とい

の扇部である。外面には2条の凹線が巡らされ、内面には明瞭な接合痕が認められる。62は燭台の底部である。底面には糸切り痕が残っている。63は仏飯具の脚台で、底面は上げ底である。杯部内面に白い砂粒が付着している。砂目であろう。

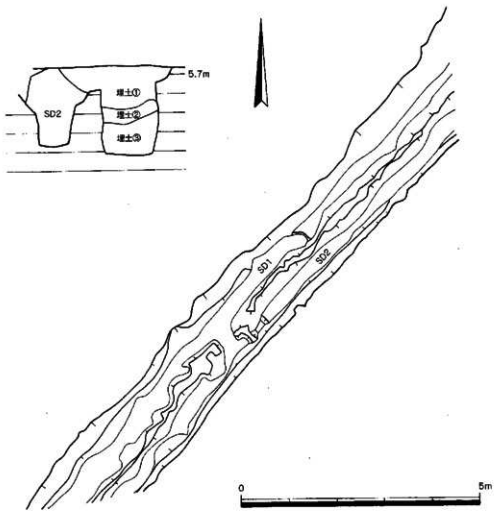


Fig.23　SD1・SD2　平面：S=1/80　断面：S=1/40

う凸文が認められる。85は高坏の脚部である。杯部との接合部の接合痕で欠損している。非常に磨滅している。

(2) V層上面検出遺構

V層はSD1・2よりも東側に広がる土層だが、V層上面から検出した遺構はSD3のみである。

SD3 (Fig.28)

調査区南東部に位置し、SD2に直交し、東側は少し南よりに屈曲している。西端はSD2に切られているようであるが、SD1より西側にSD3が延びていないため、SD1・2付近で終わっている可能性がある。幅は約20cm、深さは5cmをはかる。埋土は、黄褐色（2.5YR 5/4）砂まじりシルト（Ⅳ層土）である。

遺物は出土していない。

(3) 6層上面検出遺構 (Fig.29)

6層上面にはSD4～SD11・25・畦状遺構（SD12～SD22）、SK1である。SD4とSD9・SD25は北東－南西方向にのび、それ以外は北西－南東方向と、互いに直交している。

SD4 (Fig.30)

調査区南東部に位置し、北東－南西方向にのびる。幅70～30cmで、深さは7cmほどで非常に浅い。埋土は灰黄褐色（10YR4/2）シルトを基調とするが、粘性はあまりない。明黄褐色（10YR6/8）のパミスを含む。

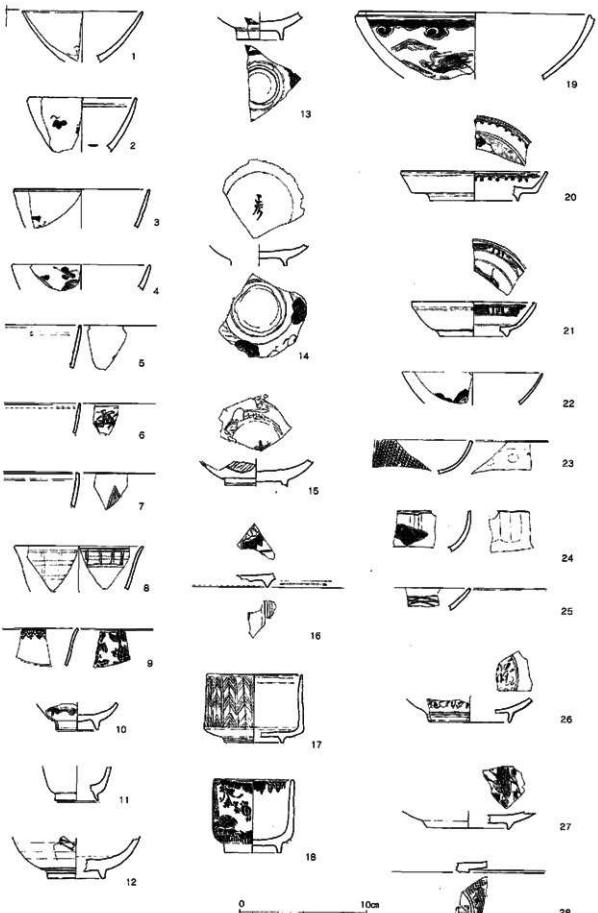


Fig.24 SD1出土遺物 (1) S=1/3

Tab.7　SD1出土遺物観察表（1）

図番号	遺	種別	器種	色調・胎調	胎　土	調　整	備　考
1	SD1③	陶付	碗	白色，透明釉．	白色．	外面：濃紺の呉須による施文．口径（9.55）cm．	
2	SD1③	染付	碗	灰白色，透明釉．	灰白色．	緑色を帯びた呉須による施文．口径（8.6）cm．	
3	SD1③	染付	碗	青白色，透明釉．	白色？（鉄分付着のため不明）．	外面：青灰色10BG6/1の呉須による施文．口径（10.8）cm．	
4	SD1③	染付	碗	わずかに青みを帯びた透明釉．	灰白色．	外面：青灰色の呉須による施文．口径（10.95）cm．	
5	SD1③	染付	碗	白色，透明 釉	白色．	外面：文様一重？型形時のわずかな凹凸が残る．内面：二条の圏線	
6	SD1③	染付	碗	透明釉．貫入有り．	白色．	外面：口縁部一条の圏線と崩線下に濃紺の呉須による施文．内面：口縁部釉ふき取り．	
7	SD1③	染付		白色，半透明釉．	白色．	外面：青色の呉須による施文．内面：口縁部釉ふき取り．	
8	SD1③	染付	碗	白色，半透明釉．	白色？（鉄分付着のため不明）．	明青灰色5 B 7/1の呉須による施文．	口径（10.2）cm．
9	SD1③	染付	碗	透明釉．	白色？（鉄分付着のため不明）．	紺青色の呉須による施文．スタンプ．	
10	SD1③	染付	碗	青みがかった透明釉．	白色．	緑灰色10GY6/1の呉須による施文．	底径（3.38）cm．
11	SD1	染付	碗	白色，半透明釉．	白色？（鉄分付着のため不明）．	外面：腰部青色の呉須による線画文．	底径（3.4）cm．
12	SD1③	染付	碗	透明釉．	灰白色N7/1．微砂粒を少し含む．	外面：暗緑灰色10GY 4/1の呉須による施文．	底径（4.55）cm．
13	SD1③	染付	碗	青みを帯びた透明釉．	灰白色．	外面：紺色の呉須による施文．内面：うすい青色の呉須による施文．	底径（3.7）cm．
14	SD1③	染付	碗	青みを帯びた透明釉．	灰白色．	外面：紺色の呉須による施文．	外面見込み部径4.4cm．
15	SD1③	染付	碗	灰白色．	灰色を帯びた白色．	青灰色10GY6/1の呉須による施文．内面：見込み部輪が盛り上がり、櫛条の突起になっている．	外面見込み部径（4.95）cm
16	SD1③	染付	杯	透明釉．	白色．	紺色の呉須による施文．	
17	SD1③	染付	小碗	白色，透明 釉	白色．白色の微砂粒を少し含む．	紺色の呉須による施文．	口径（7.6）cm．
18	SD1	染付	小杯	透明釉．	灰白色．微砂粒を含む．	暗青色の呉須による施文．一重弧文様が1ぼけている．スタンプ文．	口径6.4cm．底径4.5cm．器高5.8cm．
19	SD1③	染付	鉢	透明釉．	白色．	青い呉須による施文．受部は施文．	口径（18.8）cm．
20	SD1③	染付	杯	透明釉．	白色．	鮮やかな青い呉須による施文．	口径（11.6）cm．底径（7.1）cm．器高2.35cm．
21	SD1③	染付	杯	少し青みを帯びた透明釉．	灰色を帯びた白色．	少し緑色を帯びた青灰色の呉須による施文．	口径（9.8）cm．底径（5.4）cm，器高2.7cm．
22	SD1③	染付	碗	透明釉．	白色？（鉄分付着のため不明）．	暗青色の呉須による施文．スタンプ文．	口径（11.0）cm．
23	SD1③	染付	杯	透明釉．	白色？（鉄分付着のため不明）．	暗青色の呉須による施文．スタンプ文．口縁部のみオリーブ灰色25GY6/1の呉須．	
24	SD1③	染付	杯？	透明釉．	白色．	暗青色の呉須による施文．	
25	SD1③	染付	杯	透明釉．貫入有り．	白色？（鉄分付着のため不明	青色の呉須による施文．	
26	SD1③	染付	碗	半透明釉．	白色？（鉄分付着のため不明）．	青い呉須による施文．	風化している．
27	SD1③	染付	杯	透明釉．	灰白色．	青灰色の呉須による施文．	底径（6.5）cm．
28	SD1③	染付	杯	透明釉．	白色．	青い呉須による施文．	

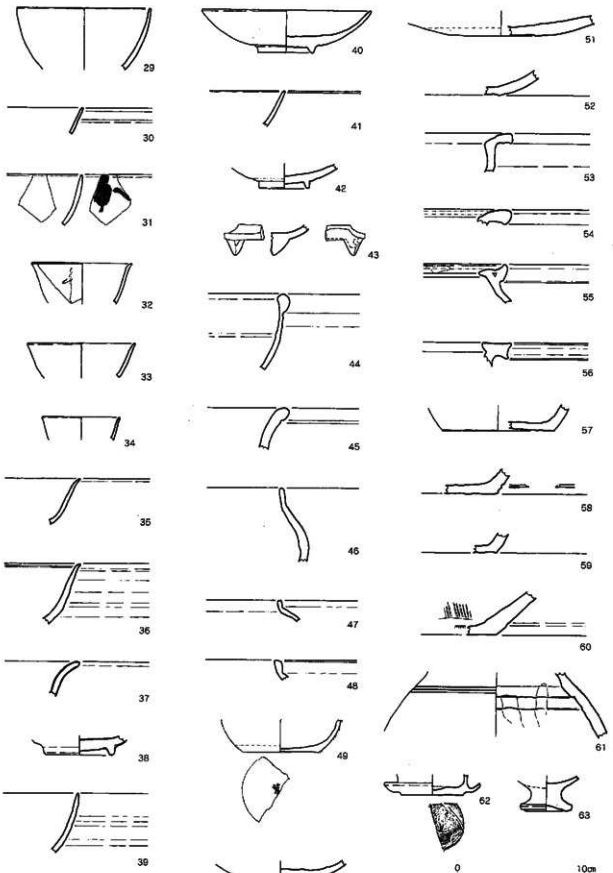


Fig.25 SD1出土遺物 (2) S=1/3

Tab.8　SD1出土遺物観察表（2）

図番号	層	種別	器種	色調・釉調	胎　土	調整・文様	備　考
29	SD1③	磁器	碗	白色.	灰色味を帯びた白色.	施釉.	口径（10.65）cm.
30	SD1③	磁器	杯？	透明釉.	明青灰色5PG7/1. 微砂粒を含む.	回転ナデの凹凸有り.	
31	SD1①	染付	碗	白色. 不透明釉.	白色.	暗オリーブ灰色2.5GY 4/1と明青灰色5B7/1の混濁による施文.	
32	SD1①	磁器	碗	透明釉.	白色.	朱色の色絵による施文.	口径（7.95）cm.
33	SD1	磁器	碗	透明釉.	白色.	回転ナデ.	口径（8.55）cm.
34	SD1①	磁器	杯	透明釉. 暗オリーブ灰色2.5GY7/1.	灰白色N8/.	同転ナデ.	口径（6.2）cm.
35	SD1①	磁器	碗	青みがかった透明釉.	白色.	回転ナデ.	
36	SD1	磁器	碗	青みがかった透明釉.	灰白色.	同転ナデによる凹凸有り.	
37	SD1	青磁	碗	オリーブ灰色10Y 4/2. 不透明釉. 貫入有り.	白色. 微砂粒を少し含む.	回転ナデ.	
38	SD1①	青磁	碗	緑灰色10GY5/1. 透明釉. 貫入有り.	灰白色？.（鉄分付着のため不明）.	高台見込み部釉ふき取り.	底径5.2cm.
39	SD1	磁器	碗	透明釉.	灰色10Y6/1. 微砂粒を多く含む.	回転ナデによる凹凸有り.	
40	SD1	陶器	皿	灰オリーブ色7.5Y6/2～明黄褐色2.5Y6/6. 不透明釉.	灰白色2.5Y7/1.	回転ナデ. 高台付け部・内面見込み部：輪ふき取り.	口径13.4cm. 底径4.4cm. 器高3.45cm.
41	SD1①	陶器	碗	褐灰色5YR4.5/1.	橙色2.5YR6/6微砂粒を若干含む.	同転ナデ.	
42	SD1①	陶器	碗？	浅黄色5Y8/4. 透明釉. 貫入有り.	鉄分付着のため不明.	回転ナデ. 高台付近：無釉.	底径（4.0）cm.
43	SD1①	陶器	茶家？	暗褐色7.5YR3/3.不透明釉.	外面：褐色7.5YR4/3. 内面：黒色7.5YR1.7/1. 微砂粒をわずかに含む.	ヨコ方向のナデ.	
44	SD1③	陶器	瓶	オリーブ黄色5Y8/4. 透明釉.	灰オリーブ5Y6/2.	回転ナデ.	
45	SD1③	白磁厚		透明釉. 細かい貫入有り.	灰白色5Y8/1.	口縁部付近：輪ふき取り.	
46	SD1③	陶器	壺	暗赤灰色2.5YR3/1. 不透明釉.	にぶい赤褐色2.5YR5/4. 微砂粒を含む.	回転ナデ.	
47	SD1①	陶器	茶家	外面：極暗赤褐色10R2/2.5. 内面：暗赤色10R3/3.	にぶい橙色7.5YR7/4. 白色の細砂粒を含む.	ヨコ方向のナデ.	
48	SD1①	陶器	茶家？	極暗赤褐色5YR2/4. 不透明釉.	にぶい橙色5YR7/4.	回転ナデ.	
49	SD1①	陶器	茶家？	灰色7.5Y6/1. 鉛釉.	にぶい褐色7.5YR5/3. 微砂粒を少し含む.	回転ナデ. 底面：スタンプによる刻印あり.	底部摩滅. 底径（6.0）cm.
50	SD1③	陶器	皿？	にぶい黄橙色10YR 4/3. 透明釉.	赤褐色10R6/6. 砂粒を含む. 白色粒.	回転ナデ. 外面：無釉.	底径3.8cm. 外面：スス付着.
51	SD1①	陶器	皿？	暗赤褐色2.5YR3/3. 不透明釉.	にぶい赤褐色2.5YR4/3.5. 砂粒を含む.	回転ナデ. 外面：無釉.	反転復元. 1/3残存. 底径（5.5）cm. 外面：スス付着.
52	SD1③	陶器	皿？	鉄分付着のため不明.	砂粒を含む.	回転ナデ.	
53	SD1③	陶器	壺	オリーブ黒色7.5Y3/1. 不透明釉.	にぶい赤褐色2.5YR5/4. 砂粒を含む. 白色粒.	同転ナデ. 口縁部上面：施ふき取り. 自部有り.	
54	SD1①	陶器	甕	オリーブ黒10Y3/2. 不透明釉.	赤褐色10R4.5/4. 細砂 粒を含む.	同転ナデ. 口縁部上面：輪ふき取り.	
55	SD1	陶器	壺？	黄褐色2.5Y5/4. 不透明釉. 釉かなり風化.	にぶい赤褐色2.5YR5/4. 微砂粒をわずかに含む.	回転ナデ. 口縁部上面：輪ふき取り.	
56	SD1③	陶器	甕？	暗オリーブ灰色2.5GY 4/1. 不透明釉. 釉風化.	橙色2.5YR6/6. 砂粒を含む.	同転ナデ. 口縁部上面：輪ふき取り.	
57	SD1③	陶器	甕	オリーブ黒7.5Y3/1. 不透明釉.	灰褐色5YR5/2. 細砂粒を含む.	同転ナデ.	底径（8.9）cm.
58	SD1③	陶器	甕？	灰オリーブ7.5Y 4/2黒灰. 不透明釉. 釉かなり風化.	明赤褐色5YR5/6. 粗砂粒を含む.	回転ナデ.	
59	SD1③	陶器	甕？	風化のため不明.	明赤褐色5YR5/7. 粗砂粒を含む.	ナデ.	磨滅している.
60	SD1③	陶器	擂鉢	釉風化著しく不明.	粗砂粒を含む.	ナデ.	磨滅している.
61	SD1③	陶器	壺	2.5Y7/4浅黄色.	2.5YR5/4にぶい赤褐色. 微砂粒をわずかに含む.	回転ナデ. 内面：無釉. 接合 接合痕あり. 版が確められる.	
62	SD1③	陶器	焙台	オリーブ褐色2.5Y 4/3. 釉風化.	にぶい赤褐色5YR5/3. 細砂粒を含む. 白色粒.	底面：回転糸切り. 他：回転ナデ.	底径（4.85）cm.
63	SD1③	陶器	仏器？	灰オリーブ5Y 4/2.	にぶい赤褐色5YR5/3. 砂粒を含む. 白色粒	回転ナデ. 内面：白色の鉄付着.	底径3.15cm.

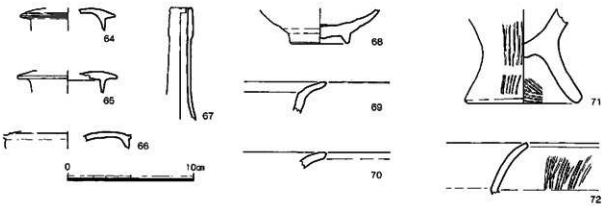


Fig.26　SD1出土遺物(3)　S=1/3

Tab.9　SD1出土遺物観察表（3）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
64	SD1②	陶器	甕	オリーブ黒7.5Y3/1．不透明釉．	灰色N4/．微砂粒含む．	回転ナデ．内面：無釉．	径（7.55）cm．
65	SD1②	陶器	甕	オリーブ黒5Y3/2．半透明釉．	にぶい赤褐色5YR5/4．砂粒を少し含む．	同転ナデ．内面：無釉．	径（7.9）cm．
66	SD1③	陶器	甕	オリーブ黒7.5Y3/1．不透明釉．	にぶい褐色7.5YR5/3．微砂粒を少し含む．	回転ナデ．内面：施釉．	
67	SD1③	ガラス	瓶	少し緑がかった青色．			
68	SD1③	土師器	鍋	にぶい橙色8.75YR7/4．	微砂粒をわずかに含む．	回転ナデ．	底部4.4cm．
69	SD21	弥生	壺	外面：にぶい橙色5YR7/3．内面：橙色5YR6/6．	砂粒を多く含む．	ヨコナデ．	
70	SD1②	弥生	壺	にぶい赤褐色5YR5/4～明赤褐色5YR5/4．	砂粒～微砂粒を含む．	ヨコ方向のナデ．	
71	SD1②	古墳	甕	外面：浅黄色2.5Y7.5/4．内面：赤褐色5YR4/6．	微砂粒～細砂粒を多く含む．礫を少し含む．	脚部外面：内面：ハケ．内面：ユビオサエのちナデ．	
72	SD1①	土師	皿	外面：橙色2.5YR6/6～明赤褐色2.5YR5/6．内面：赤褐色2.5YR4/6～4/8．	砂粒～細砂粒を含む．	口縁部上部：横方向のナデ．下部：凝位のハケ．	

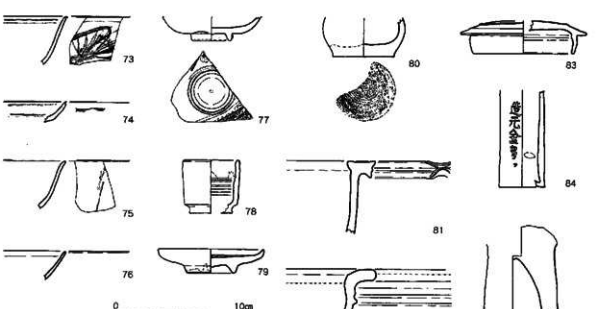


Fig.27　SD2出土遺物　S=1/3

Tab.10　SD2出土遺物観察表

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
73	SD2	陶付	碗	透明釉.	白色.	緑色の斑紫による施釉.	
74	SD2	染付	皿	明青色の半透明釉.	灰白色.	青色の斑紫による施釉.	
75	SD2	磁器	碗	透明釉.	白色.	回転ナデ. 外面：朱色の文様 No.32と同一個体.	
76	SD2	磁器	碗	透明釉.	白色.	回転ナデ.	
77	SD2	磁器	碗	透明釉.	白色.	回転ナデ. 赤色のプリント文様.	底径2.9cm.
78	SD2	青磁	小鉢	明オリーブ灰色2.5GY7/1.	灰白色10Y7/1.	回転ナデ. 底面：回転糸切り 後.	底径（3.45）cm.
79	SD2	陶器	杯	灰白色7.5Y7/1.5.	灰白色10Y4.5/1. 砂粒をわずかに含む.	回転ナデ. 内面見込み部：目跡あり.	底径（3.65）cm.
80	SD2	陶器	小皿	外面施釉：灰白色10Y7.5/1とオリーブ灰色10Y5.5/2. 施釉/灰色5Y5/1. 底面：黄灰色2.5Y5/1. 内面：灰褐色5.25YR5/2.	灰褐色5.25YR5/2. 微砂粒を含む.	外面・内面：ヨコ方向のナデ. 底面：回転糸切り.	底径（4.8）cm.
81	SD2	陶器	壺	オリーブ黒10Y3/2. 不透明釉.	にぶい赤褐色5YR 4/3. 粗砂粒を少し含む.	回転ナデ. 口縁部上面：釉ふき取り.	
82	SD2	陶器	甕	オリーブ黒5Y2/2. 不透明釉.	にぶい赤褐色2.5YR5/4. 砂粒を含む. 白色粒.	回転ナデ. 口縁部上面：釉ふき取り.	
83	SD2	陶器	蓋	黒色7.5Y2/1. 不透明釉.	灰色N 4/. 粗砂粒を含む. 白色粒.	回転ナデ. 蓋上面：無釉.	口径（7.85）cm.
84	SD2	ガラス	瓶	透明.	気泡有り.	外面：「治元令□□」凸文.	底径（3.65）cm.
85	SD2	土器	高杯	外面：にぶい橙色7.5YR7/4. 褐灰色10YR5/1. 内面：灰白色10YR7/1.5.	細砂粒～粗砂粒を多く含む.	不明.	磨滅している.

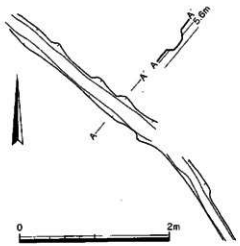


Fig.28　SD3　S=1/50

出土遺物は、陶器片１点、土師器１点、土器片10点である。

出土遺物（Fig.31）

86は土師器杯の底部である。非常に磨滅しているが、底面に糸切り痕が残っている。

SD5（Fig.32）

調査区中央部を北西－南東方向に斜めに横切っている。幅25cm、深さ18cmを測る。両端は撹乱土壙によって切られている。埋土は、黒褐色（10YR3/1）砂混じりシルトを基調とし、にぶい黄褐色（10YR4/3）砂混じりシルトブロック状に含む。下部は軟らかい。

遺物は土器片２点が出土している。

SD6（Fig.32）

SD5の東側に平行して位置する。幅は80cm前後で、深さは深い部分で５cmと非常に浅く、検出不可能な部分もあった。

埋土は、灰黄褐色（10YR4/2）シルトを基調とするが、粘性はあまりない。明黄褐色（10YR6/8）のパミスを含む。遺物は出土していない。

SD7（Fig.33）

調査区北東部に位置する。北西－南東方向にのびる。幅は75～60cm、深さは10cmを計る。両端は浅くなって部分的にしか確認できないが、東端は北側に屈曲するようである。

埋土は、褐色（10YR4/6）砂混じりシルトを基調として、灰黄褐色（10YR5/2）シルトや黒褐色（10YR2/2）のシルト（６層土）をブロック状に含む。遺物は出土していない。

SD8（Fig.33）

SD7の北側に平行して位置する。幅50cm前後、深さ７cmを計る。浅いため、部分的に遺構のプランを確認した。

埋土は、褐色（10YR4/6）砂混じりシルトを基調として、灰黄褐色（10YR5/2）シルトや黒褐色（10YR2/2）シルト（６層土）をブロック状に含む。

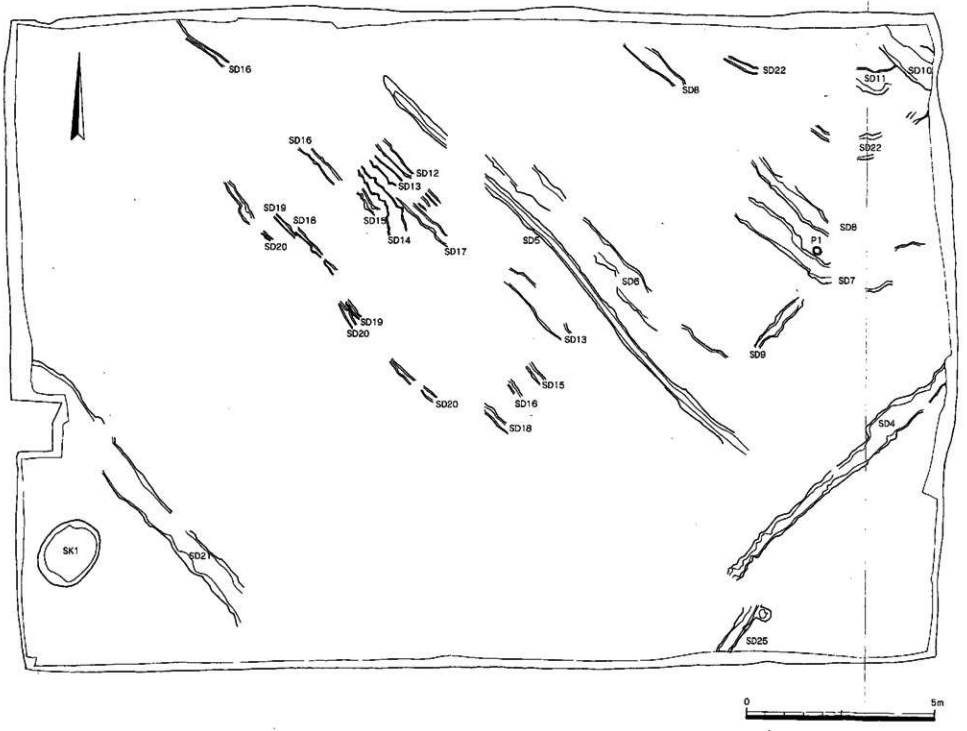


Fig.29　6層上面検出遺構　S=1/100

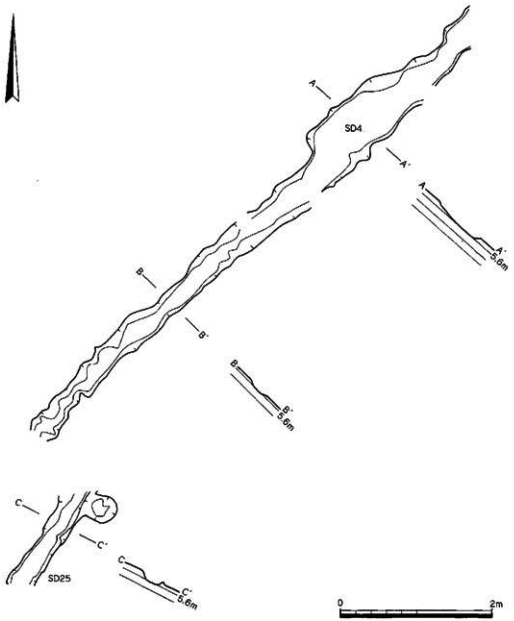


Fig.30 SD4・SD25 S=1/50

Fig.31 SD4出土遺物 S=1/3

遺物は出土していない。

SD9 (Fig.33)

SD7の南側に位置し、北東－南西方向にのびる。幅30cm前後、深さ5cmを計る。これも両端が浅く、確認できなかった。

埋土は、褐色（10YR4/6）砂混じりシルトである。遺物は出土していない。

SD10 (Fig.34)

調査区北東隅に位置し、北西－南東方向へのびるようだが、調査区外に広がるため、確認できなかった。幅約95cm、深さ18cmを測る。

埋土は、褐灰色（10YR4/1）砂まじりシルト（3C層土）である。

遺物は出土していない。

SD11 (Fig.34)

調査区北東隅に位置し、東西にのびるが、SD10に

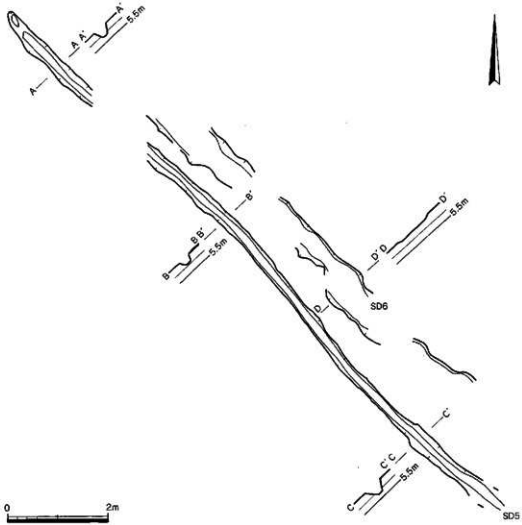


Fig.32　SD5・SD6　S=1/75

東側は切られている。幅約60cm、深さ8cmを測る。

埋土は、灰黄褐色（10YR4/2）シルトを基調とするが、粘性はあまりない。明黄褐色（10YR6/8）のパミスを含む。遺物は出土していない。

SD21（Fig.35）

調査区南西部に位置し、北西－南東方向に位置する。両端は調査区外にのびている。幅80cm、深さは8cmを測る。埋土は黒褐色（10YR3/1）シルトで、2mm大の軽石を含む。南東側下部はにぶい黄褐色（10YR5/3）細砂層で鉄分が浸透している。

出土遺物（Fig.36）

出土遺物は、須恵器1点、弥生土器9点、土器片142点である。以下、実測可能なもののみ、説明する。

87は須恵器壺の端部である。内側に小さな身受け部が残っている。88～94は壺の口縁部である。いずれも屈曲部より端部である。88は端部がヨコナデによって窪んでいる。89は端部が平坦で、屈曲部よりも少し太い。90は端部が細くなっている形態を呈し、断面に口縁部を抉合した接合痕が認められる。91～93は端部は平坦だが、若干丸みのある形態を呈する。93は内側に少し湾曲気味の形態を呈する。94は外開きの壺の口縁部と考えられる土器片である。内面はハケ調整による凹凸が明瞭である。

95は壺の口縁部で、外湾しながら開く形態を呈する。端部はヨコナデによって窪んでいる。97は壺の底部で、平底を呈するが少しゆがんでいる。

96は端部が太く、断面三角形状を呈する口縁部である。欠損部直下が屈曲部のようである。器種は不明である。

98は高坏の脚部である。かなり磨滅している。

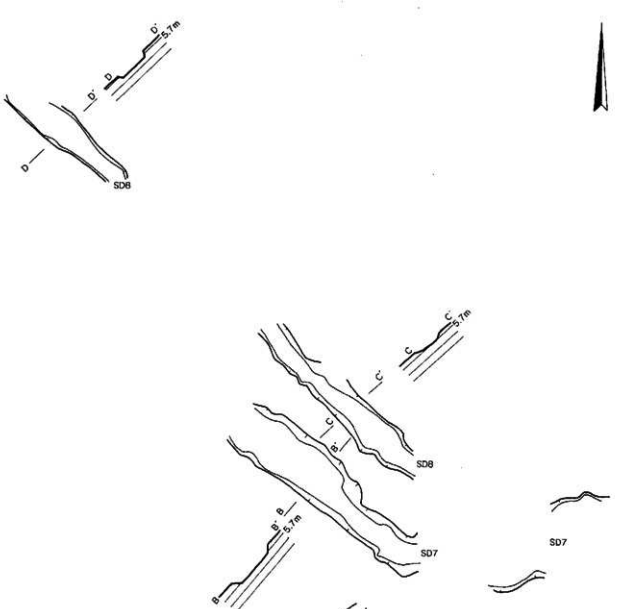


Fig.33 SD7~9 S=1/50

99は器形は不明だが、脚端部下に接地面と考えられる擦痕が環状に認められたため、脚であろうと推定できる。非常に丁寧なナデ調整を施している。脚端部を丸く肥厚させ、ふんばるような脚の形態を呈する。99は類似した破片が6層からも出土しており、同一個体と判断できた。

SD22 (Fig.34)

調査区北東部に位置する。幅20~70cm、深さ5cmを測る。撹乱土壙により削平され、また深さも浅いため、部分的にしか確認できないが、弓なりに屈曲する平面形のようである。SD8・SD7と平行する。

堆土は、褐灰色（10YR4/1）砂まじりシルト（3C

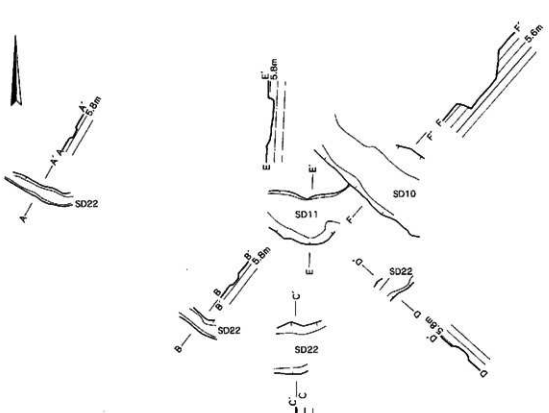


Fig.34　SD10・SD11・SD22　S=1/75

層土）である。遺物は出土していない。

SD25（Fig.30）

調査区南東部に位置し、北東－南西方向にのびる。SD4とほぼ平行している。幅約30cm、深さ10cmで、北側ほど浅い。

埋土は、褐灰色（10YR4/1）砂まじりシルト（3C層土）である。遺物は出土していない。

畝状遺構（SD12～20）（Fig.29）

SD5とSD21の間の部分で確認した。幅約30cm、深さ2、3cmの溝状を呈しているため、それぞれSD12～20と呼称した。すべて平行で、密集しているSD12～15は15cm間隔で位置している。

埋土は黒褐色（10YR3/2）シルトで、2～3mm大の白色の軽石と明黄褐色（10YR6/8）の2mm大のパミスを含む。

SK1（Fig.37）

調査区南西隅、SD21の西側に位置する。長径190cm、短径140cmを測り、平面形は楕円形である。深さは30cmで、底面は平坦である。

出土遺物（Fig.36）

SK1からは陶器片1点と土器片14点が出土している。

100は弥生時代の甕の口縁部であろうと推定できる。端部は丸く、くの字に屈曲する器形を呈する。101は甕の脚部である。端部は丸く、外に開く器形を呈する。

（4）7層上面遺構（Fig.39）

7層上面からは2条の溝状遺構（SD23・24）と266基のピットが出土している。溝状遺構は調査区の北西隅と南東隅に平行に位置している。また、ピット

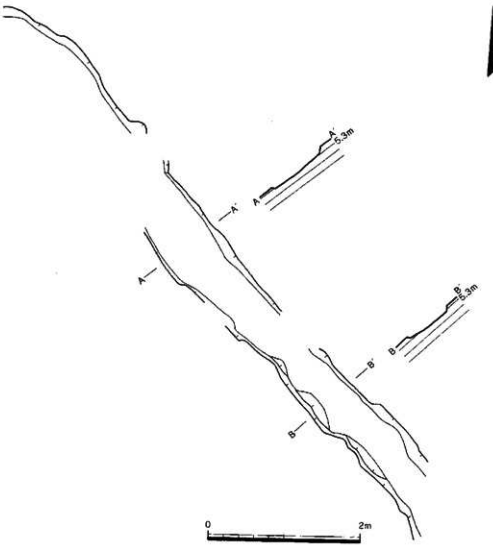


Fig.35 SD21 S=1/50

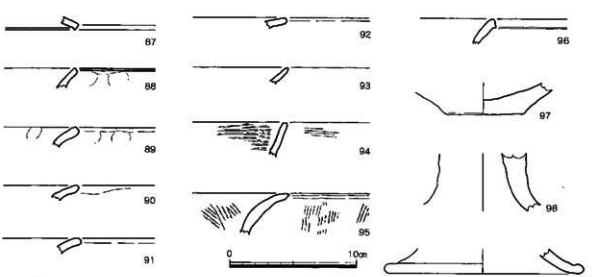


Fig.36 SD21出土遺物 S=1/3

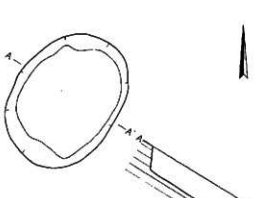


Fig.37 SK1 S=1/50

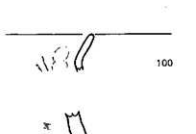


Fig.38 SK1出土遺物 S=1/3

Tab.11 SD4・SD21・SK1出土遺物観察表

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
86	SD4	土師器	皿	浅黄橙色10YR8/3.	砂粒を少し含む．赤色粒．	回転ナデ．底面：糸切り．	
87	SD21	須恵器	蓋	（鉄分付着のため）灰色N5/	細砂粒を少し含む．白色粒．	（鉄分付着のため）不明．	焼き不明．
88	SD21	弥生	壺	外面：にぶい赤褐色2.5YR4/3．内面：鉄分付着のため不明．	粗砂粒を含む．白色粒・角閃石．	ヨコナデ．	
89	SD21	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR6/4.	粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	ヨコナデ．	
90	SD21	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明．内面：褐灰色10YR6/1.	砂粒を多く含む．白色粒・角閃石．	ヨコナデ．	
91	SD21	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明．内面：にぶい橙色7.5YR7/4.	粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	ヨコナデ．	
92	SD21	弥生	甕	赤色10R4/6.	砂粒を含む．白色粒・角閃石	ヨコナデ．	
93	SD21	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR7/4.	粗砂～砂粒を含む石英・白色粒．	ナデ．	
94	SD21	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明．内面：にぶい橙色5YR6/4.	細砂粒を含む．白色粒・雲母	ハケのちナデ．	
95	SD21	弥生	壺	橙色7.5YR6/6.	砂粒を多く含む．白色・石英・長石？．	口縁部付近：ヨコナデ．他：ハケ（5本/cm）のちナデ．	
96	SD21	弥生	壺	赤褐色2.5YR4/6.	粗砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石．	ヨコナデ．	外面：赤色顔料付着．
97	SD21	弥生	壺	外面・内面：淡黄橙色10YR8/4．底面付近：黄灰色2.5Y4/1.	微・粗砂粒を含む．白色粒・石英．	ナデ．	底径6.45cm.
98	SD21		高杯？	外面：鈍い橙色7.5YR7/3．内面：橙色5YR6/6．髄内：明灰色N2/.	砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英．	外面：ナデ．内面：ハケ？のちナデ．	
99	SD21	弥生	高杯？	赤褐色2.5YR4/6.	砂粒を含む．白色粒・長石？	丁寧なナデ．内面：ヨコナデ．	
100	SK1	弥生	甕	橙色5YR6/6.	砂粒・細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	ナデ．	
101	SK1		壺	胴部都：明赤褐色5YR5/6．外面：にぶい黄橙色10YR7/3．内面：褐灰色10YR4/1.	細砂粒・砂粒を含む．白色粒・石英．	横方向のナデ．	

群の中には1間×1間の掘立柱建物跡と推定できるものを1軒確認した。また、その他のピットで杭列状に配列しているものも推定できた。

SD23（Fig.40）

調査区南東隅に位置し、北東－南西方向にのびる。幅50cm、深さ25cmで、底面はほぼ平坦である。底面からピットが2基検出したが、ピットの埋土とSD23の埋土が類似しているため、これらが別の遺構か、SD23に付随するものか判断できなかった。

埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルト（6層土）である。

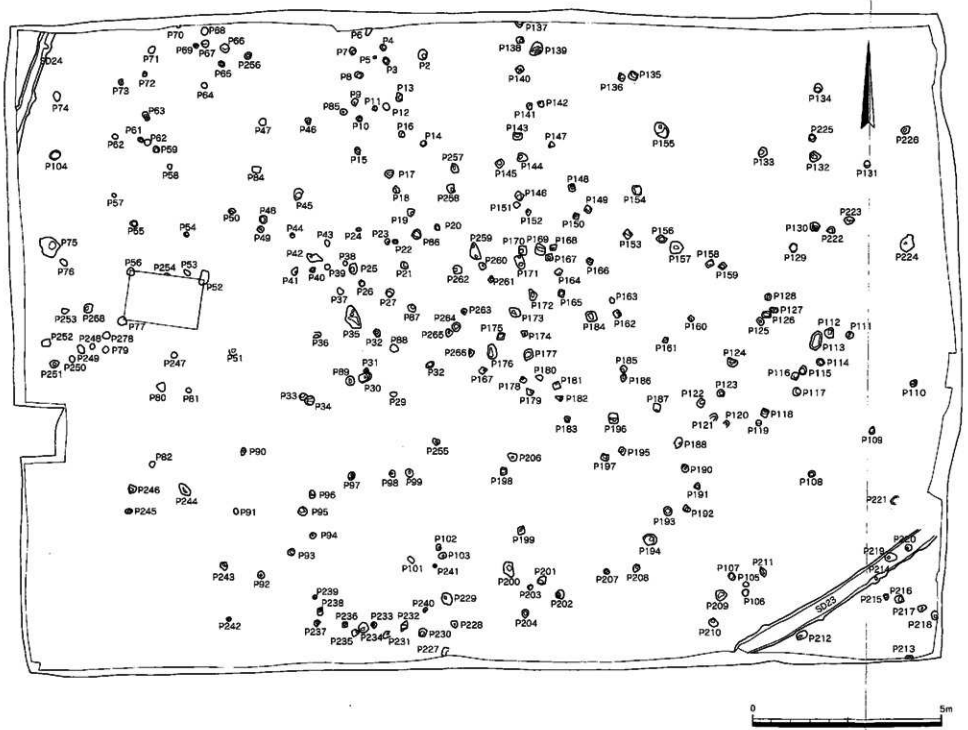


Fig.39　7層上面検出遺構　S=1/100

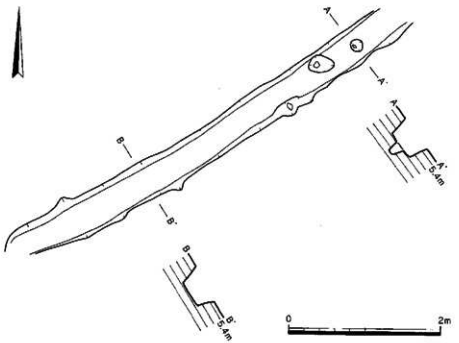


Fig.40 SD23 S=1/50

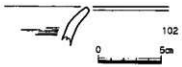


Fig.41 SD23出土遺物 S=1/3

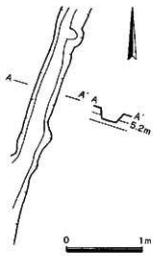


Fig.42 SD24 S=1/50

出土遺物 (Fig.41)

遺物は、埋土中から土器片1点が出土している。

102は、甕の口縁部である。少し湾曲して外反する器形を呈する。

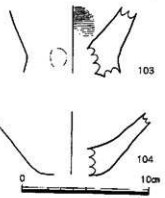


Fig.43 SD24出土遺物 S=1/3

SD24 (Fig.42)

調査区北西隅に位置し、北北東－南南西方向にのびる。ほぼSD23と平行している。幅約30cm、深さ15cmを測り、底面は平坦である。

埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト（6層土）である。

出土遺物 (Fig.43)

遺物は埋土中より土器片10点が出土している。

103は甕の胴部で脚台との接合部分である。器壁が厚く、径も大きいため、古墳時代のものであると推定できる。104は甕の底部である。底面が欠損しているため不明だが、胴部への立ち上がり部から、緩やかな凸面を呈する底面であろうと推定できる。

ピット (Fig.39・44・45～48)

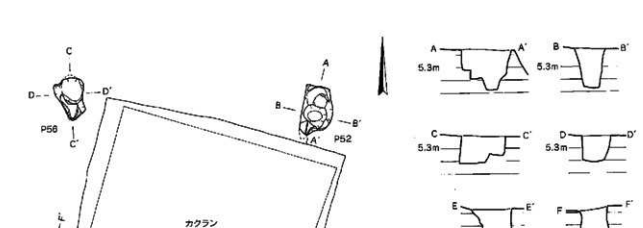


Fig.44　掘立柱建物跡　S=1/30

7層上面では266基のピットを検出したが、ほとんど深さ20cm前後のものである。ピットの検出面より上の6層出土の土器が環状に壊されているものがあり（PL　）、ピットは本来は6層中から掘込んでいたものと考えられる。

これらの中で発掘時になんらかの建築物の遺構であると確認できたのは、深さが深く、形態も他のピットとは異なっていたP52・P56・P77のみで、他のピットに関しては配列等規則的なものを見いだすことができなかった。ピット自体の平面形は円形に近いが、多角形を呈し、角をもつものがほとんどであった（PL23-6）。

断面形については、ほとんどがU字形であったため、表でその深さを提示し、代表的なもののみ図示した。これらの中には、P21・164のように底面近くに外側へ掘り込み部分を持つものや、P186のように底面から約20cm上の部分に中膨らみになるものがある。また、断面の片方の壁は直立しているが、反対が斜めで、崩れたようになっているものも認められる。

発掘終了後、ピットの平面形の大きさや深さ、形態に注目して分類し、それぞれがどのように位置しているのか検討したところ、深さで分類したもののうち、深いものがある程度規則的に並んでいたため、報告することにした。

掘立柱建物跡（Fig.44）

P52・P56・P77は他のピットに比べて径が大きく、深かった。また、断面形も段を有するという特徴がある。これらは直角に配列しているが、3つのピットしか確認できなかった。四番目のピットが存在していただろうと考えられる位置には撹乱土壙があり、深い部分まで掘削されてたため、これによって壊されたものと考えられ、1間×1間の掘立柱建物跡と判断した。

ピットの長径は34～40cm、短径は約25cmで、深さは22～40cmである。ピット間の距離は、P52－56が194cm、P56－77が130cmを計る。

ピット断面は長径方向に段を有する。P52は、北壁の1段目の高さとほぼ対応して、底面から10cm上の南壁がすこし中膨らみになっている。P77も底面から15cmの位置が若干膨らんでいる。これらの柱がどのような構造になっていたのか、埋土断面からは観察できなかったが、段が残っている場所に柱を支える板状のものを設置していた可能性もある。

ピットの配列について

前述したが、7層上面で検出した266基のピットを深さ別に個体数を示したのがFig.46である。20cm前後のピットが多く、それ以上の大きさのピークは30cm、38cm、46cmにある。これらのことから、22cm以上のピットを4つに分類し、比較的深いピットの位置の配列を想定したのがFig.45である。

SA11とSA12を中心として、北西－南東方向に8列想定した。また、これらを横切るように北東－南西方向の9列想定できた。これらのピット間距離は50～555cmである。想定した杭列の断面模式図がFig.48で

Tab.12 ピット一覧表

ピット	堆土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
1	3c	25	20	23.5
2	6	29	24	16
3	6	24	12	13.8
4	6	18	14	8.6
5	6	8	6	
6	6	19+α	11±α	13.6
7	6	22	18	19.5
8	6	23	15	15
9	6	20	16	19.3
10	6	16		19.3
11	6	12		15.9
12	6	17	16	28.8
13	6	24	16	17.7
14	6	16	14	23.2
15	6	19	15	19.3
16	6	20	15	15.5
17	6	23	20	21
18	6	20+α		24.8
19	6	20	18	17.6
20	6	17	8	20.3
21	6	23	17	23.4
22	6	14	7	18.5
23	6	14		15.9
24	6	12	10	19.7
25	6	28	22	28.3
26	6	16		23.1
27	6	21+α	18	17.5
28	6	20		20.3
29	6	14	7	23.8
30	6	36	20	44.1
31	6	14	12	16
32	6	20	18	20.6
33	6	24+α	18	15.4
34	6	25		18.4
35	6	62	36	35.4
36	6	22+α	13	25.6
37	6	18	14	
38	6	12		
39	6	17	14	
40	6	17	11	12.3
41	6	24	16	19.1
42	6	44	20	18.2
43	6	16	12	19.8
44	6	13		20.6
45	6	320	260	18.8
46	6	16	12	22.9
47	6	19		19.5
48	6	22		19.2
49	6	18	16	21.7
50	6	17	12	13.4
51	6	20+α	8+α	
52	6	40	23	
53	6	20	11	17.8
54	6	10		12.9
55	6	20	12	24.2
56	6	22	20	
57	6	11	9	
58	6	14	12	5.4
59	6	18	16	11.9
60	6	19		29.1
61	6	18	10	17.2
62	6	16	14	13.4
63	6	23	18	12
64	6	16	14	36.3
65	6	16	14	23.2
66	6	25	20	32.4
67	6	19	18	19.8
68	6	20		23.5
69	6	14	12	18.1
70	6	11+α		15.5
71	6	20	18	18.7
72	6	14	10	
73	6	14		
74	6	28	18	24.7
75	6	58	50	29.1
76	6	22	14	24
77	6	27	24	
78	6	21		32.2
79	6	20	16	17.5
80	6	26	22	27.1
81	6	14	12	14.4
82	6	19	18	
84	6	24		31.8
85	6	18	16.5	20
86	6	27		20
87	6	24	20	33.8
88	6	20	14	23.6
89	6	24		18.8
90	6	20	13	13
91	6	16	14	
92	6	19	18	39.2
93	6	18		23.7
94	6	17		17
95	6	26	22	0.5
96	6	22	16	14.7
97	6	20	17	30.5
98	6	16+α		20.1
99	6	24	20	20.9
100	6	22+α	9	23.4
101	6	22	14	
102	6	20	14	17.7
103	6	21	15	17.2
104	6	30	26	14.8
105	6	18	14	
106	6	14		22.1
107	6	22	16	18.8
108	6	18	14	11.9
109	6	17		10.5
110	6	20	17	24.7
111	6	20		18.2
112	6	30		5.7
113	6	51	25	16.1
114	6	22	17	11.2
115	6	24	20	32
116	6	20	18	27.2
117	6	24	22	22.9
118	6	22		41
119	6	16		23.2
120	6	16+α	17.5	14.2
121	6	24+α		12.6
122	6	23		35.7
123	6	20		18.7
124	6	28	20	18.8
125	6	23	18	5.8
126	6	25	14	16.4
127	6	22	14	29.5
128	6	20	18	20.2
129	6	24		23.3
130	6	27	24	15.4
131	6	20	17	32.8
132	6	28	26	19.2
133	6	26		24.9
134	6	24	22	19.6
135	6	26		22.3
136	6	24		20.6
137	6	23+α		21.2
138	6	22		18.3
139	6	40	30	13.4
140	6	24		36.7
141	6	20	17	37.4
142	6	20		27.2
143	6	25		18.8
144	6	27	21	21.2

ピット	埋土	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）
145	6	24	19	27.4
146	6	25	24	37.6
147	6	17		14.5
148	6	24	22	24.3
149	6	22		37
150	6	22	20	18.1
151	6	19	18	27.4
152	6	18	16	25.9
153	6	26	21	39.1
154	6	28	26	22.7
155	6	46		41.1
156	6	28	20	14.9
157	6	38	36	23.8
158	6	24	16	31.8
159	6	24	20	11.2
160	6	18		25.1
161	6	21.5	16	10.2
162	6	12	20	28.7
163	6	22	8	14
164	6	23	18	29.8
165	6	23	21	19.1
166	6	16		25.7
167	6	24	23	13.3
168	6	23	20	20.6
169	6	33	29	28.6
170	6	28.5	26	21.9
171	6	38	20	21.9
172	6	32	24	20.7
173	6	32	23	19.1
174	6	20		17.5
175	6	26	20	10.1
176	6	40	24	30.2
177	6	30	26	16.3
178	6	20	18	22.4
179	6	22	17	37.5
180	6	18	16	13.4
181	6	24	22	24.4
182	6	20	12	15.4
183	6	20＋α		28.3
184	6	31	28	20.8
185	6	22	20	24.3
186	6	23	17	18.8
187	6	24	22	17.8
188	6	34＋α		82.3
189	6			
190	6	22	20	23.7
191	6	16	14	27.2
192	6	20	16	32

ピット	埋土	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）
193	6	22	18	12
194	6	40	30	36.5
195	6	23	22	22.6
196	6	30		26.1
197	6	24	22	15.2
198	6	23	20	16.8
199	6	25	22	2.2
200	6	42	34	31.1
201	6	24		29.3
202	6	26	24	21.3
203	6	16	14	13.7
204	6	24	18	24.1
205	6			
206	6	26		16.1
207	6	15	14	17.8
208	6	20	17	18.6
209	6	31	30	26.8
210	6	27	20	17.4
211	6	29	17	20.4
212	6	28	20	20.5
213	6	19＋α	8＋α	12.4
214	6	10		
215	6	17	12	11
216	6	25	21	12.2
217	6	22	16	14.5
218	6	24		17.1
219	6	34	22	15.9
220	6	18	16	15.1
221	6	26＋α	16＋α	22
222	6	22		17.1
223	6	30	20	25
224	6	48	33	54.4
225	6	14	7	25.5
226	6	17		17.7
227	6	26＋α		9.5
228	6	20		10.6
229	6	36	30	31.9
230	6	28	22	27.8
231	6	24	20	18.8
232	6	32	20	11.5
233	6	18		7
234	6	28		14.5
235	6	21		30.7
236	6	20	16	12.9
237	6	18	15	8.3
238	6	21	16	12.9
239	6	14	12	10.5
240	6	15	13	10.1

ピット	埋土	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）
241	6	11	10	12
242	6	12	11	17
243	6	24	20	26.3
244	6	42	20	39.2
245	6	21	12	10
246	6	24		24.3
247	6	18	15	29.2
248	6	15		
249	6	26	18	32.5
250	6	17		38.3
251	6	24	21	27.2
252	6	28	22	28.5
253	6	26	17	20.9
254	6	20＋α	6＋α	23.4
255	6	22	8	28.2
256	6	20	15	7.8
257	6	26	21	10.1
258	6	28		2
259	6	44	26	32.7
260	6	22	18	34.6
261	6	18	16	36.7
262	6	23		44.7
263	6	17		11.6
264	6	26	24	10.2
265	6	22	20	22.3
266	6	20	15	20.9
267	6	22	20	23.8
268	6	26		28.2

凡例

埋土3c：3c層土

6：6層土

＋α：全径が不明なもの

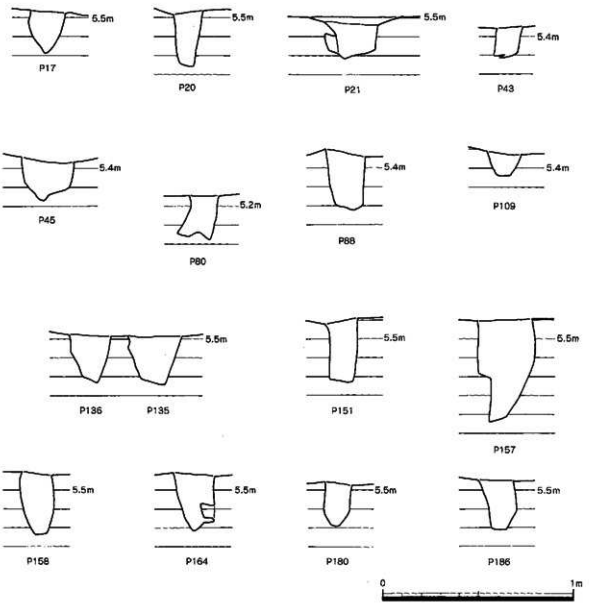


Fig.45 ピット断面図 S=1/30

ある。SA11とSA12を境として調査区の北東部と南西部がピットの配置がほぼ対象の関係にあり、SD23・SD24の方向とも一致するが、これらの用途や機能については不明である。

出土遺物 (Fig.49)

ピットからは少量の遺物が出土しているが、実測可能な遺物が出土したのはP79・P251・P265である。いずれも埋土中からの出土である。

105は壺の口縁部である。少し外反する口縁部で、肩部はなで肩を呈するようである。肩部内面は稜線を持つが、ゆがんでいる。106は鉢の口縁部である。口唇部を工具のヨコナデによって凹線状を呈する。短い口縁部をくの字に屈曲し、屈曲部の器壁が口唇部より若干太い。107は坩の肩部である。外面に赤色の顔料を添付し、主に横方向の細いミガキを施している。口縁部との接合部で欠損している。古墳時代のものである。

6. 包含層出土遺物 (Fig.50~65)

1層、3a層、3b層・3c層、Ⅳ層、6層から陶器・須恵器・古墳時代の土器、弥生土器等が出土し、6層からは調査区南西部分に弥生土器が多量に出土した。(Fig.66) 以下、実測可能なものの説明を行う。

(1) 1層出土遺物 (Fig.50)

108は土師器杯の底部である。平底で、底面近くの

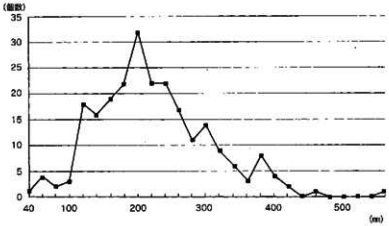


Fig.46　ピットの深さと個数

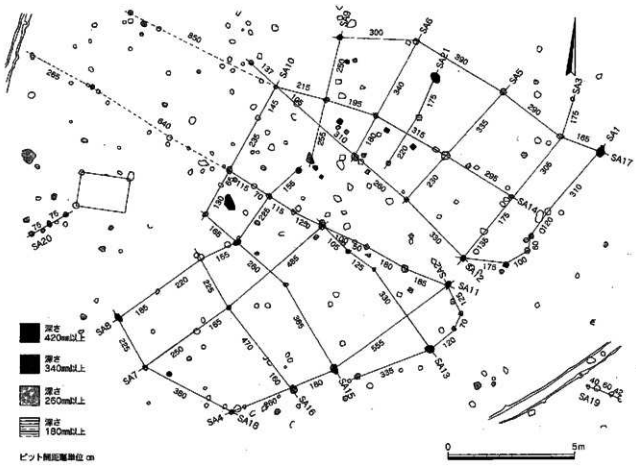


Fig.47　ピット深さ別平面図　S=1/100

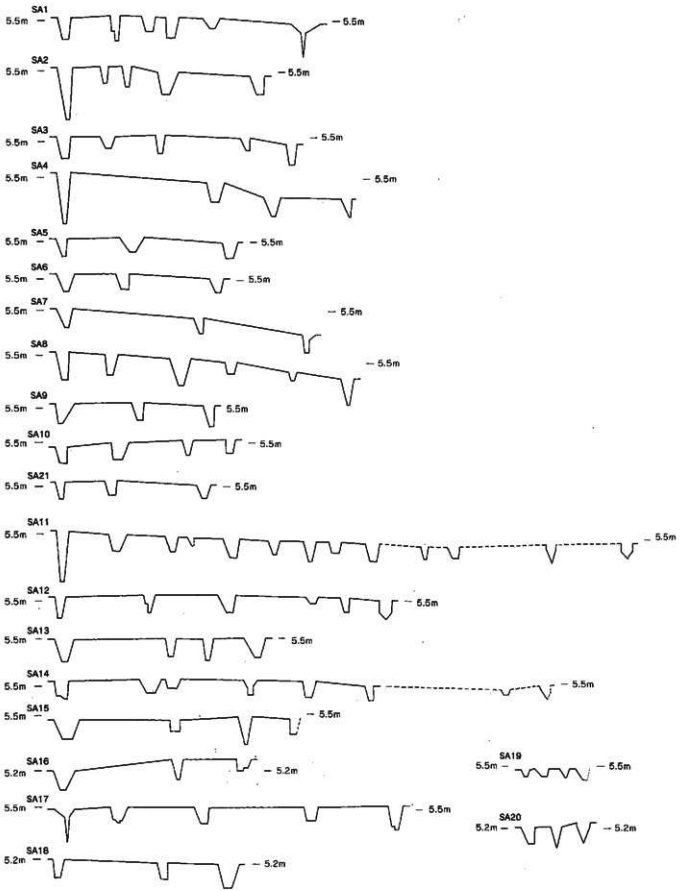


Fig.48　杭列断面模式図　ピット部分S＝1/60　ピット間S＝1／150

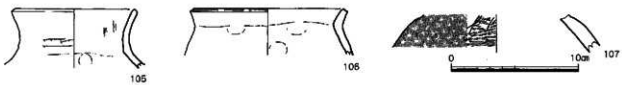


Fig.49　ピット出土遺物　S=1/3

Tab.13　SD23・SD24ピット出土遺物観察表

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
102	SD23		甕	にぶい橙色7.5YR7/4.	砂粒を多く含む. 白色粒・赤色粒・石英.	外面：ナデ. 内面：ハケのち ナデ.	外面：スス付着.
103	SD24		甕	外面：にぶい黄色2.5Y6/3. 内面：黒2.5Y2/1. 脚台内面：橙色5YR6/6	砂粒を多く含む. 赤色粒・石英.	内面：ハケのちナデ. 他：ナデ.	
104	SD24	弥生？	壺	鈍色7.5YR4/4.	砂粒・細砂粒を多く含む. 白色粒・赤色粒・石英・黒雲母.	ナデ.	
105	P79		壺	にぶい黄橙色10YR7/4.	細砂粒・砂粒を含む. 赤色粒・石英・角閃石.	外面：ハケ？のちナデ. 内面：ハケ.	
106	P251	弥生	甕	橙色7.5YR6/6.	礫・砂粒・細砂粒を含む. 白色粒・石英.	ナデ.	
107	P265	古墳	坩	外面：（赤色顔料付着のため）赤色10R5/6. 内面：黄灰色2.5Y4/1～明灰黄色2.5Y5/2.	砂粒・細砂粒を含む. 白色粒・赤色粒.	外面：ミガキ. 内面：ナデ. 外面：赤色顔料付着.	

外面に段を有する。109・110は甕の口縁部である。どちらもくの字に屈曲し、端部は平坦である。109は端部をヨコナデによって仕上げ、少し窪んでいる。110は口縁部上面がユビオサエのためゆがんでいる。

111は壺の口縁部である。頸部から外に開く形態を呈し、端部は若干丸味をおびているが、外面はヨコナデによって窪んでいる。112は壺の底部である。底面を欠損しているが、凸レンズ状を呈する底面になると推定できる。

(2) 3a層出土遺物 (Fig.51)

3a層からは土師器と土器片が出土している。

113は土師器杯の底部である。磨滅が著しいが、底部は厚く、底面は糸切り痕がわずかに認められる。

(3) 3b層出土遺物 (Fig.51)

3b層からは土器片と土師器、須恵器、磁器が出土している。

114・115は土師器の杯の底部で、114には糸切り痕が認められる。115は鉄分が全面に付着しているため、調整の観察は不可能であった。

(4) 3c層出土遺物 (Fig.52～54)

3c層からは、土器、須恵器、陶器、瓦が出土している。

117～120は染付である。117は皿である。見込み部と高台畳付け部は無釉である。内面に鎬蓮状文様を施している。118は口縁部である。外面に文様を施し、口唇部内面は釉を拭き取っている。119は小瓶の底部

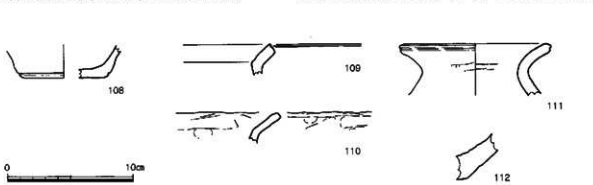


Fig.50　1層出土遺物　S=1/3

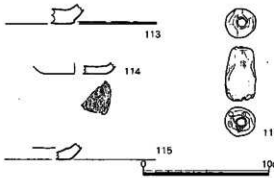


Fig.51　3a層・3b層・Ⅳ層出土遺物　S=1/3

である。薄い色調で文様を施している。高台畳付け部が無釉である。120は碗の底部である。釉が青みを帯び、外面に文様を施している。高台畳付け部は無釉である。121は白磁である。内面のみ施釉している。高台は低く、削り出しである。122～126は陶器である。122は口縁部は肥厚し、内面に段を持つ。123は削り出しの底部である。畳付け部は無釉である。124は深鉢の平底の底部である。125は燭台の底部である。126は盌である。天井部のみ施釉している。

127～138は土師器である。127～131は口縁部である。内湾気味に立ち上がる器形を呈する。132～137は底部である。133～136は糸切り痕が認められる。いづれも平底である。138は蓋の端部である。身受け部内面がわずかに屈曲している。

139～144は須恵器である。139は口縁部、140・141は高台付近である。142は脚部の屈曲部と考えられる。回転ナデ調整による凹凸が明瞭である。143は脚部であろう。端部が断面三角形状になっている。144は蓋である。

145～146は滑石製の石鍋である。145は口縁部で、146は底部である。両者とも外面は磨滅しているが、内面は状態がよい。

147～183は弥生時代から古墳時代の土器である。147～154は口縁部で、いずれもくの字に屈曲する形態を呈すると考えられる。147～149・153～166は甕である。150・151は壺である可能性もある。147～149は口唇部が平坦なものである。147は外面の屈曲部から施したハケ調整の始点の段が明瞭である。150・151は端部がヨコナデ調整によって少し窪んでいるものである。152～154は端部が丸いものである。153は屈曲部が少し太く、端部が細い形態を呈する。155は甕と考えられる頸部から胴部で、断面台形状の突帯を1条施している。156～158は胴部下部から脚台の上部の破片である。157・158は脚台天井部が丸い形態を呈している。159・160は脚台である。159は低い脚台で、脚台天井部は丸く、脚部も外に張り出したような形態を呈する。160は脚台が高く、天井部が平坦である。161～166は脚端部である。161・162は端部が太い。163は端部がすぼまるような形態を呈し、長い脚部である。

167～171は壺の破片である。167は口縁部だが、器壁が厚く、端部がヨコナデ調整によって窪んでいる。少し湾曲しながら外反する形態を呈する。168・169も口縁部だが、端部が平坦である。168は直線的に外開きの形態を呈し、169は少し湾曲するようである。170・171は底部である。170は平底で、171は少し

Tab.14　1層・3a層・3b層・Ⅳ層出土遺物観察表

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
108	1	土師器	杯?	10YR7/4にぶい黄橙色.	微砂粒をわずかに含む.	外面～底面：ナデ. 内面：磨滅のため不明.	底径 (7.1) cm. 磨滅している.
109	1	弥生	甕	にぶい黄橙色10YR7/4 類似.	細砂粒を含む. 白色粒・	磨滅のため不明.	傾き不明. 磨滅している.
110	1	弥生	甕	口唇部：黒10YR2/1. 外面：灰褐色7.5YR 4/2. 内面：褐灰色7.5YR 4/1.	礫・砂粒・雲母粒を多く含む. 白色粒・赤色粒・黒色粒・石英.	外面口縁部：ナデ. 外面胴部：ハケ？のちナデ. 内面口縁部：ハケ？のちナデ. 内面胴部：ナデ.	
111	1	弥生	壺	にぶい橙色7.5YR6/4.	砂粒を含む. 白色粒・赤色粒・石英.	外面～内面口縁部：ナデ. 胴：ハケ？のちナデ.	出 口径 (11.9) cm.
112	1		壺	灰白色7.5YR8/2. 底面：灰色5Y 4/1.	礫～砂粒質を多く含む. 白色粒・赤色粒・石英.	外面：ハケ？のちナデ. 底面：ナデ. 内面：ナデ？	磨滅している.
113	3a	土師器	杯?	10YR6/3浅黄橙色.	微砂粒を少し含む.	外面底部付近：回転ナデ？	磨滅著しい.
114	3b	土師器	杯?	10YR6/2灰黄褐色.	微砂粒を含む.	底面：糸切り. 外面・内面：ナデ.	底径 (5.0) cm.
115	3b	土師器	杯?	鉄分付着のため不明.	不明.	不明.	鉄分付着.
116	床		土錘	明赤褐色2.5YR5/6.	細砂粒を多く含む.	ナデ.	

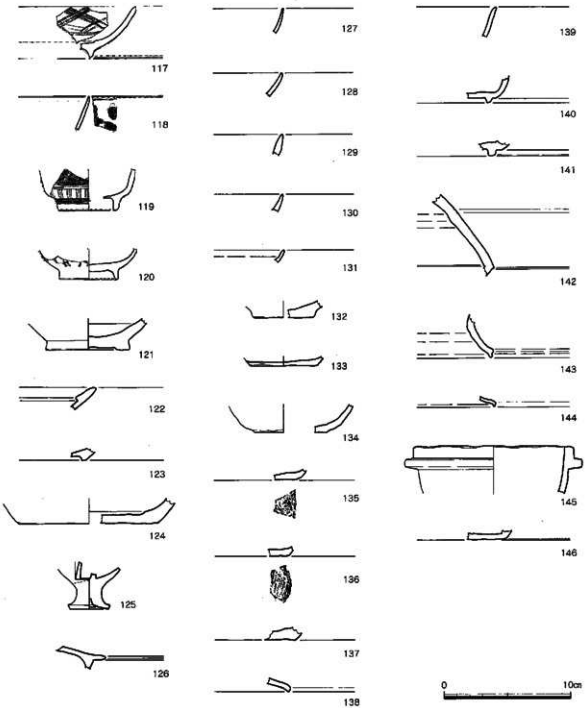


Fig.52　3C層出土遺物（1）　S=1/3

尖り気味の丸底である。172～178は突帯である。172は3条突帯で、同時刻みらしい刻み目が施されている。壺の胴部であろう。173は1条の断面三角形の突帯である。174～177は断面がほぼ三角形を呈する刻み目突帯である。176はハケ工具によって刻み目が施され、177は刻み目に布目圧痕が認められる（PL　）。178は断面が蒲鉾状の突帯だが、ヘラ状の工具で施されたと考えられる細い刻み目が認められる。

179は内面端部を一部欠損しているが、口縁部を三角形状に肥厚させ、肩部が張る形態を呈する鉢である。内面に接合痕が認められる。

180・181は鉢の口縁部である。口縁部を短く外へ

Tab.15　3c層出土遺物観察表（1）

図番号	層	残存	器種	色調	胎土	調整	備考
117	3c	染付	碗	貫入有り.	微砂粒を含む.	高台受付け部・内面見込み：釉ふき取り.	
118	3c	染付	碗	半透明釉.	微砂粒をわずかに含む.	口唇部：釉ふき取り.	
119	3c	染付	小碗？	青みがかった半透明釉.	白色.	高台受付け部：釉ふき取り.	底径（4.6）cm.
120	3c	染付	碗	青みがかった透明釉.	白色. 微砂粒を少し含む.	高台受付け部：釉ふき取り.	底径（4.5）cm.
121	3c	白磁	碗	外面：（施釉）灰白色2.5Y8/2. 内面：施釉. 少し緑がかった透明釉.	砂粒を少し含む. 白色粒.	回転ナデ. 高台削り出し.	底径（6.6）cm.
122	3c	陶器	皿？	外面：（釉）褐色7.5YR4/3.（口縁端部）黒褐色7.5YR3/1. 内面：にぶい赤褐色5YR5/3.	微砂粒を含む.	回転ナデ.	
123	3c	陶器		透明釉. 貫入有り. 胎土：灰白色2.5Y7/1.	微砂粒をわずかに含む.	高台受付け部：釉ふき取り.	
124	3c	陶器	擂鉢？	外面：（釉）褐灰色7.5YR4/1. 内面：にぶい赤褐色7.5R4/3.	粗砂粒～砂粒を多く含む. 白色粒.	ナデ？	底径（11.1）cm.
125	3c	陶器	鉢台.1	外面：（釉）暗赤褐色2.5YR3/2.（無釉）灰褐色5YR4/2. 内面：橙色5YR6/6.	砂粒～微砂粒を含む.	回転ナデ.	底径3.4cm.
126	3c	陶器	蓋	外面：黒褐色7.5YR3/2. 内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	細砂粒を含む. 白色粒.	回転ナデ.	
127	3c	土師器	杯？	10R5/6赤色.	微砂粒を含む.	回転ナデ.	傾き不明.
128	3c	土師器	杯？	外面：浅黄色2.5Y7/3. 内面：明黄褐色10YR7/6.	微砂粒を含む.	回転ナデ.	
129	3c	土師器	杯？	浅黄橙色10YR8/3.	細砂粒を含む. 黒色粒.	（磨滅のため）不明.	
130	3c	土師器	杯？	にぶい黄橙色10YR7/3.	細砂粒を含む.	ヨコナデ.	傾き不明.
131	3c	土師器	杯？	にぶい黄橙色10YR7/4.	微砂粒を多く含む.	（磨滅のため）不明.	
132	3c	土師器	杯	橙色7.5YR6/6.	砂粒を多く含む. 白色粒・雲母.	外面：ヨコナデ. 底面・内面：ナデ.	底径（4.8）cm.
133	3c	土師器	杯？	浅黄橙色10YR8/4.	微砂粒を含む. 粗砂粒を少し含む. 赤色粒.	外面・内面：回転ナデ. 底面：糸切り起のちナデ.	底径（5.2）cm.
134	3c	土師器	杯？	外面・内面：浅黄橙色10YR8/3. 底面：黄灰色2.5Y6/1.	砂粒を少し含む. 赤色粒.	外面・内面：回転ナデ. 底面：糸切り底.	外面・内面：赤色顔料付着？底径（5.6）cm.
135	3c	土師器	杯？	灰白色2.5Y8/2.	微砂粒を含む.	外面：ナデ. 内面：回転ナデ. 底面：糸切り.	
136	3c	土師器	杯？	黄灰色2.5Y6/1.	微砂粒を少し含む.	外面：（剥落のため）不明. 内面：ナデ. 底面：糸切り底.	
137	3c	土師器	杯？	橙色7.5YR7/6.	砂粒を含む. 赤色粒.	（摩滅のため）不明.	
138	3c	土師器	皿	橙色7.5YR7/6.	微砂粒を含む.	ナデ.	
139	3c	須恵器	杯？	外面：灰色7.5Y4/1. 内面：灰色N5/.	微砂粒を含む.	ヨコナデ.	
140	3c	須恵器	杯	外面：オリーブ黒7.5Y3/1. 内面：灰色N4/. 高台内面：灰白色N7/.	細砂粒を少し含む.	回転ナデ？	
141	3c	須恵器	杯？	灰白色5Y7/1.	細砂粒を含む.	（摩滅のため）不明.	
142	3c	須恵器		外面上部：灰色N4/. 他：青灰色5PB5/1.	砂粒を多く含む.	回転ナデ.	
143	3c	須恵器		灰色N5/.	粗砂粒～細砂粒を多く含む. 白色粒.	ヨコナデ.	
144	3c	須恵器	蓋	オリーブ灰色2.5GY5/1.	微砂粒をわずかに含む.	ナデ.	
145	3c	磨石	石錘				口径（12.6）cm.
146	3c	磨石	石錘				

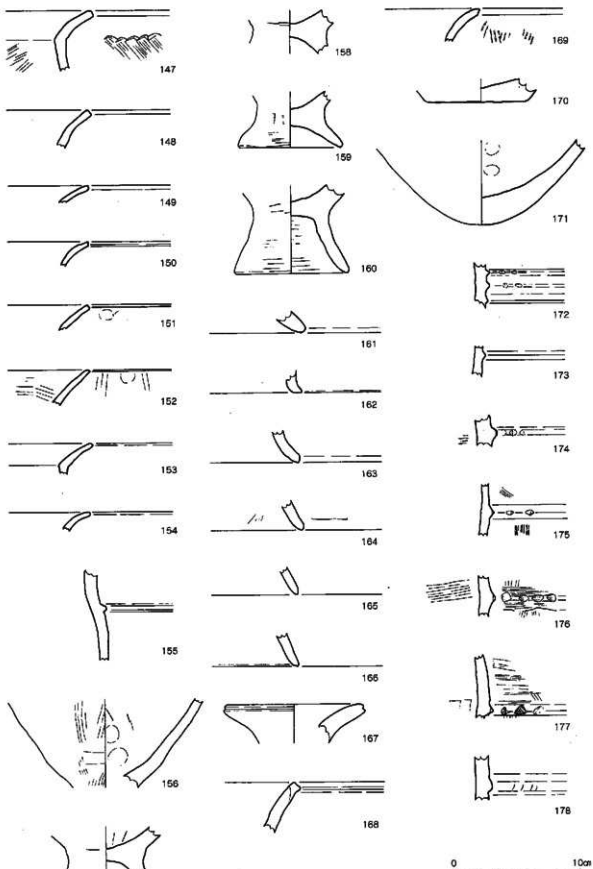


Fig.53　3C層出土遺物（2）　S＝1/3

Tab.16　3ｃ層出土遺物観察表（2）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
147	3ｃ	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/4. 内面：灰白色10YR8/2.	砂粒、細砂粒多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英．	口縁部：ヨコナデ．胴部：ハケのちナデ．	
148	3ｃ		甕	にぶい橙色7.5YR6/4.	粗砂粒を含む．白色粒・石英．	ナデ．	
149	3ｃ		甕	浅黄橙色10YR8/3.	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	ヨコナデ．	
150	3ｃ			にぶい赤褐色5YR5/4．	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英．	ヨコナデ．	
151	3ｃ			橙色5YR6/6.	粗砂粒・砂粒を含む．白色粒・赤色粒．	ヨコナデ．	
152	3ｃ			外面：にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：にぶい赤褐色5YR5/4.	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英．	口縁部：ナデ．他：ハケのちナデ．	
153	3ｃ	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 内面：にぶい褐色7.5YR6/3.	礫・砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石．	ヨコナデ．	
154	3ｃ	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR7/2．内面：橙色5YR6/6.	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	ヨコナデ．	
155	3ｃ・6		甕	外面：明灰色10YR8/2～にぶい橙色7.5YR6/4．内面：にぶい橙色7.5YR6/4．一部灰色N4/	粗砂粒・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	突帯：ヨコナデ．他：工具によるナデ．	
156	3ｃ		甕	外面：灰黄褐色10YR6/2．内面：にぶい黄橙色10YR7/3.	礫・砂粒・細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石	ハケのちナデ．	
157	3ｃ		甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/4. 内面：褐灰色10YR5/1．脚台内面：浅黄橙色10YR8/3～橙色5YR7/6.	礫・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．	外面上部・内面：ハケのちナデ．外面下部・脚台内面：ナデ．	
158	3ｃ		甕	外面脚台内面：橙色7.5YR7/6．内面：明褐色7.5YR5/6.	砂粒～微砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石．	外面上部・内面：ハケのちナデ．外面下部・脚台内面：ナデ．	
159	3ｃ	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4. 内面：褐灰色10YR5/1．脚台内面：7.5YR6/6.	礫・粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英・角閃石．	脚端部：ヨコナデ．内面：ナデ．他：ハケのちナデ．	脚径8.15cm.
160	3ｃ	古墳	壺	外面：明赤褐色5YR5/6．内面：赤褐色5YR4/6.	粗砂粒～細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	外面脚台上部：脚端部：ヨコナデ．他：ハケのちナデ．	脚径9.0cm.
161	3ｃ		壺	外面：灰黄褐色10YR6/2．内面：にぶい橙色7.5YR7/4.	粗砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英・角閃石	ナデ．	
162	3ｃ			外面：にぶい橙色5YR7/4．内面：にぶい黄橙色10YR7/4.	砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英．	ナデ．	
163	3ｃ		壺	外面：にぶい褐色7.5YR5/4. 内面：にぶい赤褐色5YR5/4. 断面：黒色7.5YR2/1.	砂粒・細砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石．	脚端部：ヨコナデ．他：ナデ．	
164	3ｃ		壺	にぶい黄橙色10YR7/3.	粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	外面・内面：ハケ？のちナデ．脚端部：ナデ．	
165	3ｃ		甕	黒褐色2.5Y3/1～にぶい橙色7.5YR7/4.	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	ナデ．	
166	3ｃ		甕	にぶい黄橙色10YR7/4.	砂粒を含む．	ナデ．	
167	3ｃ	弥生	壺	外面：橙色5YR7/6．内面：にぶい黄橙色10YR7/2.	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	口縁部：ヨコナデ．胴部：ハケのちナデ．	
168	3ｃ		壺	外面：橙色7.5YR7/6．内面：浅黄橙色10YR8/3.	礫・粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	ナデ．	
169	3ｃ・6		壺	明赤褐色2.5YR5/6.	粗砂粒・砂粒を含む．白色粒・角閃石．	口縁部：ヨコナデ．外面：ハケのちナデ．内面：ナデ．	外面：ススけ着．
170	3ｃ		鉢	外面：黄灰色2.5Y4/1．内面：にぶい黄灰色10YR7/2.	砂粒を少し含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．		内面：磨滅している．
171	3ｃ		壺	外面：浅黄橙色10YR8/3．内面：橙色5YR7/6.	粗砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．		
172	3ｃ	弥生？	壺	外面：橙色5YR7/6．内面：暗灰黄色2.5Y5/2.	砂粒～細砂粒を含む．白色粒・石英．	外面：ヨコナデ．内面：ナデ	磨滅している．
173	3ｃ		壺？	外面：黒色10YR2/1．内面：にぶい橙色7.5YR6/3.	細砂粒を含む．白色粒・赤色粒．	ヨコナデ．	
174	3ｃ		鉢？	明赤褐色2.5YR5/6.	粗砂粒を含む．白色粒・石英・赤色粒．	外面：ヨコナデ．内面：ハケのちナデ．	
175	3ｃ		壺	外面：筋分付遺のため不明．内面：にぶい赤褐色5YR5/4.	細砂粒を含む．白色粒・角閃石．	ハケのちナデ．	
176	3ｃ		壺	にぶい赤褐色5YR5/4.	粗砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石．	ハケのちナデ．	突帯刻み：ハケ原体による
177	3ｃ		壺	外面：灰白色10YR8/1．内面：にぶい黄橙色10YR6/3.	砂粒を多く含む．白色粒・角閃石．	外面突帯部：ヨコナデ．他：ハケのちナデ．	突帯刻み：布目圧痕．
178	3ｃ		鉢	外面：灰褐色7.5YR6/2．内面：浅黄橙色10YR8/3.	砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石．	外面：ヨコナデ．内面：ナデ	

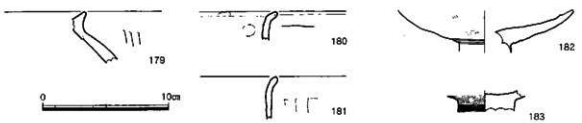


Fig.54　3C層出土遺物（3）　S=1/3

Tab.17　３ｃ層出土遺物観察表（3）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
179	3ｃ	弥生	鉢	橙色5YR6/8.	砂粒・細砂粒を少し含む．角閃石.	口縁部：ナデ．胴部外面：ハケのちナデ．胴部内面：紙分付着のため不明.	
180	3ｃ	弥生	鉢	外面：褐灰色10YR4/1．内面：灰黄褐色10YR5/2.	細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英.		外面：沈線あり.
181	3ｃ	弥生	鉢	にぶい黄橙色10YR7/3.	砂粒を多く含む．白色粒・角閃石.	口縁部～内面：ナデ．胴部外面：ハケのちナデ.	
182	3ｃ・0	古墳？	高杯	外面：にぶい黄橙色10YR7/4．内面：浅黄橙色10YR8/3.	砂粒を少し含む．白色粒・赤色粒・石英.	外面杯部：ハケのちナデ．脚部：ヨコナデ．内面：ナデ.	外面：赤色顔料付着.
183	3ｃ	古墳？	高杯	外面：（赤色顔料）赤7.5R4/6．内面：灰白色2.5Y7/1.	細砂粒を少し含む．白色粒・ミガキ.	外面：ミガキ．内面：ナデ.	外面：赤色顔料付着.

屈曲させ、胴部は張らない。口縁端部は少し丸みを帯びている。180は外面屈曲部下に横方向に一条の細沈線が認められるが、破片が小さいため、文様を意図しているのか、ナデ調整によるものなのか判断できない。

182・183は高杯である。182は杯部下部で、口縁部との接合面で欠損している。非常に磨滅しているが、外面わずかに赤色顔料が認められ、全面に顔料を塗付していた可能性が高い。183は杯部と脚部の接合部で、外面は赤色顔料を添付している。磨滅しているが、外面は横方向のミガキを施していたようである。

(5) Ⅳ層出土遺物 (Fig.51)

Ⅳ層からは陶器片１点と土錘が出土している。

116は土錘である。穴の両端と側面に紐ずれのようなくぼみが認められる。

(6) Ⅴ層出土遺物

Ⅴ層からは土器片４点が少量出土しているが、実測できるものはなかった。

(7) ６層出土遺物 (Fig.55～65)

６層からは磁器、陶器、瓦、須恵器、古墳時代の土器、弥生時代の土器が出土しているが、磁器、陶器、瓦、須恵器は土器に比べて非常に少ない。

184・185は磁器で、染付である。184は口縁部で、185は蓋である。

186・187は須恵器である。186は胴部屈曲部で、187は高台をもつ底部である。187の高台は低く、回転ナデによる凹凸が明瞭である。

188～192は土師器である。188は口縁部で、189・190は平底の底部である。190の底面には糸切り跡が認められる。191・192は外開きの器形を呈する高台である。

193～304は弥生時代から古墳時代の甕または鉢の破片である。

193は口縁部が短く、断面三角形状を呈し、端部がヨコナデによって窪んでいる。内面の屈曲部はヨコナデによって、屈曲部を明瞭に察えている。底部は脚台で、底面はわずかに中心部が上げ底状になっている。胴部付近が接合可能な破片がなかったため、胴部下部が欠損しているが、口縁形が大きく、逆三角形状の器形を呈するようである。頸部外面には横方向と縦方向のハケ目が施されている。他のハケがなで消されていることから、文様として施されている可能性が高い。また、この甕は、他の土器に比べて色調が赤く、特異である。

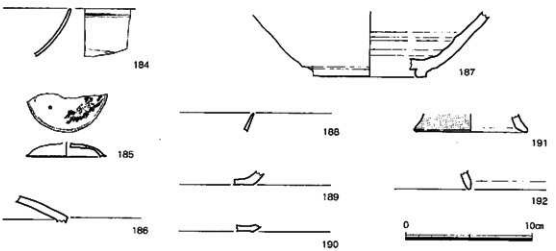


Fig.55　6層出土遺物　S=1/3

Tab.18　6層出土遺物観察表（1）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
184	6	陶付	鉢	半透明釉.	微砂粒をわずかに含む. 白色こす褐い粒.		
185	6	陶付	蓋	透明釉.	灰白色.	暗灰色の鳥涙による施文.	口径 (6.2) cm.
186	6	須恵器		外面・内面：青灰色5PB6/1. 胎土：黒灰色5PB/1.	細砂粒を多く含む. 白色粒・黒色粒.	回転ナデ.	
187	6	須恵器		内面・外面一部：明青灰色5PB7/1. 外面：暗青灰色5PB4/1. 胎土：紫灰色5P5/1.	細砂粒～微砂粒を含む.	回転ナデ.	底径 (9.0) cm.
188	6	土師器	杯？	橙色5YR6/8.	微砂粒を少し含む.	ナデ？	少し摩滅している.
189	6	土師器	杯？	浅黄色2.5Y8/3.	精選.	底面：ナデ. 外面・内面：ナデ.	
190	6	土師器	杯？	灰白色2.5Y8/2.	精選.	ナデ？底面：糸切り？	
191	6	土師器	杯？	灰白色10YR8/2. 一部顔料のため橙色5YR7/6.	細砂粒を少し含む. 角閃石.	ヨコナデ.	脚径 (9.0) cm. 赤色顔料付着.
192	6	土師器	杯？	明黄褐色10YR6/6. 内面：黄褐色2.5Y5/4.	砂粒・細砂粒を多く含む. 白色粒・赤色粒・角閃石.	ヨコナデ.	

194は口縁部から胴部上半部の破片で、口縁部が太く端部はヨコナデによって窪む形態を呈し、内面屈曲部はヨコナデによって整えられている。外面屈曲部直下に3条の断面三角形の突帯を貼り付けている。外面はススが付着しているが、他の土器に比べて丁寧に整形しており、シャープな作りである。

195口縁部から胴部上半部の破片で、口縁部は肥厚せず、くの字に緩く屈曲する形態を呈する。口唇部はヨコナデによって窪んでいる。

196～215は口縁部である。196は口縁部を三角形に肥厚させ、上面に平坦面を持つもので、口縁端部に小さな刻み目を施す。197～199は口縁部を断面四角形に肥厚し、若干上向きな形態を呈する。形態を呈する。断面で観察できる接合痕から口縁部は外面から貼り付けられたものである。199は粗雑な作りで、ゆがんでいる。200・201は口縁部がのびるが、屈曲部内面の稜線が明瞭で、口縁端部が細い形態を呈する。200は端部がすぼまり気味に丸く、201はヨコナデによって窪んでいる。202～207は口縁端部をヨコナデによって窪ませているもので、屈曲部まで残存している破片は、屈曲部が端部より若干太く、内面の稜線は明瞭である。208～211は屈曲部付近が太く、端部が細く、端部を丸く収める形態を呈するものである。208～210は口縁部上面が少し窪んでしゃくれている。内面稜線は明瞭である。212・213は屈曲部と端部の太さが変わらず、端部が丸く、内面稜線もゆるやかな

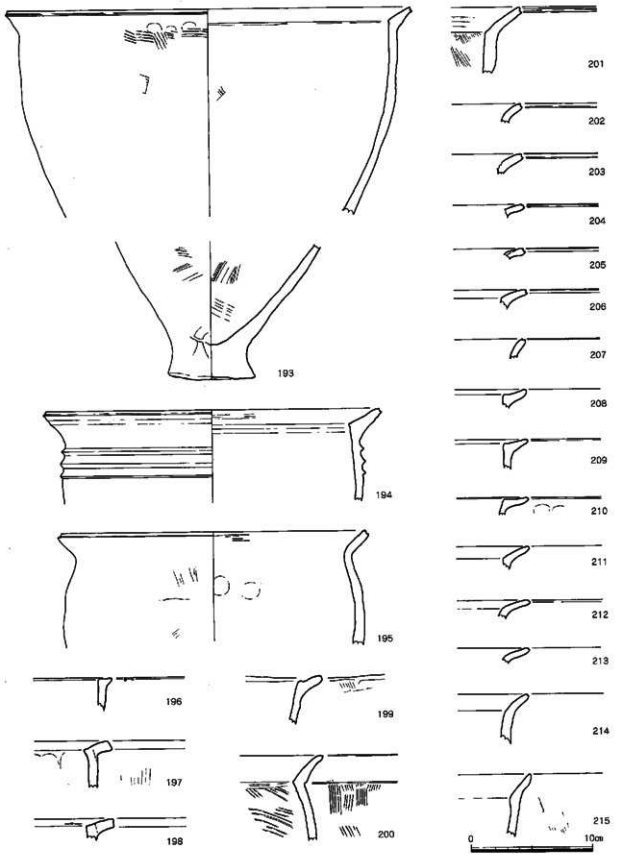


Fig.56　6層出土遺物（2）　S=1/3

Tab.19　6層出土遺物観察表（2）

図番号	層	時期	器種	色調	胎土	調整	備考
193	6	弥生	甕	明赤褐色5YR5/8．外面：スス付着のため一部暗褐色7.5YR3/3.	砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英・角閃石.	口縁部：ヨコナデ．胴部：ハケのちナデ．底部周縁辺部：ケズリ？のちナデ．中心部：ナデ.	口径：（31.8）cm．底径：7.2cm.
194	6	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2．一部スス付着のためオリーブ灰色5Y3/1．内面：にぶい褐色7.5YR5/4.	粗砂を含む．白色粒・赤色粒．角閃石.	口縁部～突帯：ヨコナデ．胴部内面：ナデ.	口径（28.1）cm.
195	6	弥生	甕	胴部外面：橙色5YR6/6．他外面：灰黄褐色10YR4/2．内面：浅黄橙色10YR8/3.	礫・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・黒色粒.	口縁部外面：ヨコナデ．胴部外面：ハケのちナデ．内面：ナデ.	口径（25.8）cm.
196	6	弥生	甕	灰白色10YR8/2.	砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英・有気.	ナデ.	外面：刻み目あり.
197	6	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR7/3.	礫・粗砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英.	内面～外面上部：ヨコナデ．外面下部：ハケのちナデ.	
198	6	弥生	甕	上面～外面：橙色5YR7/6．内面：灰色5Y5/1.	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英.	ヨコナデ.	
199	6	弥生	甕	外面：オリーブ黒5Y3/1．内面：褐灰色10YR5/1.	砂粒・細砂粒を含む．白色粒・角閃石.	口縁部：ヨコナデ．外面：ハケのちナデ．内面：ナデ.	
200	6	弥生	甕	外面：灰褐色5YR5/2．内面：にぶい橙色5YR7/4.	礫・砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石.	口縁部：ヨコナデ．胴部：ハケのちナデ.	
201	6	弥生	甕	にぶい橙色5YR7/4.	粗砂粒・砂粒を含む．白色粒・黒色粒・石英.	口縁部：ヨコナデ．胴部外面：ナデ．内面：ハケのちナデ	
202	6	弥生	甕	鉄分付着のため不明.	砂粒を少し含む．白色粒・石英・角閃石.	ヨコナデ.	
203	6	弥生	甕	橙色5YR6/6.	粗砂粒を含む．白色粒・石英.	ヨコナデ.	
204	6	弥生	甕	灰褐色7.5YR5/2.	砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石.	ヨコナデ.	
205	6	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR6/4.	粗砂粒を少し含む．白色粒・石英.	ヨコナデ.	
206	6	弥生	甕	黄灰色2.5Y4/1.	細砂粒を多く含む．石英・角閃石.	ヨコナデ.	
207	6	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR6/4.	砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英.	ナデ.	
208	6	弥生	甕	浅黄橙色10YR8/3.	細砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石.	ヨコナデ.	
209	6	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR7/4.	細砂粒を含む．白色粒・黒色粒・石英・角閃石.	ヨコナデ.	
210	6	弥生	甕	灰褐色7.5YR5/2.	細砂粒を含む．白色粒・角閃石.	ヨコナデ.	
211	6	弥生	甕	にぶい赤褐色2.5YR4/4.	細砂粒を少し含む．白色粒.	ヨコナデ.	
212	6	弥生	甕	浅黄橙色7.5YR8/4.	粗砂粒を含む．赤色粒・黒色粒・石英.	ヨコナデ.	
213	6	弥生	甕	褐色7.5YR4/4.	細砂粒を少し含む.	ヨコナデ.	
214	6	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/4．内面上部：（赤色顔料？）橙色2.5YR6/8．内面下部：灰黄色2.5Y6/2.	砂粒を含む．白色粒・黒色粒・石英・雲母.	外面～内面上部：ヨコナデ．内面下部：ナデ.	内面：赤色顔料付着？
215	6	弥生	甕	明橙色7.5YR8/6.	礫～砂粒を含む．赤色粒・石英	外面口縁部～内面：ヨコナデ．外面胴部：ハケのちナデ.	

ものである。214・215は端部が丸く、口縁部もくの字状に立ち上がる形態を呈するが、屈曲部が端部より若干太く、内面稜線が残っているものである。

216・217は小型の甕である。口縁部が緩やかにくの字に屈曲するもので、接合不可能のため、図示していないが胴部下半部と考えられる破片も残存する。217は脚台底面が上げ底状で、脚部が低い。口縁部の屈曲もかなり緩やかである。

218～220はくの字に緩く屈曲する口縁部を持つ甕である。218は底部まで残存しており、脚部が小さく、胴部最大径が胴部の上位に位置する器形を呈する。脚部は低く、天井部が丸い。胴部に縦5cm、横4cmの焼成後の穿孔が認められる。外面上半部はススが付着しており、脚端部は赤色化して、二次的な加熱を受けているようである。219は器壁が薄く、外面内面ともにハケ調整が明瞭である。外面は全面にススが付着している。220は外面下半部にススの付着が認められる。220は口縁径が大きく、器高が低く、鉢形を呈する。

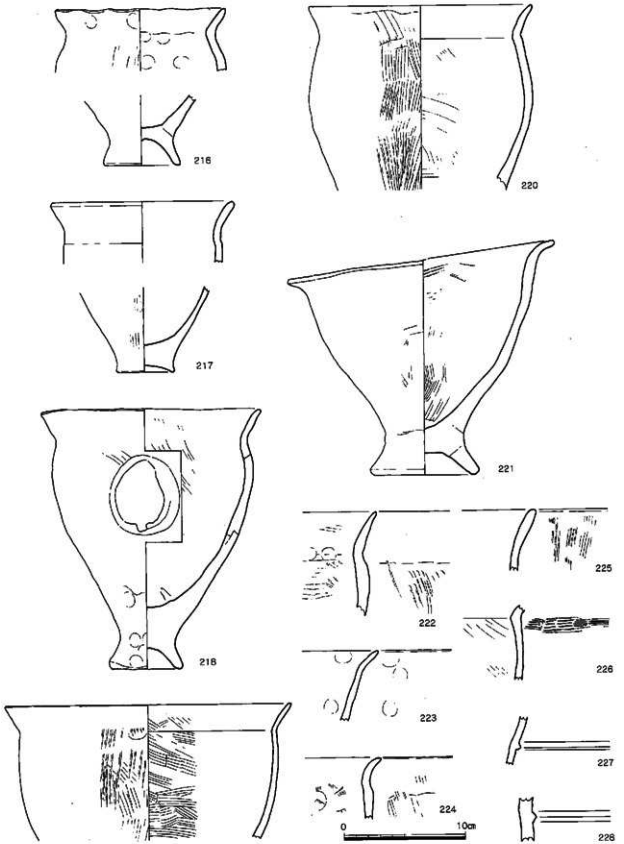


Fig.57　6層出土遺物（3）　S=1/3

Tab.20　6層出土遺物観察表（3）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
216	6	弥生	甕	口縁部外面：黒色5Y2/1．口縁部内面：にぶい褐色7.5YR5/3．脚台外面：灰黄褐色10YR5/2．脚台内面：褐灰色10YR4/1．内面：にぶい黄橙色10YR6/3．	礫・粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	口縁部・脚部：ヨコナデ．胴部外面：ハケのちナデ．内面：ナデ．	口径（14.0）cm．脚径8.4cm
217	6	弥生		口縁部付近外面：にぶい橙色7.5YR7/4．底部付近外面：橙色7.5YR7/6．内面：灰褐色7.5YR5/2．	礫・粗砂粒を含む．白色粒・赤色粒・黒色粒．	口縁部：ヨコナデ．胴部：ナデ．胴部外面：ハケのちナデ．底部付近：ヨコナデ．胴部内面：ナデ．	口径（15.2）cm．底径5.0cm
218	6	弥生	甕	橙色5YR7/8．	礫・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・角閃石．	口縁部：ヨコナデ．胴部：ハケのちナデ．胴部：ナデ．	焼成後穿孔有り．口径17.25cm．底径6.1cm．器高20.55cm
219	6	弥生	甕	外面：スス付着のため褐灰色10YR4/1．内面：橙色7.5YR7/6．	礫・粗砂粒を多く含む．白色粒・石英．	口縁部：ヨコナデ．胴部：ハケのちナデ．	口径（23.9）cm．
220	6	弥生	甕	淡黄橙色10YR8/4．器肉：褐灰色10YR5/1．	粗砂粒を含む．白色粒・赤色粒．	外面：内面胴部：ハケのちナデ．口縁部：ヨコナデ．	口径（18.5）cm．
221	6・3c	弥生	鉢	口縁部～内面：にぶい橙色7.5YR6/4．胴部外面：にぶい黄橙色10YR7/3．脚部：黄灰色2.5Y4/1．内面：にぶい橙色7.5YR8/4．	礫・砂粒を含む．赤色粒・	口縁部：ヨコナデ．胴部外面・脚台：ナデ．内面：ハケのちナデ．	口径（21.0）cm．脚径9.5cm．器高15.3～18.5cm．かなりゆがんでいる．
222	6	弥生	甕	7.5YR8/6．	礫～砂粒を含む．白色粒・石英．	口縁部：ヨコナデ．他：ハケのちナデ．	
223	6	弥生	甕	黄灰色2.5Y4/1．	粗砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．	ナデ．	
224	6	弥生	壺	外面：にぶい橙色5YR6/4．内面：7.5YR8/3．	粗砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	ナデ？	磨滅している．口径11.5cm
225	6	弥生	甕？	外面：灰黄褐色10YR4/2．内面：明黄褐色10YR6/6．	粗砂粒を含む．白色粒・黒色粒・石英．	口縁部：ヨコナデ．外面：ハケのちナデ．内面：ナデ．	
226	6	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1．内面：にぶい橙色．7.5YR6/4．	砂粒を含む．白色粒・赤色粒．	外面・内面上部：ナデ．胴部内面：ハケのちナデ．	外面：ハケ工具による施文
227	6		甕	外面上部：にぶい褐色7.5YR5/3．外面下部：黒色．5YR5/6．内面：橙色2.5YR6/6．	砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石．	外面：ヨコナデ．内面：ナデ．	
228	6		甕？	外面：にぶい橙色7.5YR6/4．内面：にぶい黄橙色10YR7/4．	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	外面：ヨコナデ．内面：ハケのちナデ．	

口縁部は端部が如意形を呈し、ゆがんで傾いている。外面は丁寧なナデを施しているが、胴部上半部にススの付着が認められる。

222～225は緩く外反する口縁部である。222・224は端部が細く、頸部の直下が張る器形を呈する。

226は頸部から腰部の破片だが、内面屈曲部が明瞭で、その外側には見かけ１条の横方向のハケが認められる。これは、横方向に短く何度か引いて施しており、ほかの部分を丁寧にナデていることから、文様として施した可能性が高い。

227・228は胴部の突帯部である。突帯以上が外に広がると考えられる器形、また、228の外面にススが付着していることから、甕であろうと判断した。

229～287は脚台または脚台付近の破片である。229～231はいわゆる「充実脚台」である。231は接合面で欠損しており、接合痕と、接合面に沈線が施してあるのが観察できた。

232・233は胴部下半部で、逆ハの字の器形を呈する。233は脚部との接合面で欠損している。234～244も胴部と脚台との接合部付近で、235・236・239・242・243・244が脚部との接合部で欠損している。ほとんど胴部と脚部の境を始点として胴部外面のハケ調整を行っていることがわかる。

245～253は低い脚台で、脚がハの字に開く形態を呈する。245は胴部との接合部で欠損している。246は太い脚部をもち、脚径に比べて脚高が低い。247～253はほとんど端部が細長く、天井部が丸い形態を呈する。

254・255は端部が太く、255は脚高が高い。天井部も平坦部をもつ。

256・257は胴部の底・脚部の天井部にあたり、脚部と胴部の接合部で欠損している破片である。

258～287は脚部である。258・259は端部の破片だが、太く、短い脚部だと推定できる。260は少し湾曲しながらハの字に開く脚部で、端部が丸い。261は湾曲しながら直立に近い立ち上がりの器形を呈する。

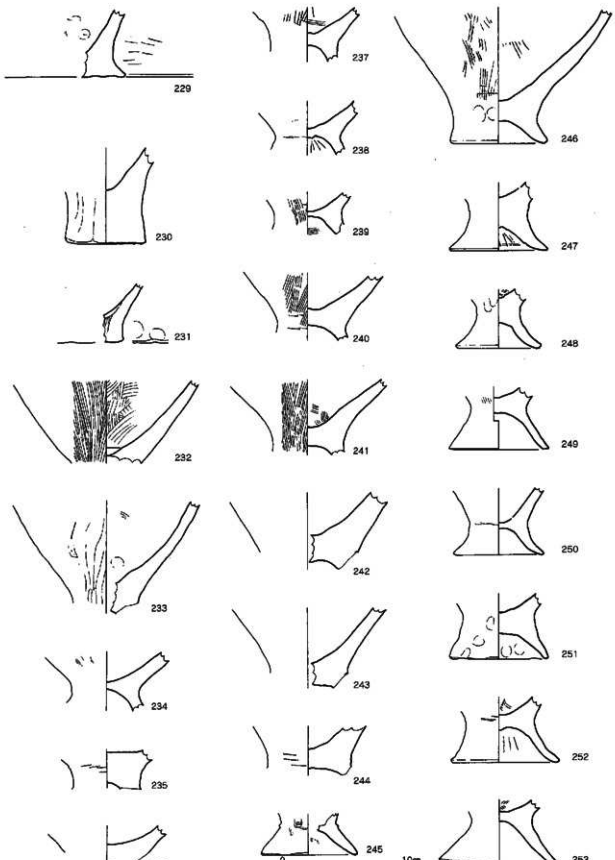


Fig.58　6層出土遺物（4）　S＝1/3

Tab.21　6層出土遺物観察表（4）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
229	6	弥生	甕	橙色5YR6/6．胴内：黄灰色2.5Y4/1．	粗砂粒～細砂粒を多く含む．石英・白色粒．	ハケのちナデ．	
230	6	弥生	甕	外面：橙色7.5YR7/6．内面：黒褐色10YR3/2．底面：灰黄褐色10YR4/2．	粗砂粒～細砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	ナデ．	
231	6	弥生	壺	外面：灰黄褐色10YR6/2．内面：にぶい黄橙色10YR7/4．	粗砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．	ナデ．	接合痕に刻みあり．
232	6		鉢	外面：橙色5YR6/6．内面：にぶい橙色7.5YR7/4．	礫・砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	ハケのちナデ．	
233	6		甕	外面：橙色7.5YR7/6．内面：灰黄褐色10YR6/2．	粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	胴部上部：ハケのちナデ．胴部下部：脚台内面：ナデ．	
234	6		甕	外面：黄い橙色7.5YR6/4．内面：灰白色2.5Y8/4.5/1．	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	外面胴部：ハケのちナデ．脚台外面：内面：脚台内面：ナデ．	
235	6		甕	にぶい赤褐色5YR5/4．	礫・粗砂粒を多く含む．白色粒・石英．	外面上部：ハケのちナデ．他：ナデ．	
236	6		甕	灰白色10YR8/2．	礫・粗砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒．	ナデ．	
237	6		甕	外面：にぶい赤褐色5YR5/4．内面：にぶい赤褐色5YR4/3．	粗砂粒を含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	外面上部・内面：ハケのちナデ．外面下部：ヨコナデ．脚台内面：ナデ．	
238	6		甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4．内面：（オコゲのため）黒．脚台内面：黄灰色2.5Y6/1．5．	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	外面・脚台内面：ハケのちナデ．内面：ナデ？	
239	6		甕	外面：にぶい赤褐色2.5YR5/6．内面：にぶい赤褐色5YR5/4．	礫（赤色粒）・砂粒を多く含む．石英．	外面：工具によるナデ．内面：ハケ？のちナデ．脚台内面：ハケ？のちナデ．	
240	6			外面：にぶい橙色7.5YR7/4～橙色5YR7/6．内面：灰褐色7.5YR5/2．	粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	外面：ハケのちナデ．内面・脚台内面：ナデ．	
241	6		甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4．内面：灰黄褐色10YR6/2．	粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	外面・内面：ハケのちナデ．	
242	6		甕	外面：浅黄橙色2.5YR8/3．内面：黄灰色2.5Y5/1．断面：赤褐色10R6/6．	粗砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石．	ナデ．	
243	6		甕	鉄分付着のため不明．	礫・砂粒を含む．白色粒・赤色粒．	ナデ．	
244	6		鉢	外面：浅黄橙色10YR8/3．内面：黒褐色10YR3/1．	礫・粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	外面：ハケのちナデ．内面・脚台内面：ナデ．	摩滅している．
245	6	弥生	壺	外面：浅黄色10YR8/4．内面：にぶい黄橙色．	砂粒を含む．白色粒・赤色粒．	外面：ナデ．内面：ハケのちナデ．	脚径（7.8）cm．
246	6	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4～6/4．内面：にぶい橙色7.5YR7/4．底部付近：黄灰色2.5Y5/1．	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	外面・胴部内面：ハケのちナデ．脚台外面～内面：ヨコナデ．	脚径8.65cm．
247	6	弥生	壺	外面：明赤褐色5YR5/6．内面：黒褐色10YR3/1．	粗砂粒・砂粒を含む．白色粒・石英．	外面～脚端部：ヨコナデ．脚台内面：板状工具による調整．	脚径（7.7）cm．
248	6	弥生	壺	外面：橙色7.5YR5/6．内面：灰褐色7.5YR5/2．脚台内面：にぶい橙色7.5YR7/4．	粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	脚部：横方向のナデ．外面上部：ハケのちナデ．	脚径（6.8）cm．
249	6	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR6/4．内面：黄橙色10YR6/5．脚台内面：黄い橙色10YR6/3．	砂粒・細砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石．	外面上部：ハケのちナデ．脚：ヨコナデ．内面：ナデ．	脚径（7.8）cm．
250	6	弥生	壺	外面：赤橙色10R6/6．内面：浅黄橙色10YR8/3．	粗砂粒・細砂粒を多く含む．	胴部外面：ハケのちナデ．脚台：ヨコナデ．内面：調整のため不明．	脚径（7.1）cm．
251	6	弥生	壺	橙色2.5YR5/8．	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	ナデ．	脚径（7.6）cm．
252	6	弥生	壺	外面：橙色5YR6/6．内面・脚台内面：黒色7.5YR1.7/1．	粗砂粒～細砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	外面上部：ハケのちナデ．外面：ヨコナデ．内面：ナデ．	脚径7.6cm．
253	6	弥生	壺	外面：橙色5YR6/6．脚台内面：赤灰色2.5YR4/1．内面：赤黒色2.5YR2/1．	粗砂粒～細砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	脚外内面：横方向のナデ．内面：ハケのちナデ．	脚径5.3cm．

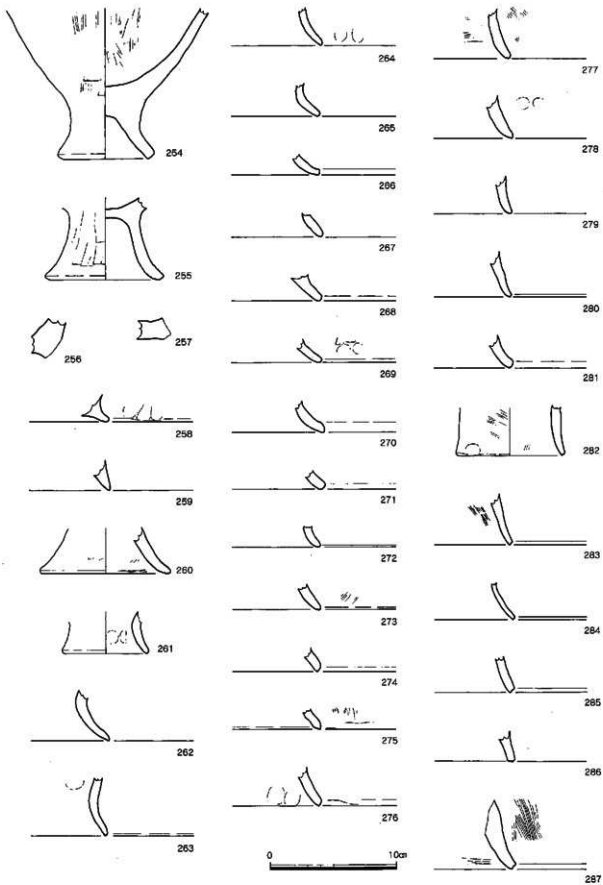


Fig.59　6層出土遺物（5）　S=1/3

Tab.22　6層出土遺物観察表（5）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
254	6		甕	外面：橙色7.5YR7/6．内面：黒色．	粗砂粒を多く含む．	胴部外面：内面：ハケのちナデ．胴端部：ヨコナデ．胴部：ナデ．	
255	6		甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4．内面：10YR6/1．胴片内面：赤褐色2.5YR5/8．	礫・粗砂粒を多く含む．雲母・白色粒・赤色粒・石英．	外面：ハケのちナデ．胴台内面～胴端部：内面：ナデ．	脚径（9.4）cm．
256	6		甕	外面：磨滅のため不明．内面：にぶい橙色7.5YR7/3～明赤褐色2.5YR5/8．	粗砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石．	外面：胴台内面：磨滅のため不明．内面：ナデ．	
257	6		甕				
258	6		甕	赤橙色10YR6/8．	細砂粒を少し含む．白色粒・石英．	ナデ．	
259	6		甕	にぶい黄橙色10YR5/4．	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	ナデ．	
260	6		甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4．内面：にぶい黄橙色10YR7/3．	砂粒を多く含む．白色粒・石英．	脚端部：ヨコナデ．他：ハケのちナデ．	脚径（10.4）cm．
261	6		甕	内面：灰黄褐色10YR 4/2．脚台内面：褐灰色10YR5/1．	黒粒粒を多く含む．		
262	6		甕	にぶい赤褐色5YR5/3．器肉：淡黄橙色7.5YR8/3．	砂粒を多く含む．石英・赤色粒・角閃石・白色粒．	ナデ．	
263	6		甕	淡黄橙色7.5YR8/3．	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒．	ナデ．	
264	6		甕	にぶい橙色7.5YR7/4．	砂粒を少し含む．白色粒・石英・角閃石．	ヨコナデ．	
265	6		甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/4．脚端部：にぶい褐色7.5YR5/4．	細砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒．	ナデ．	
266	6		甕	橙色5YR6/6．	砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英．	外面：ナデ．内面：磨滅のため不明．	内面：磨滅している．
267	6		甕	鉄分付着のため不明．	砂粒を含む．	不明．	鉄分付着．
268	6		甕	鉄分付着のため不明．	鉄分付着のため不明．	外面～脚端部：ヨコナデ．内面：ナデ．	
269	6		甕	外面：にぶい赤褐色2.5YR4/4．内面：灰色5Y4/1．	礫・砂粒を含む．白色粒・角閃石．	外面上部：ハケ？のちナデ．脚端部：ヨコナデ．内面：ナデ．	
270	6		甕	外面：浅黄橙色10YR8/3．内面：にぶい黄橙色10YR7/3．	細砂粒を含む．石英・赤色粒．	外面：ナデ．内面：ヨコナデ．	
271	6		甕	浅黄色2.5Y7/4．	砂粒を含む．白色粒．	磨滅のため不明．	
272	6		甕	鉄分付着のため不明．	鉄分付着のため不明．	ヨコナデ．	
273	6		甕	橙色7.5YR7/6．	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	外面～脚端部：ハケのちヨコナデ．内面：ナデ．	
274	6		甕	外面：橙色2.5YR6/6．内面：にぶい黄橙色10YR8/3．器肉：灰赤色10R6/2．	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	ナデ．	
275	6		甕	外面：黄橙色10YR5/6．内面：にぶい黄橙色10YR6/3．	細砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	外面：ハケ．内面～脚端部：ヨコナデ．	
276	6		甕	外面：淡黄色2.5Y8/3～黄灰色2.5Y6/1．内面色：黒色2.5Y2/1．	砂粒・細砂粒を多く含む．白色粒・石英．	ナデ．	外面：磨滅．
277	6		甕	外面上部：浅黄橙色10YR8/3．外面下部・内面：にぶい橙色2.5YR6/4．	粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	外面・内面：ハケのちナデ．脚端部：ヨコナデ．	
278	6		甕	外面：			
279	6		甕	にぶい黄橙色10YR7/4．	粗砂～細砂粒を多く含む．白色粒・石英．	ヨコナデ．	
280	6		甕	橙色5YR6/6．	粗砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英．	ナデ．	
281	6		甕	にぶい黄橙色10YR7/3．	砂粒を多く含む．赤色粒・白色粒．	ヨコナデ．	
282	6		甕	にぶい橙色7.5YR6/4．	粗砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・石英．	脚端部：ナデ．他：ハケのちナデ．	脚径（8.6）cm．
283	6		甕	にぶい黄橙色10YR6/3．	砂粒を多く含む．白色粒．	外面：ナデ．内面上部：ハケ．内面下部～脚部：ヨコナデ．	
284	6		甕	橙色2.5YR6/6．	細砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石．	ナデ．	
285	6		甕	灰黄色2.5Y7/2．	粗砂・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	ナデ．	
286	6		甕	橙色7.5YR6/6橙色．	砂粒を多く含む．白色粒・石英・黒色粒・赤色粒．	外面～脚端部：ヨコナデ．内面：ナデ．	
287	6		甕	にぶい黄橙色10YR7/3．	粗砂粒を密集に多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英．	脚端部：ヨコナデ．他：ハケのちナデ．	

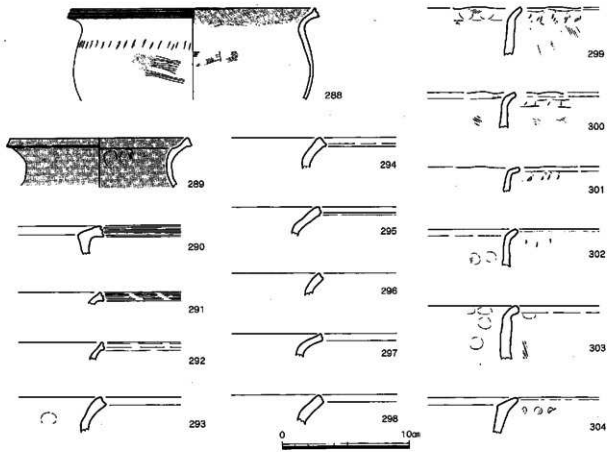


Fig.60　6層出土遺物（6）　S=1/3

器壁も細い。262～265は長く細い脚部で、湾曲する形態を呈する。276～280・282～287も長い脚部で、282～285・287は端部に平坦面をもち、287・288はヨコナデ調整によって若干窪んでいる。

288～298は口唇部を肥厚させているものである。288は口唇部に2条の凹線を、胴部に列点文を施しているが、これはヘラ状の工具で押し引くように施文している（PL42-5）。器壁が薄く、丁寧な作りである。口唇部と胴部の一部に赤色顔料が付着しており、外面全面に顔料を施していた可能性が高い。289は口唇部を肥厚させ、頸部内面に稜線を持つ。磨滅して色が薄くなっているが、外面・内面とも赤色顔料が付着している。これも海手の作りだが、胎土中に赤色の礫が多く含まれているのが特徴である。291は口唇部に2条の凹線を施し、少し上向きのL字状の口縁部で、内面に明瞭な稜線を持つ。291も肥厚した口唇部に凹線を施している。292は若干肥厚させた口唇部の端部を凹線状に窪ませている。293～289は口縁部が端部に向かって太くなり、口唇部平坦面か、若干窪んでいる形態を呈する。299～304は口縁端部を少し上向きに外側にゆるく屈曲させ、外側屈曲部直下に刻み目を施している。この刻み目は非常に浅く、刻み自体が少し湾曲しており、爪で施しているようである。304は口縁部が断面三角形状を呈し、少し上向きで、内面には明瞭な稜線を持つ。屈曲部外面に浅く丸い連点を施している。

305～365は壺である。305は口縁部が逆ハの字に広がり胴部が張る器形を呈し、平底である。口唇部はヨコナデによって窪ませており、頸部内面の屈曲部には稜線を持たない。外面にハケが認められるが、他の土器に比べて細く、作りが丁寧である。306は口唇部が丸く、なで肩で、底面が凸レンズ状に近い平底を呈する壺である。外面は丁寧なナデを施しており、接合不可能のため図示しなかった胴部下半部と考えられる破片の中にハケ調整ののち施した縦方向のミガキ痕が観察できるものがあったため、外面にミガキを施して

Tab.23　6層出土遺物観察表（6）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
288	6	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR5/3～にぶい黄橙色10YR7/3、一部赤色顔料付着のため赤色10R5/6、内面：灰黄褐色10YR6/2～にぶい黄橙色10YR7/3.	粗砂粒・細砂粒を少し含む。白色粒・赤色粒。	口縁部：ヨコナデ、外面：ミガキ、内面：ハケ？のちナデ	口径（20.8）cm. 赤色顔料付着.
289	6	弥生	甕	浅黄橙色10YR8/3.（赤色顔料付着部分）にぶい橙色5YR7/4.	礫・粗砂粒を多く含む。白色粒・赤色粒・石英.	口縁部～外面：ヨコナデ、端部内面：ナデ.	端 口径（14.8）cm.
290	6	弥生		外面：灰白色7.5YR8/2. 内面：橙色5YR7/6.	砂粒を含む。白色粒・赤色粒.	ヨコナデ.	
291	6	弥生		褐灰色7.5YR5/1.	細砂粒を少し含む。白色粒・黒色粒・石英.	ヨコナデ.	外面：赤色顔料付着？
292	6	弥生		にぶい赤褐色2.5YR4/3.	細砂粒を含む。白色粒.	ナデ.	
293	6	弥生		褐灰色5YR4/1.	礫・粗砂粒を多く含む。白色粒・石英・角閃石.	ヨコナデ.	
294	6	弥生		外面：にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：灰色5Y4/1.	礫～砂粒を含む。白色粒・角閃石.	ヨコナデ.	
295	6	弥生		外面：にぶい赤褐色5YR5/4. 内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	砂粒を含む。白色粒・角閃石・石英.	ヨコナデ.	
296	6	弥生		橙色5YR6/6.	細砂粒を含む。白色粒・黒色粒.	ヨコナデ.	
297	6	弥生		にぶい橙色7.5YR6/4.	粗砂粒を含む。白色粒・赤色粒・石英・角閃石.	ヨコナデ.	
298	6	弥生		外面：にぶい橙色7.5YR6/4. 内面：褐灰色10YR 4/1.	粗砂粒を多く含む.	ヨコナデ.	
299	6	弥生	鉢	橙色7.5YR7/6.	細砂粒を含む。白色粒・黒色粒・石英.	口縁部付近：ナデ、他：ハケのちナデ.	外面：刺突文あり.
300	6	弥生	鉢	外面：褐灰色10YR4/1. 内面：灰黄褐色10YR5/2.	細砂粒を含む。白色粒・石英.	口縁部付近：ナデ、他：ハケのちナデ.	外面：刺突文あり.
301	6	弥生	鉢	外面：黄灰色2.5Y4/1. 内面：にぶい黄橙色10YR6/3.	砂粒・細砂粒を含む。白色粒・石英・角閃石.	ナデ.	外面：刺突文あり.
302	6	弥生	鉢	にぶい橙色7.5YR6/4.	細砂粒を含む。白色粒・石英.	口縁部～外面：ナデ、内面：ハケのちナデ.	外面：刺突文あり.
303	6	弥生	鉢	橙色5YR6/6.	細砂粒を含む。白色粒・赤色粒・石英・角閃石.	口縁部～内面：ナデ、外面：ハケのちナデ.	
304	6	弥生	鉢	橙色5YR6/6.	礫・細砂粒を少し含む。白色粒・石英・角閃石.	外面：ナデ、内面：ヨコナデ	外面：刺突文あり.

いた可能性もある。307は口縁部が少し外に開き、なで肩の器形を呈する。口唇部はヨコナデによって窪んでおり、肩部には4条の断面三角突帯が貼り付けられている。若干摩滅しているが、シャープな作りで、甕194と調整や胎土の質感が似ている。310～312は端部を窪ませ、湾曲しながら外反する器形を呈する口縁部である。312は、壺ではなく、甕か鉢の可能性もある。308は口縁部が直線的に逆への字に外反し、胴部が張り、凸レンズ状の平底を持つ。胴部最大径にあたる部分に2条の突帯を施している。頸部内面には横線は付かない。磨滅している。309は口縁部が短く外反し、なで肩で、脚台状に立ち上がる器形を呈する壺で、口唇部はくぼみ、胴部最大径の位置に1条の突帯を施す。底面は凸レンズ状の平底である。口縁部と胴部、底部はそれぞれ接合できなかったが、色調、ハケ調整と胎土の特徴から同一個体と判断できた。313は砲弾形を呈する長脚の壺である。口縁部が短く直線的に外反し、底面は小さく、凸レンズ状を呈する。314は胴部が張り、尖り気味の小さな平底を持つ壺である。ハケ調整は荒く凹凸が激しく、ハケ目も太い。1条の刻み目突帯を胴部最大径の位置に施している。324～326は口唇部が細く、湾曲しながら外反する口縁部である。315は口縁部と底部であるが、器壁の薄さ、表面と器肉の色調等から同一個体と判断した。器壁が薄く、器肉が黒いのが特徴である。口縁部は直線的に外反する器形を呈し底部は底面付近を欠損しているが、小さい平底か凸レンズ状の底面になるようである。316～323は外反する口縁部で、口唇部が平坦面をもつかヨコナデによって若干窪んでいるものである。327は大型の壺で、口縁部から胴部上半である。口縁部は湾曲しながらハの字に外反し、肩部がかなり張る器形を呈し、口唇端部は若干窪ませて、その直下に細かい刻み目を施している。頸部から肩部にかけては、1条の擬状文とその下に3条ずつの櫛描波状文と櫛描

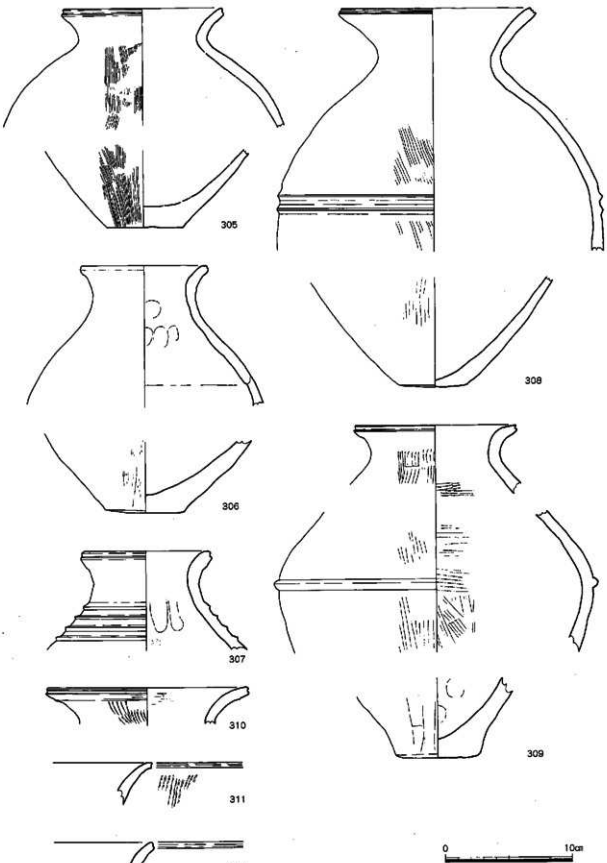


Fig.61　6層出土遺物（7）　S=1/3

Tab.24　6層出土遺物観察表（7）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
305	6	弥生	壺	外面～口縁部内面：にぶい橙色7.5YR7/4．内面：浅黄橙色7.5YR7/2．	細砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英・角閃石．	口縁部：ヨコナデ．外面：ハケのちナデ．内面：剥落のため不明．底面：ナデ．	
306	6・3c	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4．口縁部内面：にぶい橙色7.5YR7/3．底部内面：オリーブ黒色5Y3/1．	礫・砂粒・細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・角閃石．	口縁部：ヨコナデ．外面胴部：下端ナデ．底部外面：ハケのち丁寧ナデ．内面：ナデ．	口径（10.2）cm．底径3.3cm
307	6	弥生	壺	外面：橙色7.5YR7/6．内面・底面：にぶい橙色7.5YR7/4．	粗砂粒を多く含む．白色粒・石英．	口縁部～胴部外面：ヨコナデ．底部外面：ナデ．胴部内面：ユビナデ．頸部内面ハケのちナデ．底部内面：摩滅のため不明．	口径（10.4）cm．底径6.2cm
308	6・SD21	弥生	壺	外面：口縁部橙色5YR6/6．肩部～胴部～底部付近にぶい橙色7.5YR6/4．内面：口縁部にぶい橙色7.5YR6/4．胴部～底部にぶい黄橙色10YR7/3．	粗砂粒を多く含む．赤褐色．	外面：口縁端部付近・胴部交帯ヨコナデ．口縁部端外方向のハケ．胴部ハケのちナデ．底面ナデ．内面：口縁部横方向のハケ．胴部ナデ？	内面：虫食い状に剥落．
309	6	弥生	壺	口縁部外面・内面：橙色．2.5YR6/6．胴部外面：にぶい橙色7.5YR7/4．	砂粒・細砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒．	口縁部：交帯：ヨコナデ．他：ハケのちナデ．	口径（17.0）cm．胴部最大径（25.6）cm．底径6.7cm．
310	6	弥生	壺	にぶい橙色7.5YR6/4．	礫・砂粒・細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	口縁部：ヨコナデ．他：ハケのちナデ．	口径（16.1）cm．
311	6	弥生	壺	にぶい赤褐色5YR5/4．	粗砂粒・砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石．	口縁部：ヨコナデ．外面：ハケのちナデ．内面：ナデ．	
312	6	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR6/3．内面：にぶい橙色7.5YR6/4．	砂粒・細砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石．	ヨコナデ．	

直線文を交互に施している。328～331は口縁部を肥厚させ、または肥厚部をへの字形に下げた形態を呈する口縁部である。328は外面にミガキを施している。331は肥厚させた外面に細い斜線を施している。332は肩部と底部である。色調や胎土から同一個体と考えられる破片はあったが、接合できなかった。頸部から口縁部の屈曲部は緩やかなようであり、表面が大変磨滅しているが、肩部には櫛描波状文が認められる。底部は凸レンズ状の平底で、内面のハケ調整があらい。333は壺の肩部で無文のものである。なで肩の器形で、内面に接合線が認められる。334は壺の肩部で、外面に擬縄文と思われる文様を施している。非常に磨滅している。335は壺の肩部の破片だが、外面に列点文を施している。336は頸部から肩部で、口縁部への屈曲きつく、かなり肩の張る器形のようである。

337～342は胴部突帯である。337は断面三角突帯が3条施している。338～342は1条の刻み目突帯で、341と342はハケ工具による刻みを施している。343・344は肩部の突帯で、幅が広く、低い。344は突帯に凹線状の刻みを施している。345は胴部の幅広突帯で、ハケ状の工具で、格子文を施している。

346～365は底部である。346・347はややあげぞこ気味の底部である。346は高台状を呈し、丁寧なナデ調整を行っている。348～351は平底である。352～357・360は平底だが、胴部への立ち上がり部がにぶい。360は底面が楕円形を呈する。358・359・361～363は底面が凸レンズ状を呈する。363の内面は、放射線状に押し引いたハケが観察できる。364は小さな平底で、尖り気味の器形を呈する。365は底面が僅かに肥厚している。

366は短径壺である。底部を欠損している。外面には縦方向の5㎜単位の細かいハケを間隔をあけて施しており、その後胴部に線刻文を施している。文様は1本の横線と、その上に3本の弧、横線と弧との間に斜めに1本の線を描いているが、一番上の弧は途中で1cm幅のハケによって消されている。沈線の中には、細かいハケ状の凹凸が認められる。

367は小壺であると考えられる。底部は厚く、底面は凸レンズ状で、なで肩で下膨らみの器形を呈する。非常に磨滅している。

368は脚部である。器種は不明である。端部はヨコナデによって若干くぼみ、外面・内面とも細かいハケを施している。

369は鉢である。直交する口縁部で、底部は厚い。ユビオサエの痕が明瞭である。

370は端部を窪ませた少し上向きの突帯で、その形

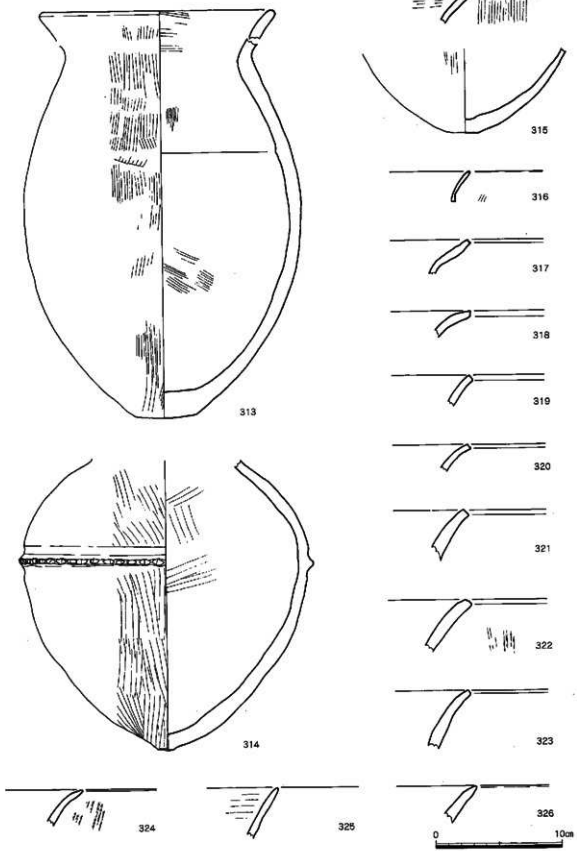


Fig.62　6層出土遺物（8）　S＝1/3

Tab.25　6層出土遺物観察表（8）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
313	6	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR5/3．内面：黄灰色2.5Y6/1.	砂粒を含む．白色粒・	口縁部：ヨコナデ．外面：櫛 口径（11.4）cm．胴部最大0.5cmの工具によるナデ．頸部 径（21.8）cm．外面：擬似内面：ユビナデ．内面上部：丈有り．ナデ．内面下部：ハケのちナデ．	
314	6・SD21	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR6/4．内面：暗灰黄色2.5Y5/2.	礫・砂粒を含む．白色粒・石英・黒色粒.	外面・内面上部：ハケのちナデ．胴部最大径：（23.25）cm．ナデ．内面下部：ナデ？（斜面 器高23.4＋α cm．著しい）	
315	6	弥生	壺	口縁部：にぶい橙色7.5YR6/4．底部：にぶい黄橙色10YR7/4．器肉：灰色5Y 4/1	砂粒・細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英.	口縁部外面：ハケのちナデ．口縁部内面・底部：ナデ.	
316	6		壺	外面：灰黄褐色10YR6/2．内面：にぶい黄橙色10YR7/4.	砂粒を含む．白色粒・石英.	ヨコナデ.	
317	6		壺	にぶい橙色7.5YR7/4.	粗砂粒を少し含む．白色粒・石英.	ナデ.	
318	6		壺	浅黄橙色7.5YR8/4.	砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・赤色粒・石英.	ヨコナデ.	
319	6		壺	にぶい橙色 6/4.	粗砂粒～細砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石.	ナデ.	
320	6		壺	浅黄橙色7.5YR8/4.	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英.	ヨコナデ.	
321	6		壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4．内面：橙色7.5YR7/6.	粗砂粒・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・角閃石.	口縁部：ヨコナデ．他：ナデ	
322	6		壺	灰黄褐色10YR5/2.	砂粒を多く含む．白色粒・角閃石	外面上部～内面：ヨコナデ．外面下部：ハケのちナデ.	
323	6・3c		壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/3．内面：鈍い橙色7.5YR6/3.	細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・角閃石.	口唇部・ヨコナデ．他：ナデ	
324	6		壺	にぶい赤褐色．5YR5/4.	砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石.	口唇部：ヨコナデ．他：ナデ	
325	6		壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4．内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英.	外面：ナデ．内面：ハケのちナデ.	
326	6		壺	外面：スス付着のため黒．内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	細砂粒を少し含む．白色粒・黒色粒.		

Tab.26　6層出土遺物観察表（9）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
327	6	弥生	壺	外面：上部橙色5YR7/6．胴部下端灰色5YR5/1．内面：口縁部明赤褐色5YR5/6．胴部以下にぶい黄橙色10YR7/2.	粗砂粒・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英・角閃石.	口唇部：ヨコナデ．口縁部：擬似文・波状文．ミガキ？肩部以下：ていねいなナデ．内面口縁部：ナデ．胴部ハケのちナデ.	
328	6	弥生	壺	外面：にぶい黄橙色10YR6/3．内面：にぶい橙色7.5YR7/4.	粗砂粒・細砂粒を含む．白色粒・黒色粒・石英.	口唇部ミガキ．頸部外面：ハケのちミガキ．内面：ハケのち丁寧なナデ.	口径（13.5）cm.
329	6	弥生	壺	にぶい赤褐色5YR5/4.	細砂粒を少し含む．白色粒・赤色粒・角閃石.	外面：ヨコナデ．内面：ナデ	口径（8.3）cm.
330	6	弥生	壺	敲分付着のため不明.	細砂粒を少し含む．白色粒・赤色粒・黒色粒.	ヨコナデ.	
331	6	弥生	壺	浅黄橙色10YR8/3.	粗砂粒を多く含む．赤色粒・石英・角閃石.	ナデ.	外面：刺突文あり.
332	6	弥生	壺	外面：浅黄橙色10YR8/4．内面：灰白色5Y7/1.	粗砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英・角閃石.	外面：ナデ．頸部内面：擬状 磨滅している．外面：波状工具によるケズリ状の痕跡．文あり.	磨滅のため不明．内面
333	6	弥生	壺	外面：橙色7.5YR7/6．内面：にぶい黄橙色10YR7/2.	粗砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英.	外面：磨滅のため不明．内面：ハケのちナデ.	
334	6	弥生	壺	浅黄橙色10YR8/3.	粗砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石.	外面上部：ハケ？のちナデ．内面：ナデ.	外面：原状文？
335	6	弥生	壺	にぶい褐色7.5YR5/3.	細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石.	ナデ.	外面：連点文？.
336	6	弥生	壺	浅黄橙色7.5YR8/3.	粗砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒.		

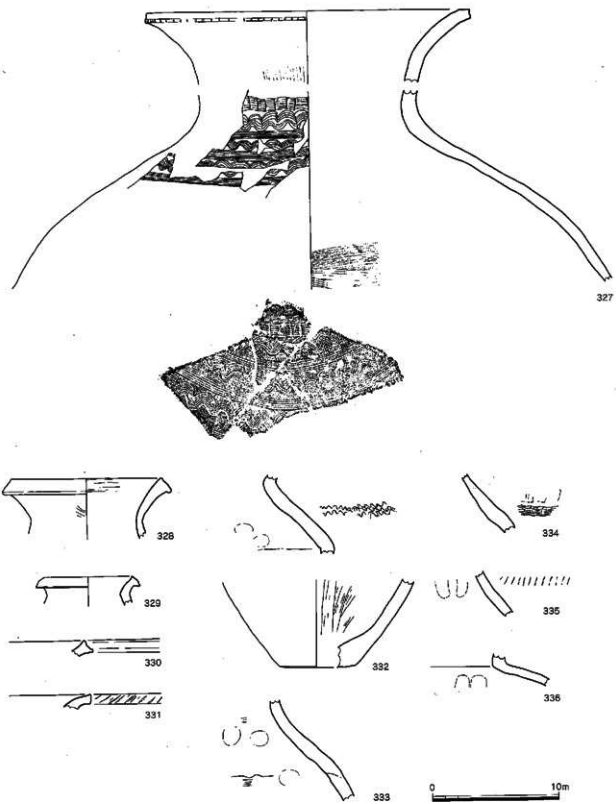


Fig.63　6層出土遺物（9）　S＝1/3

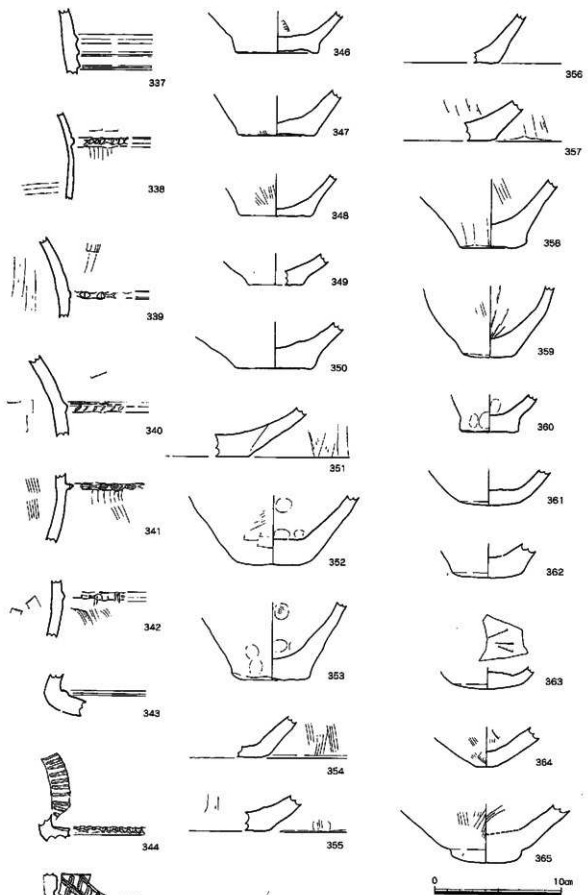


Fig.64 6層出土遺物 (10) S=1/3

Tab.27　6層出土遺物観察表（10）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
337	6	弥生	壺	にぶい黄橙色10YR7/3.	礫・細砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・輝石．	外面：ヨコナデ，内面：調整のため不明．	内面：剥落している．
338	6		壺	にぶい黄橙色10YR7/3.	砂粒・細砂粒を含む．有黄・角閃石・白色粒．	ハケ？のちナデ．	磨滅している．
339	6		壺	にぶい橙色7.5YR6/4.	細砂粒～細砂粒を含む．白色粒・黒色粒・石英．	外面突帯以下：ナデ，他：ハケのちナデ．	
340	6		甕	橙色5YR7/8.	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．	外面突帯以上：内面：ハケのちナデ，外面突帯以下：ナデ．	
341	6		壺	外面：橙色5YR7/6. 内面：灰白色7.5YR8/2.	粗砂粒を多く含む．赤色粒・石英．	外面突帯付近：ヨコナデ，他：ハケのちナデ．	突帯剥み：ハケ原体による．
342	6		壺	外面：にぶい黄橙色10YR7/3. 内面：黒い黄褐色10YR5/3.	砂粒を含む．白色粒・黒色粒・白英．	外面突帯以上：ナデ，他：ハケのちナデ．	
343	6		甕	外面：灰色5Y5/1. 内面：橙色7.5YR7/6.	黒砂粒を含む．白色粒・石英．	ナデ．	内面：一部剥落．
344	6	古墳	壺	外面：灰白色2.5Y7/1～暗灰色N3/. 内面：明黄褐色10YR7/6	細砂粒を多く含む．石英・角閃石．	ナデ．	
345	6	古墳		外面：灰黄褐色10YR4/2. 内面：にぶい黄橙色10YR7/3.	粗砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．	ナデ．	
346	6	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 一部黒斑のため黒色N2/. 内面：橙色5YR6/8.	礫・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．	外面：丁寧なナデ．内面：ハケのちナデ．底面：ナデ．	底径6.75cm.
347	6	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4. 内面：淡黄橙色10YR8/3. 底面：にぶい黄橙色10YR7/4.	礫を多く含む．	外面：ハケのちナデ．底面：ナデ．内面：磨滅のため不明．	内面：磨滅している．底径：8.1cm.
348	6	弥生	壺	橙色7.5YR6/8.	細砂粒を少し含む．白色粒・角閃石．	外面：ハケのちナデ．底面：内面：ナデ．	底径5.55cm.
349	6	弥生	壺	外面：暗灰色N3/. 内面：橙色7.5YR6/6.	細砂粒を含む．白色粒・角閃石．	ナデ．	底径（4.4）cm.
351	6	弥生	壺	外面：暗灰色N3/. 内面：灰黄褐色10YR5/2.	細砂粒を多く含む．	外面：ケズリのちナデ．内面：ナデ．	
352	6	弥生	壺	外面：にぶい黄橙色10YR7/4. 一部黒斑のため暗灰色N3/. 内面：浅黄橙色10YR8/3.	粗砂粒を少し含む．白色粒・赤色粒・石英．	外面：ハケのちナデ．内面：底面：ナデ．	底径5.8cm.
353	6	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR6/4. 内面：オリーブ黒色5Y3/1.	粗砂粒・砂粒を含む．白色粒・黒色粒・石英．	ナデ．	底径6.15cm.
354	6	弥生	壺	外面：にぶい橙色10YR7/3. 一部気泡のため明灰色10YR4/1. 内面：にぶい橙色5YR7/4.	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英・角閃石．	外面：ハケのちナデ．内面：底面：ナデ．	
355	6	弥生	壺	外面：灰黄色肥後Y7/2．内面：灰白色2.5Y8/2．底面：暗灰色N3/.	細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．	底面：ナデ．他：ハケのちナデ．	
356	SD21-6	弥生	壺	外面：明黄橙色7.5YR8/4.	礫・細砂粒を含む．白色粒．	磨滅著しく不明．	磨滅著しい．
357	6	弥生	壺	外面：にぶい黄橙色10YR7/4. 内面：黄灰色2.5Y4/1.	細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．	外面・内面：ハケのちナデ．底面：ナデ．	
358		弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR6/4～にぶい橙色10YR5/4. 一部黒斑のため黒褐色10YR3/1. 内面：にぶい黄橙色10YR7/3.	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒．	外面・内面：ハケのちナデ．底面周辺部：ナデ．中心部：無調整．	底径：5.3cm.
359	6	弥生	壺	橙色7.5YR7/6. 底面一部：オリーブ黒5Y3/1.	礫・砂粒・細砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英・角閃石．	ハケのちナデ．	底径4.25cm.
360	6	弥生	壺	外面：淡黄橙色7.5YR8/3. 内面：にぶい橙色5YR7/4.	細砂粒・砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	ナデ．	底径4.6cm.
361	6	弥生	壺	外面：にぶい黄橙色10YR8/4. 内面：灰黄褐色10YR6/2.	粗砂粒を多く含む．白色粒・黒色粒・石英・角閃石．	ナデ．	底径4.9cm.
362	6	弥生	壺	にぶい黄橙色10YR7/3.	礫・細砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英．	ナデ．	
363	6	弥生	壺	外面：黒色N2/. 内面：橙色2.5YR6/6.	細砂粒を含む．白色粒・石英・雲母．	外面：ナデ．内面：ハケのちナデ．	底径（5.4）cm.
364	6	弥生	底	外面：にぶい橙色7.5YR6/4. 内面：明黄褐色10YR6/6.	砂粒を含む．白色粒・石英．	外面：ハケのちナデ．内面：ハケのちナデ．	底径（1.8）cm.
365	6		壺	外面：にぶい橙色10YR7/4～灰黄褐色10YR5/2. 内面：浅黄橙色10YR8/3.	細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・雲母．	外面：内面：ハケのちナデ．底面：ナデ．	内面：一部剥落．底径5.7cm

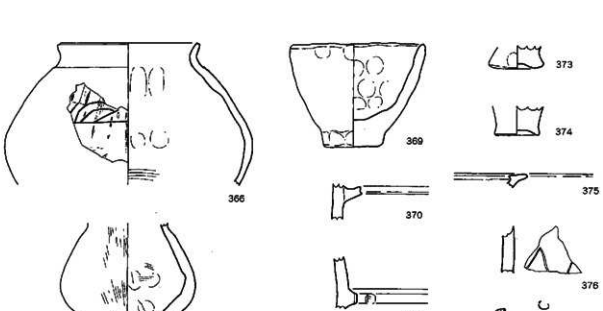


Fig.65　6層出土遺物（11）　S=1/3

態や器壁の厚さから大甕だと推定できる。371は断面台形状を呈し、浅く丸い刻みを施す突帯である。おそらく、壺の胴部ではないかと考えられる。372はてづくねの小壺で、口縁部を欠損している。底部が厚く、ユビオサエによる凹凸が明瞭である。373・374はミニチュアの甕の底部ではないかと考えられる。373は上げ底状を呈し、374は丁寧なナデ調整を施している。375はT字状を呈する口縁部で、端部は丸く内側に張り出す。器形は不明だが、胴部への傾きから、高坏の杯部か鉢が考えられる。

376～378は器種が不明なものである。378は胴部に櫛歯文の線刻を施している。破片の外面下端がわずかに外側に屈曲しているため、この直下は突帯であったかもしれない。377はハの字に外反する器形を呈し、外面屈曲部に緩い稜線をもつ。また、稜線の少し上位、破片の外面上端に穿孔下半部が認められることから、高坏の脚部である可能性がある。

378は環状の突起を貼り付けている破片で、突起の断面は蒲鉾状である。磨滅しているが、外面は丁寧なナデ調整のようである。

7．まとめ

層について

層は、2層から地山である砂層の7層まで整合的に堆積しているが、南西方向に旧地形が傾斜しており、3b層・3c層・6層がそれぞれ厚く堆積し、その傾斜方向で遺物が多く出土している。また、2・3a・3b・3c層は北東部ほど薄く、後世に掘削されているようである。そのため、6層上面で検出した溝状遺構や畦状遺構はかなり浅く、遺構の残りは悪い。

主な遺物包含層は3c層と6層だが、3c層は瓦・陶磁器も包含しているものの、土師器の出土数が多いのが特徴である。土師器は糸切り痕が残るものが多く、中世のものと考えてよいだろう。この層からは石鏃や青磁も出土している。郡元団地O-7区の調査[4]でも中世の遺物を主体とする　層が確認されており、これと対応するものと考えられる。

6層は目立って弥生土器の出土が多い。この層は周辺の過去の発掘調査でも古墳時代を主体とする遺物包含層として認識されていた。弥生時代の遺物は、郡元

Tab.28　6層出土遺物観察表（11）

図番号	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
366	6	弥生	短頸壺	外面：にぶい黄褐色10YR5/3，内面：黄灰色2.5Y6/1.	砂粒を含む．白色粒．	口縁部：ヨコナデ．外面：縦 口径（11.4）cm．胴部最大5mmほどのハケのちナデ．内 稜（19.8）cm．面下部：ハケのちナデ．他：ナデ．	
367	6	弥生	小壺	明赤褐色5YR5/6.	砂粒を少し含む．	外面・内面：ハケのちナデ．	胴部最大稜（10.5）cm．底径（2.8）cm．
368	6		高杯？	外面上部：灰黄褐色10YR5/2，外底下部：にぶい黄橙色10YR7/2．内面：にぶい橙色7.5YR6/4．脚端部：灰褐色7.5YR3/2.	礫・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・角閃石・石英．	ハケのちナデ．	
369	6		鉢	にぶい橙色7.5YR7/4．底面付近：黒色のため黄灰色2.5Y6/1	礫・砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．角閃石．	ナデ．	口径（10.8）cm．器高8.3cm．底径4.75cm．
370	6	弥生	大壺	突帯上面：にぶい橙色7.5YR6/4．他：橙色7.5YR6/6.	細砂粒を含む．白色粒・赤色粒・雲母．	突帯付近：ヨコナデ．外面突帯下：ハケのちナデ．内面：ナデ．	
371	6	弥生	甕？	外面：にぶい橙色7.5YR7/3．内面：褐灰色5YR6/1.	細砂粒～細砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石．	外面：ヨコナデ．内面：ナデ？	
372	6		手づくね	外面：黄灰色2.5Y4/1．内面：褐灰色10YR6/1．	粗砂～細砂粒を多く含む．白色粒・石英・角閃石．	ナデ．	胴部最大径3.7cm．底径1.9cm．
373	6	弥生	甕	灰白色10YR8/2～褐灰色10YR4/1.	砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・石英．	ナデ．	脚径3.4cm.
374	6	弥生	甕	外面：黄灰色2.5Y4/1．底面：灰白色2.5Y8/1.	粗砂粒～細砂粒を含む．白色粒・石英・角閃石．	ナデ．	底径3.6cm.
375	6		高杯？	にぶい橙色7.5YR7/4.	砂粒を含む．白色粒・赤色粒・石英．	ヨコナデ．	
376	6			外面：にぶい橙色7.5YR6/4．内面：にぶい褐色7.5YR5/3.	粗砂粒～細砂粒を多く含む．白色粒・赤色粒・黒色粒・石英．	ナデ．	外面：線刻文有り．
377	6		高杯？	明赤褐色5YR5/6.	粗砂粒を含む．白色粒・石英．	ナデ．	穿孔あり．
378	6			外面：にぶい橙色7.5YR6/4．内面：灰褐色7.5YR6/2.	細砂粒を多く含む．白色粒・角閃石．	ナデ．	

団地内からは、中期の土器が散発的に出土していた[5]が、本調査区から出土した遺物は弥生時代中期後半から終末期のものである。6層中からは染付などの陶磁器や土師器も出土しているが、極少量で、混ざりこみと判断できよう。

遺物について

本調査地点から出土した遺物では弥生土器が主体を占める。これらは弥生時代中期後半～終末期の土器に該当するものが多い。中でも後期の遺跡は南九州でも少なく、貴重な資料といえるだろう。

これらの上器は甕、壺、鉢、大甕、高杯等があるが、それぞれ時期的、地理的特徴を備えたバリエーションが認められる。

甕では、大隅半島を分布の中心とする山の口式（193）・高付式（194）と薩摩半島の西部を分布の中心とする松木園式[6]（208～210・200）、次の時期の中津野式（219・220）が認められる。また、口縁部が細く全体としては端部を丸く収めるが、ヨコナデによって口唇部が窪んでいる形態を呈するものがある（202～207）。これらは、端部がヨコナデによるくぼみをもつ山の口式と端部が丸い松木園式の折衷形態であるといえる。

また、口縁部はゆるくくの字状に屈曲し、脚台が低いものが小型の甕の中に存在する。（216～218）これらは、口縁部形態では中津野式に近いが、山の口式の範疇に入る、成川遺跡で出土した小型の無文の甕が型変化したものとも考えられるため、この時期については後期にさかのぼる可能性があることを指摘しておきたい。

壺は、器形で分けると、口縁部が湾曲しながら外反する形態（305・327）と、口縁部は斜曲するがやや直立気味で、なで肩を呈するもの（306・307・308・309・313）、口縁部を肥厚させ、への字状を呈するもの（328・329・330・331）の大きく三つに分かれる。またそれぞれ、胴部に突帯を施すものや、無文のものが認められる。後期の大隅半島の壺には多条突帯を施すものが多く、薩摩半島西岸部は1条の刻み目突帯を施す壺が多いが、本地点から出土した壺は形態、文様とも両地域の要素がミックスされている様相を示している。

底部形態は平底か凸レンズ状の平底が多く、そのほとんどが終末期の中津野式まで下らないのではないか考えられる。壺の中で薩摩半島西岸地域の壺の特徴を有する305は色調が白っぽく特異で、表面に施された

Tab.29 層別遺物出土状況

	瓦	磁器	陶器	ガラス	土錘	石鍋	須恵器	土師器	古墳時代の土器	弥生時代の土器	土塊
1層								1		3	1
SD1	17	50	112	1			5	1	1	3	27
SD2		9	19	1							3
3a層								1			2
3b層		2					1	2			78
3c層	1	5	21			2	16	62	4	18	832
SD3		1									
Ⅳ層			1		1						
Ⅴ層											4
SD4			1					1			
SD5											2
SD21							1			9	142
SK1			1								14
6層	3	2	4				10	5	5	125	2206
SD23											1
SD24											10
P11											1
P23											2
P30											1
P35											1
P42											1
P75											1
P77											1
P79										1	1
P238											2
P251										1	1
P265									1		1

ハケ目も細く、搬入品である可能性がある。

このように、大隅半島と薩摩半島西部の中間にある薩摩半島東部に位置する本遺跡の地理的特徴を反映した形態の土器が出土しているが、瀬戸内地方の土器の特徴がみられる遺物もある。瀬戸内地方の上東式の甕が出土している（288）。これは、胎土や調整が他の土器とは異質で、器壁も薄い。搬入品だと考えてよいだろう。周辺ではまた、在地の土器で、凹線文を施したもの（290・291・292）や、凹線文は施さないが、口唇部が肥厚するもの、短い口縁部を外側に屈曲させ、列点文を意識したような細い刺突文を施した鉢（290～302）が出土している。327は頸部に羅状文をⅠ条施し、その下に櫛描波状文と櫛描平行線文を交互に3段施している。文様は存地にないものであるが、器形・胎土・調整等は在地のものと判断できる。

土器に施された文様については、羅状文、櫛描波状文、櫛描平行線文、列点文など畿内・瀬戸内を中心とする地域によくみられる文様が目立っている。また、

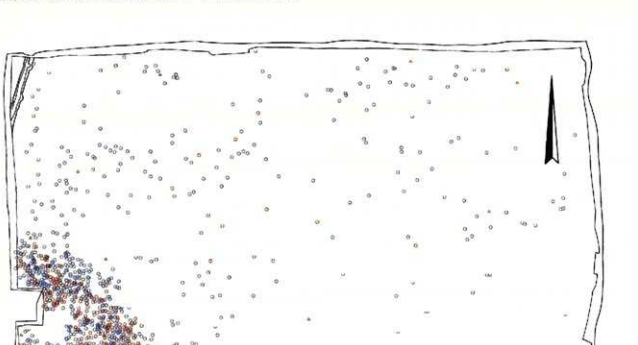


Fig.66　6層出土遺物散布図　S=1/160

これらの模倣と考えられるハケ工具による平行沈線文（193・226）、爪による刺突文（299～302）を施したものも認められる。薩摩半島では、雄状文、波状文、列点文などを施している土器が出土する遺跡として薩摩半島西部にある拠点集落である松木薗遺跡[7]のみがこれまで知られており、本地点は、それについで2例目となった。

本地点から出土した弥生土器は、中期後半から中津野式のものがほとんどだが、後期の松木薗式や高付式に比定できるものを含んでおり、また、それらの折衷形態ともいえる土器の様相を示しいる。また、瀬戸内地方の土器の文様や搬入品が出土しており、当時の地域間の交流をうかがわせる資料となった。

出土状況について

6層から出土した遺物の出土状況を示したのがFig.66である。これをみると、調査区南西部に遺物が集中しているのがわかる。これは7層上面が南西部に傾斜しており、その上の包含層である6層も南西部が厚くなっているため遺物が集中しているのだろうと考えられるが、その中でも南西隅より少し北東寄りに遺物が溝状に集中している部分がある。

6層出土の遺物の中で接合可能なものが多かったため、接合したもののうち、実測図にあげたものの散布図を示したのがFig.67である。散布状況には3つのパターンが認められる。ひとつは、広く散らばらず、ある程度固まるもの（194・216・219・217・220・221・233・307・314・333・366・369）、溝状に広がるもの（193・218・288・305・309・313・327）、不定形に広がるもの（195・217・254・306・308・315・332）である。

広く散らばって出土するものは壺や甕部に穿孔をしている甕、外来系や搬入品だと考えられる土器が多い。壺は甕に比べて大きく、接合する破片数が多いという特徴や搬入品と考えられるものは胎土が特異で、無文の破片でも同一個体として認識しやすく、結果として破片数が多くなるなどの器種による比較を行うのにある程度のバイアスがかかっていることも考えられる。しかし、散らばって出土するものの中で、明らかに中

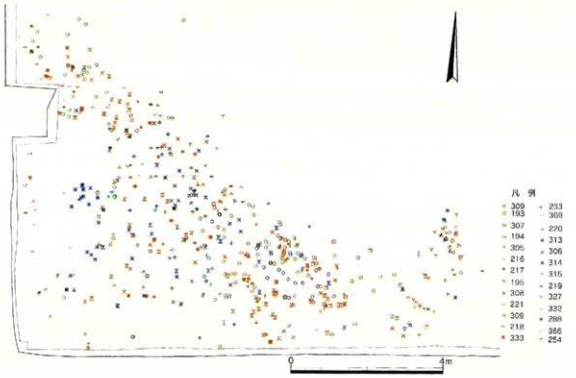


Fig.67　接合遺物散布図　S＝1/100

津野式だといえる新しい型式のものはなく、時期差による分布の違いを反映している可能性もある。ただし、垂直分布ではその差は認められなかった。

発掘調査では確認できなかったが、6層中に遺構が存在していた可能性もあり、周辺を調査するにあたっての今後の検討課題としたい。

遺構について

遺構は、3・Ⅳ層上面、Ⅴ層上面、6層上面、7層上面で検出した。これらは出土遺物から、3・Ⅳ層上面、Ⅴ層上面の遺構は近代のものと考えられる。6層上面の遺構は、溝状遺構やそれと平行または直交する方向の畦状遺構、土壙などで、水田遺構であろう。出土遺物や直上層に含まれる遺物に土師器が多いが、陶磁器もある程度含まれており、遡っても中世だろうと考えられる。

6層では、溝状遺構と掘立柱建物跡、それからピット群から杭列を想定した。溝状遺構は出土遺物が少ないが、土器片を包含しており、古墳時代か弥生時代どちらかであろうと考えられる。

掘立柱建物跡は、1間×1間と推定できるものを1軒確認したが、その時期については不明である。埋土が6層上であることから、弥生時代か古墳時代のどちらかであろうが、溝状遺構とは方向がずれており、同時期かどうか疑問が残る。

杭列と想定したものについても時期が不明であるが、ピットから出土した遺物は古墳時代のものと弥生時代のものがあり、そのどちらかの時期だろうと考えられる。ピット間の距離が離れていることから杭列かどうか断定はできないが、SA11・12を中心としたピットの配列が北と南で対応すること、SD23・24の方向と平行または直交することなどから遺構としての妥当性が見いだせるのではないかと考える。ただし、ピットそれぞれの同時性や想定した杭列の用途などは不明な点が多い。隣接するO-7区とP-4・5区の調査における古墳時代包含層直下のピット群の配置とも検討したが、それらの地点では同じような配列を見いだすことはできなかった。

杭列と想定したものについては、その妥当性に疑問

が残るが、今後の調査の課題として検討していきたい。

註

1）坪根伸也編『水町遺跡（鹿児島大学郡元団地内遺跡　P-6・7地点）』鹿児島大学教育学部校舎新築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　鹿児島大学教育学部1987

2）中村直子「付編II．郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査概告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報IX・X』鹿児島大学埋蔵文化財調査室1995

3）大西智和「付編I．郡元団地P-4・5区（音楽美術科棟）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報IX・X』鹿児島大学埋蔵文化財調査室1995

4）註2）に同じ

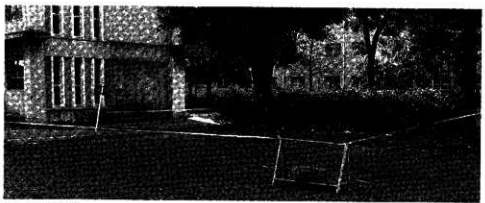
5）平成7年度調査郡元団地K・L-6区E地点など

6）松木薗式の祖形と考えられる黒髪式（松木薗O式）も含める

7）本田道輝「松木薗遺跡出土の土器について」『鹿児島考古14号』1980
本田遺輝『松木薗遺跡の調査』『鹿大史学』第29号1981
本田道輝「松木薗一号住居跡出土土器とその意義－松木薗式土器の系譜をめぐって－」『鹿大史学』第32号　鹿児島大学史学地学教室1984

図　　版

PL.1　都元団地C-6区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査（1）



1．調査地点

2．2トレンチRI-1検出状況

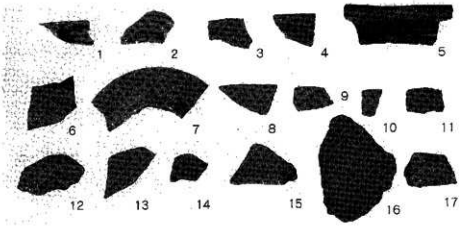
3．2トレンチRI-1の肩

4．2トレンチ北RI-1完掘状況

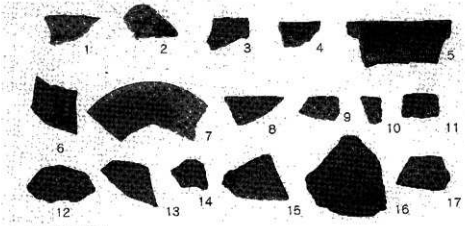
PL.2　都元団地C-6区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査（2）

1．1トレンチ完掘状況

2．2トレンチ完掘状況



3．出土遺物（表）



4．出土遺物（裏）

PL.3　郡元団地C-6区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査（3）

1．1トレンチ北壁

2．2トレンチ東壁

PL.4　都元団地Q-4区（幼稚園舎建設予定地）における試掘調査（1）

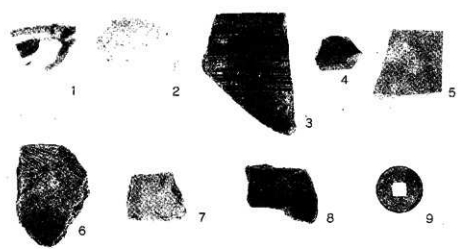
1．1トレンチ調査地点

2．2トレンチ調査地点

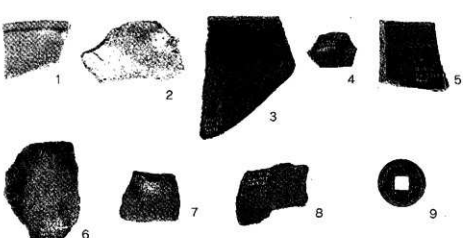
PL.5　郡元団地Q-4区（幼稚園舎建設予定地）における試掘調査（2）

1．1トレンチ完掘状況

2．2トレンチ完掘状況



3．出土遺物（表）



4．出土遺物（裏）

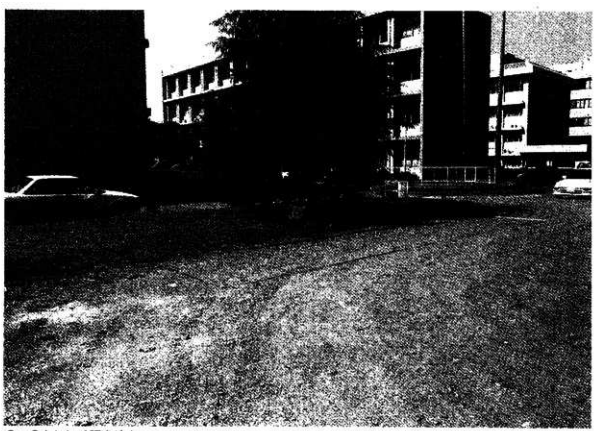
PL.6　郡元団地Q-4区（幼稚園舎建設予定地）における試掘調査（3）

1．1トレンチ西壁

2．2トレンチ西壁

PL.7　郡元団地J・K-10・11区（工学部校舎建設予定地）における試掘調査（1）

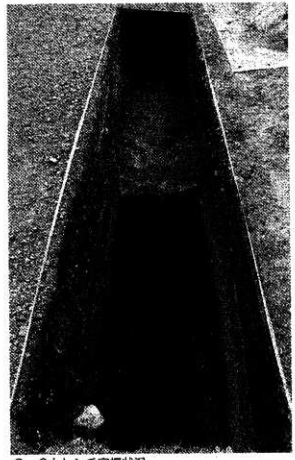
1．1トレンチ調査地点



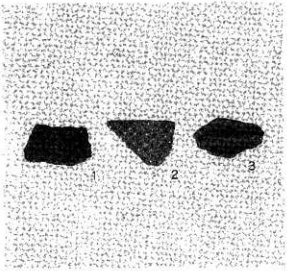
2．2トレンチ調査地点

PL.8　都元団地J・K-10・11区（工学部校舎建設予定地）における試掘調査（2）

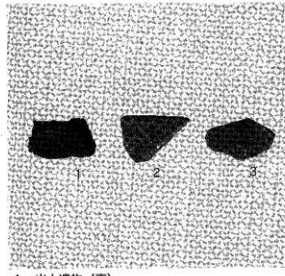
1．1トレンチ完掘状況



2．2トレンチ完掘状況



3．出土遺物（表）

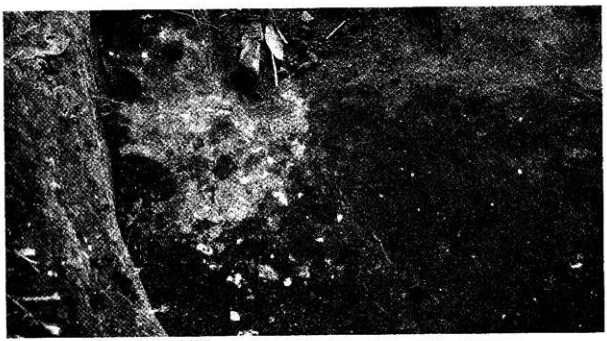


4．出土遺物（裏）

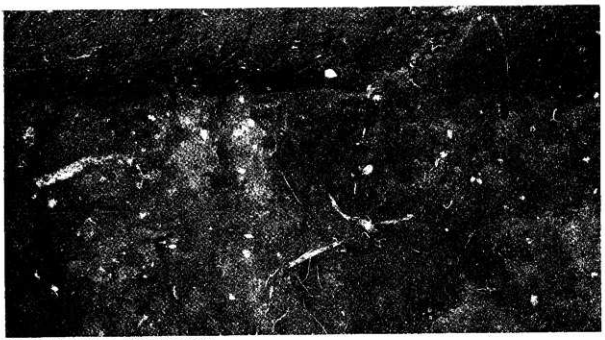
PL.9　郡元団地J・K-10・11区（工学部校舎建設予定地）における試掘調査（3）

1．1トレンチ西壁

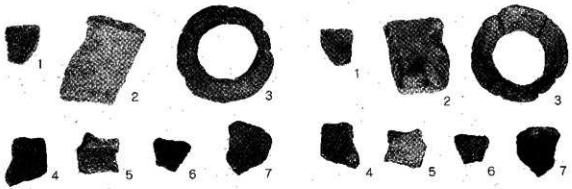
2．2トレンチ西壁



1．95-B　14地点　住居跡検出状況



2．95-B　15地点　住居跡検出状況



3．95-B　14地点　出土遺物（表）

4．95-B　14地点　出土遺物（裏）

PL.11　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（1）

1．表土剥ぎ中

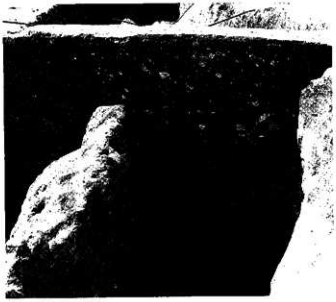
2．SD1検出状況

3．SD1.2完掘状況

PL.12　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（2）

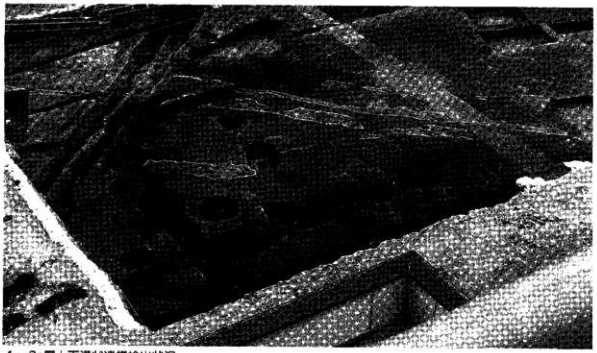
1．SD1.2完掘状況（北東から）

2．SD2堆土断面

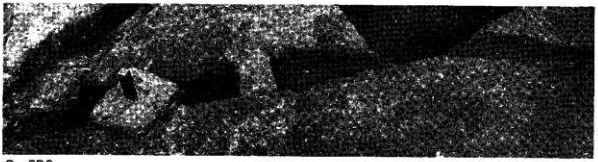


3．SD1堆土断面

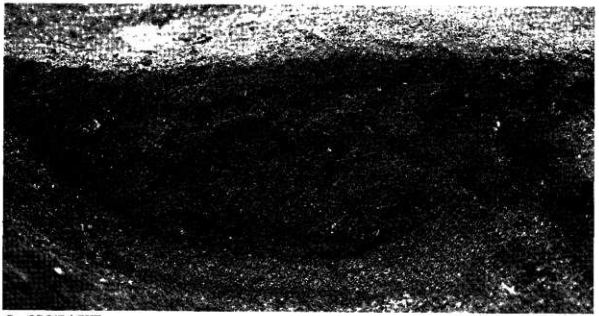
PL.13　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（3）



1．3c層上面溝状遺構検出状況

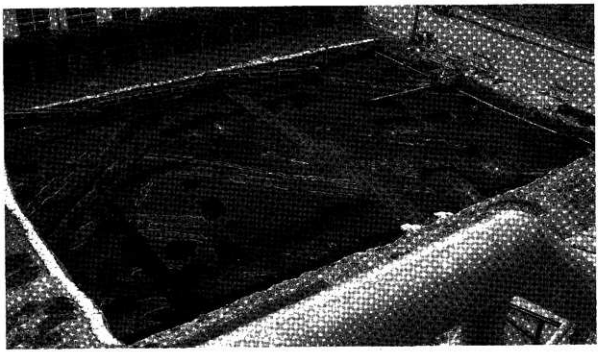


2．SD3



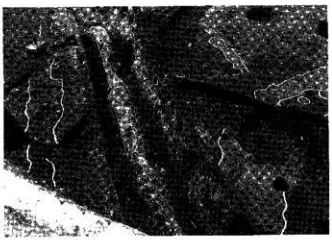
3．SD3埋土断面

PL.14　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（4）



1．6層上面遺構検出状況

2．6層上面遺構検出状況（西から）



3．6層上面遺構検出状況

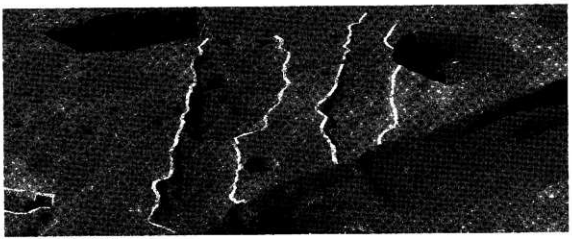
PL.15　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（5）

1．SD4完掘状況

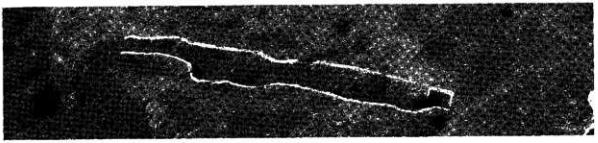
2．SD5･6完掘状況

3．SD5断面

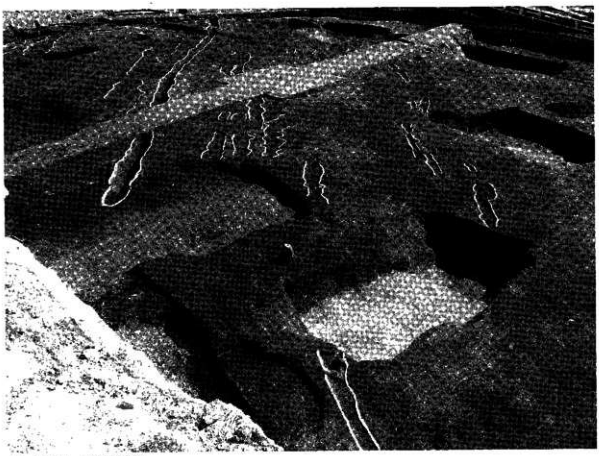
PL.16　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（6）



1．SD7･8完掘状況



2．SD9完掘状況



3．SD12～20完掘状況

PL.17　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（7）

1．SD10・11検出状況

2．SD10・11完掘状況

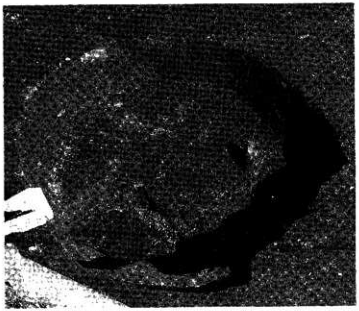
3．SD10断面

4．SD11断面

PL.18　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（8）

1．SD21完掘状況

2．SD22完掘状況



3．SK1完掘状況

PL.19　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（9）

1．7層上面遺構検出状況

2．SD23検出状況

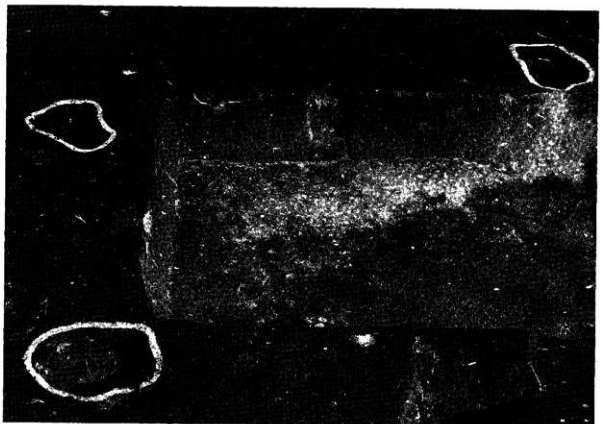
3．SD23完掘状況

PL.20　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（10）

1．SD24検出状況

2．SD24完掘状況

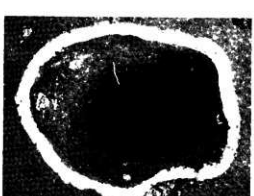
PL.21　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（11）



1．P52・56・77完掘状況

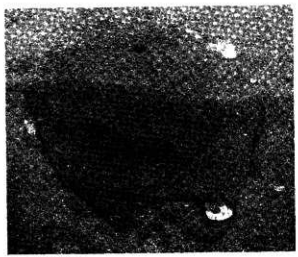
2．P56

3．P52

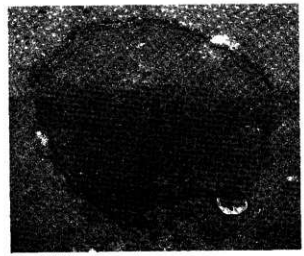


4．P77

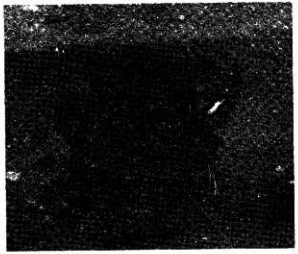
PL.22　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（12）



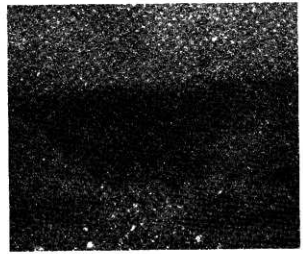
1．P45断面



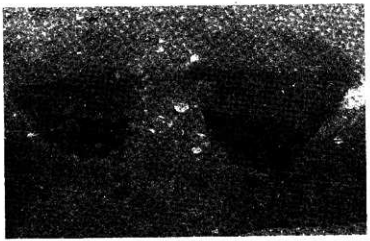
2．P46断面



3．P80断面



4．P109断面

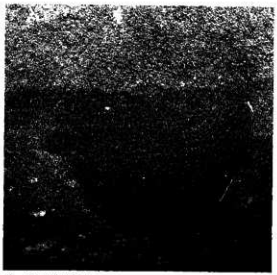


5．P135・136断面

6．P151断面

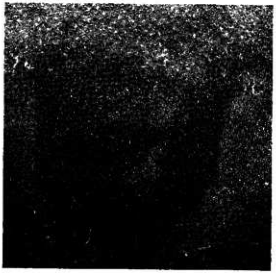
PL.23　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（13）

1．P157断面

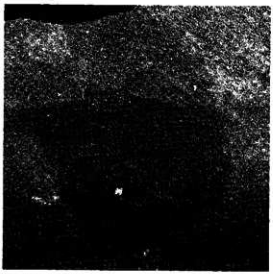


2．P158断面

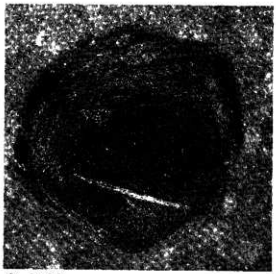
3．P166断面



4．P180断面



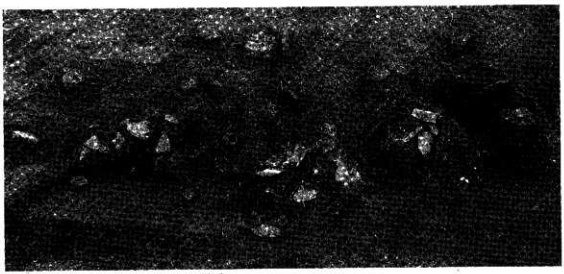
5．P186断面



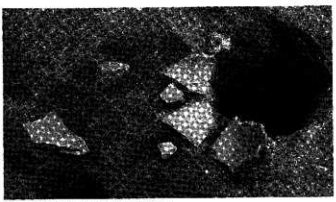
6．P198

PL.24　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（14）

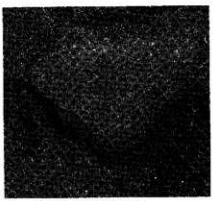
1．調査区完掘状況



2．6層出土遺物　中央ベルトd区付近



3．6層遺物出土状況（327）

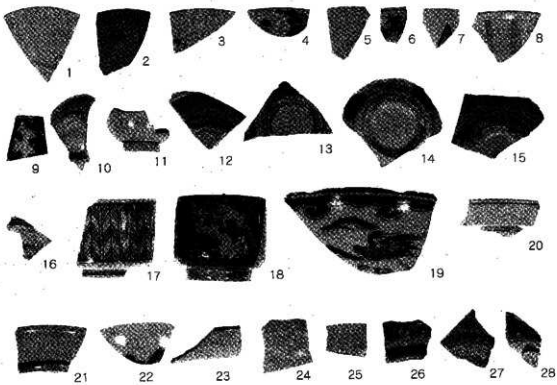


4．遺物出土状況（327）

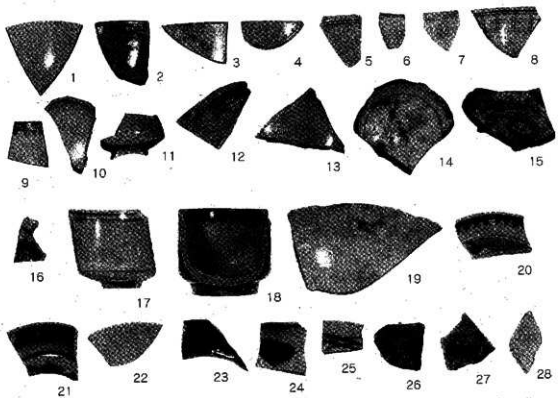
PL.25　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（15）

1．②−d区南壁

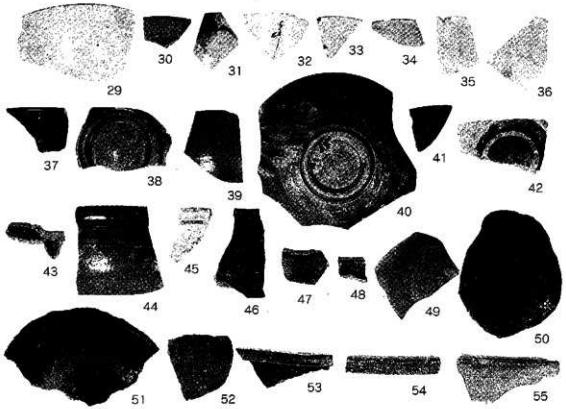
2．④−d区南壁



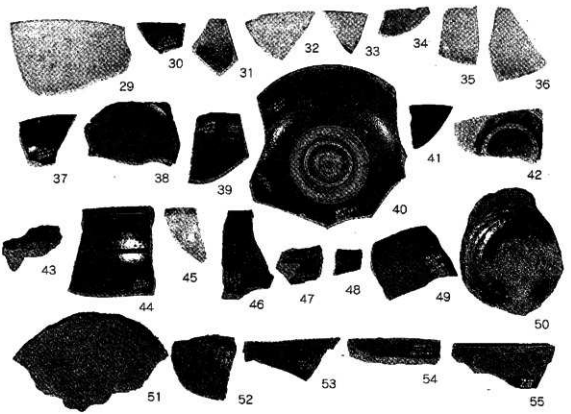
1．SD1出土遺物（表）



2．SD1出土遺物（裏）

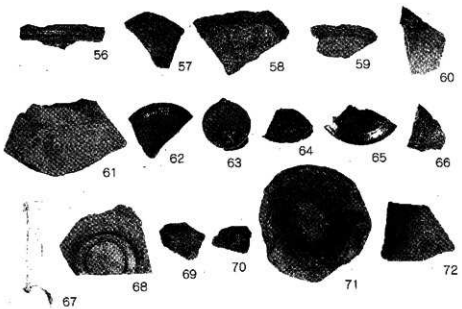


1．SD1出土遺物（表）

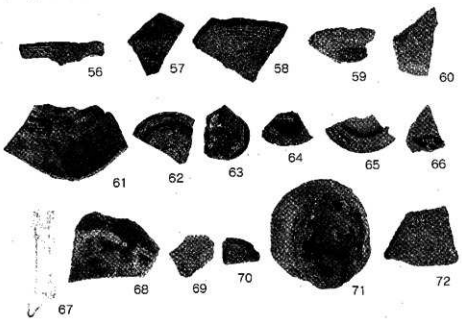


2．SD1出土遺物（裏）

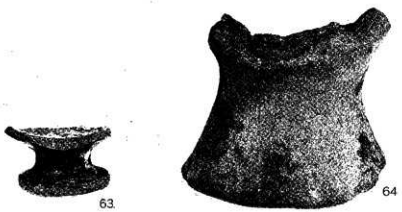
PL.28 都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（18）



1．SD1出土遺物（表）

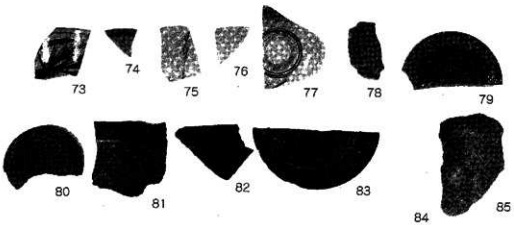


2．SD1出土遺物（裏）

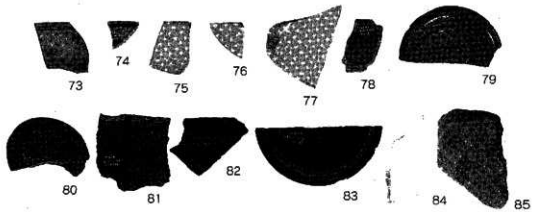


3．SD1出土遺物（側面）

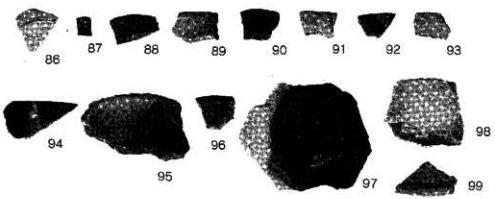
PL.29　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（19）



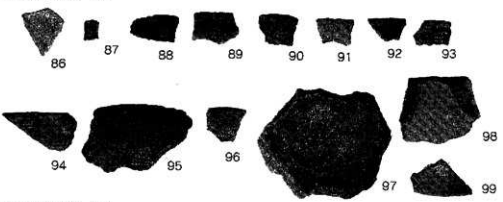
1．SD2出土遺物（表）



2．SD2出土遺物（裏）

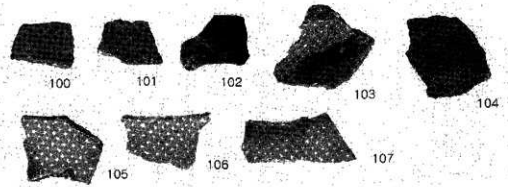


3．SD4･21出土遺物（表）

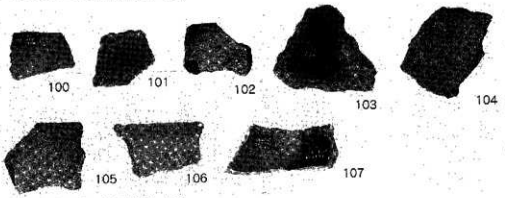


4．SD4･21出土遺物（裏）

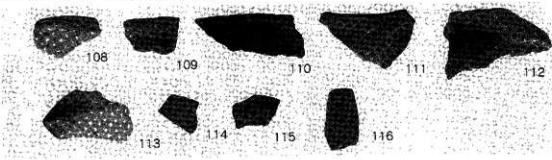
PL.30　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（20）



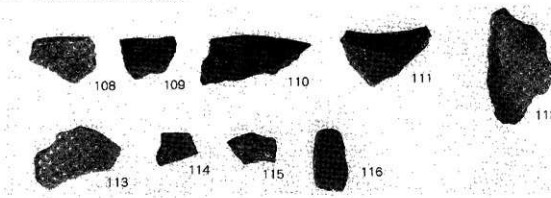
1．SK1・SD23・24・ピット出土遺物（表）



2．SK1・SD23・24・ピット出土遺物（裏）



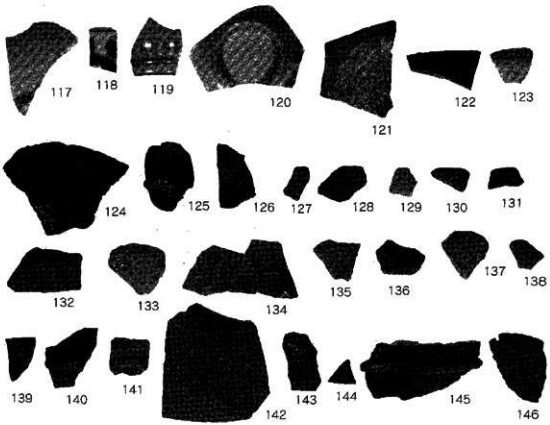
3．1・3a・3b・Ⅳ層出土遺物（表）



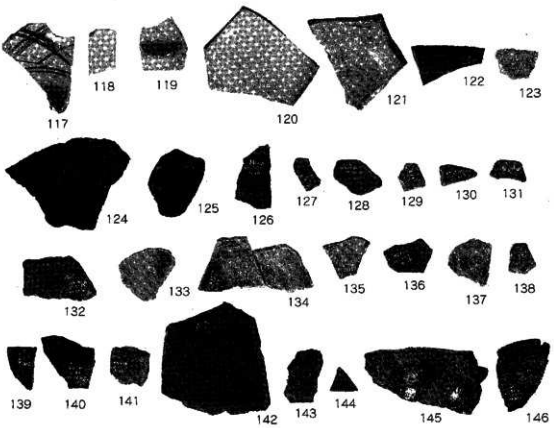
4．1・3a・3b・Ⅳ層出土遺物（裏）

5．Ⅳ層出土遺物（真上から）

PL.31　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（21）

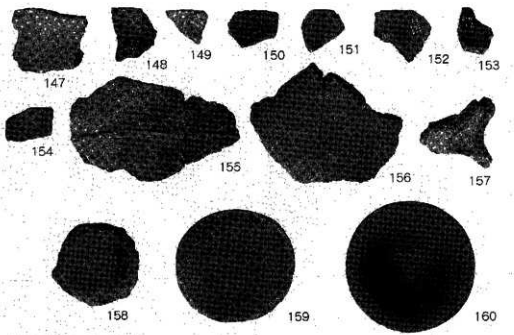


1．3c層出土遺物（表）

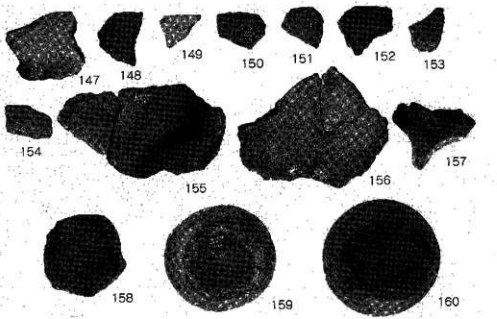


2．3c層出土遺物（裏）

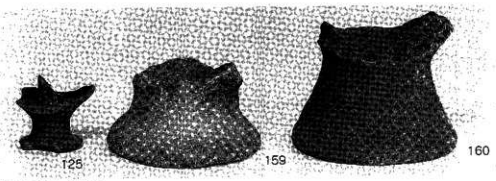
PL.32 郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（22）



1．3c層出土遺物（表）

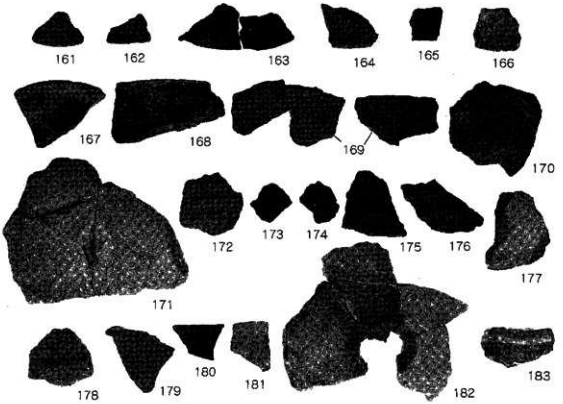


2．3c層出土遺物（裏）

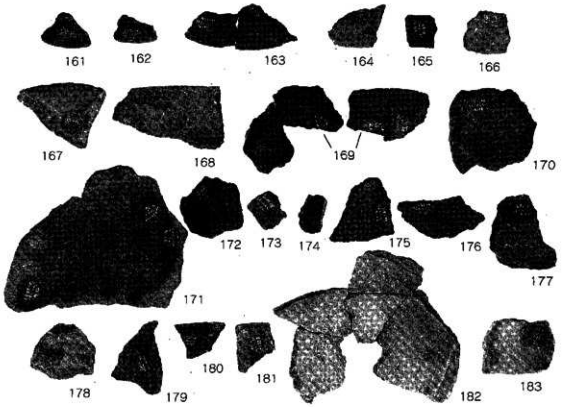


3．3c層出土遺物（側面）

PL.33　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（23）

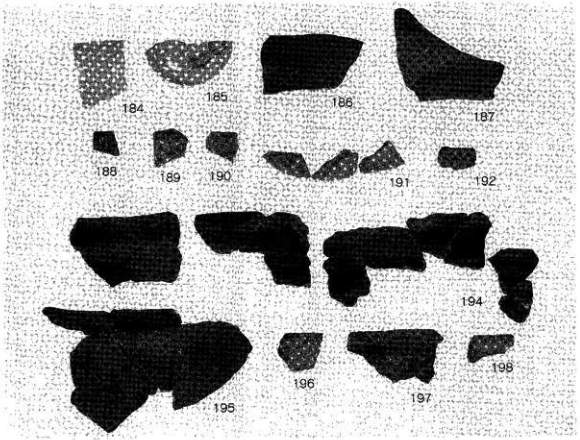


1．3c層出土遺物（表）

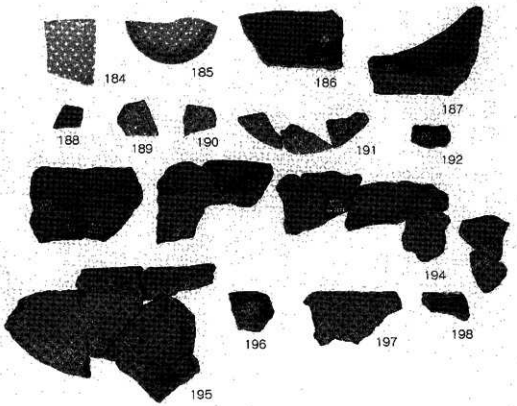


2．3c層出土遺物（裏）

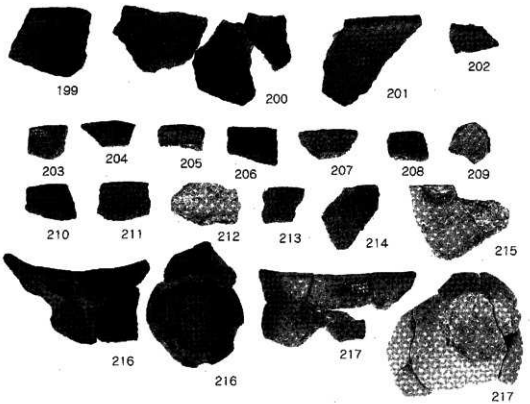
PL.34　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（24）



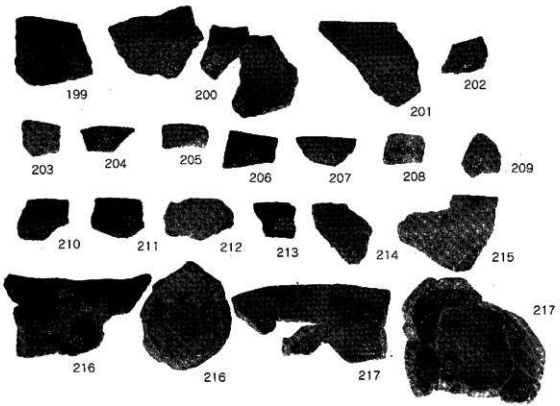
1．6層出土遺物（表）



2．6層出土遺物（裏）



1．6層出土遺物（表）

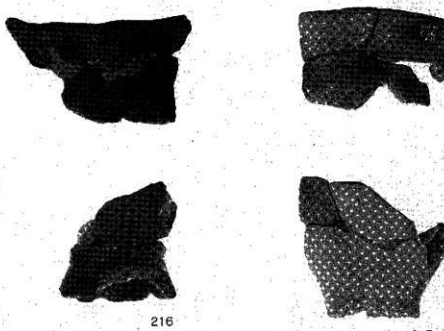


2．6層出土遺物（裏）

PL.36　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（26）

1．3c層出土遺物（177文様接写）

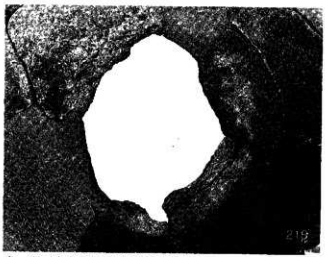
2．6層出土遺物（側面）



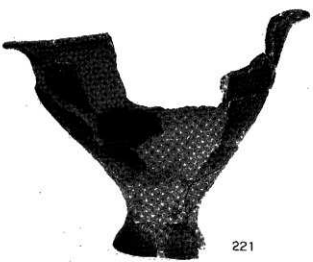
3．6層出土遺物（側面）

PL.37　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（27）

1．6層出土遺物（側面）

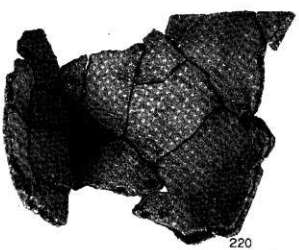


2．6層出土遺物（218穿孔接写）



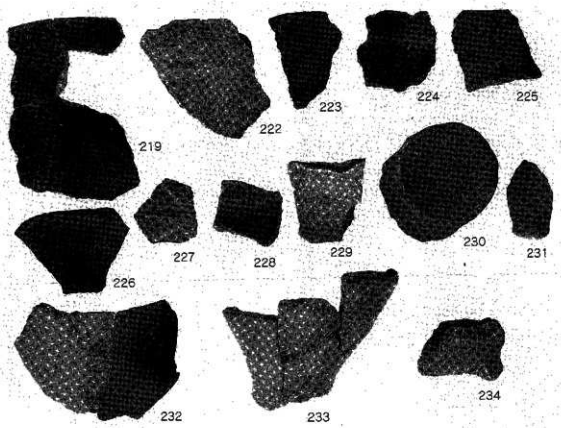
3．6層出土遺物（側面）

4．6層出土遺物（表）

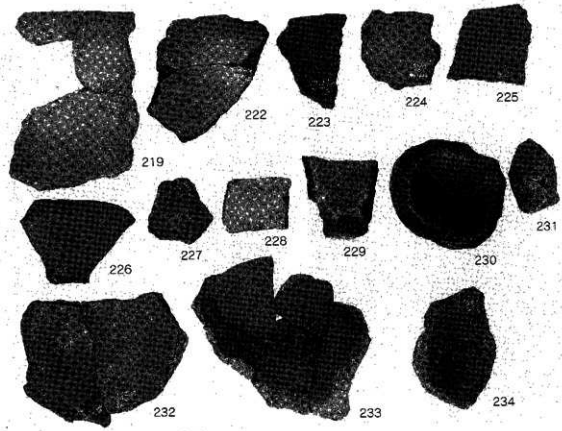


5．6層出土遺物（裏）

PL.38 都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（28）

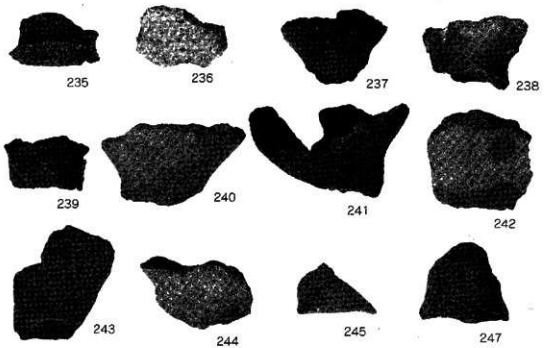


1．6層出土遺物（表）

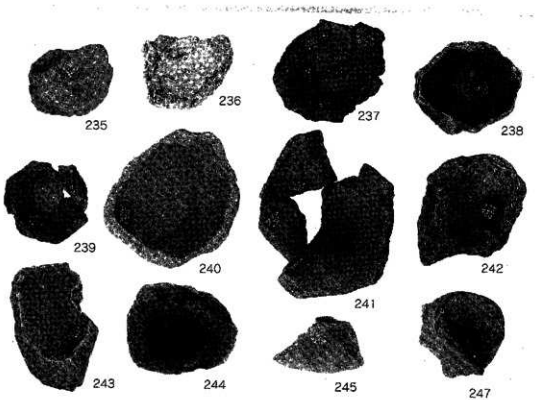


2．6層出土遺物（裏）

PL.39　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（29）

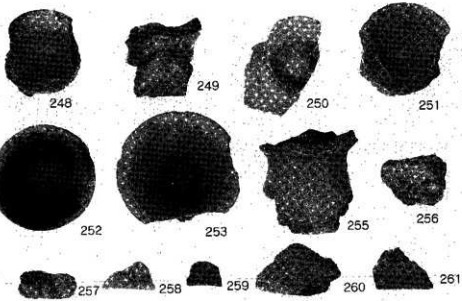


1．6層出土遺物（表）

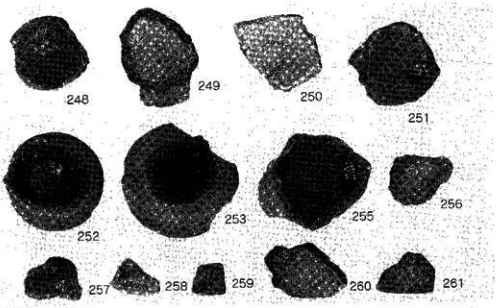


2．6層出土遺物（裏）

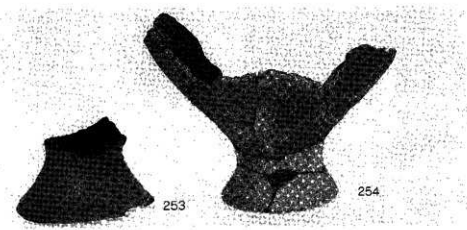
PL.40　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（30）



1．6層出土遺物（表）

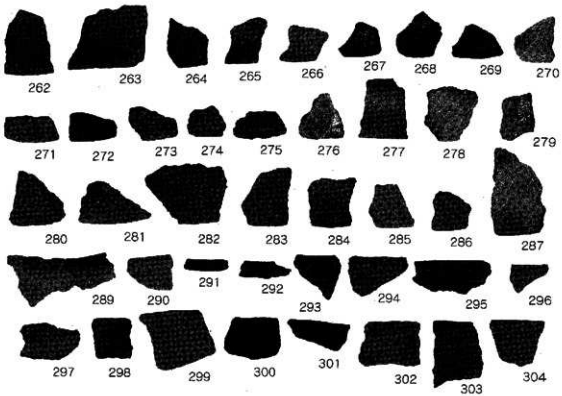


2．6層出土遺物（裏）

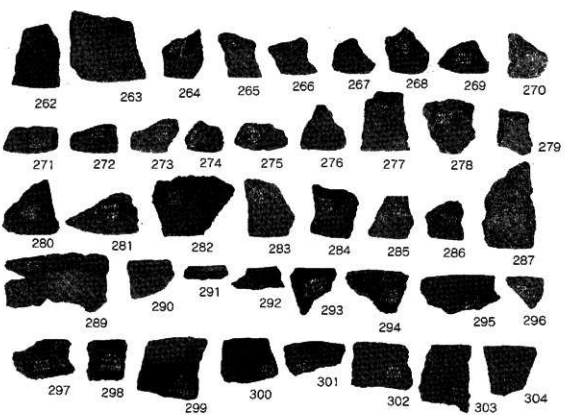


3．6層出土遺物（側面）

PL.41　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（31）

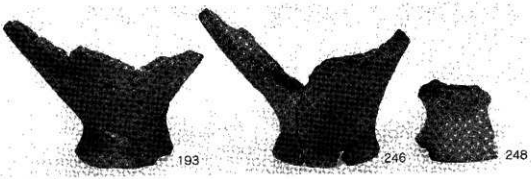


1．6層出土遺物（表）

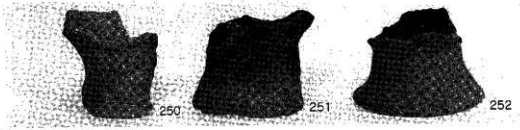


2．6層出土遺物（裏）

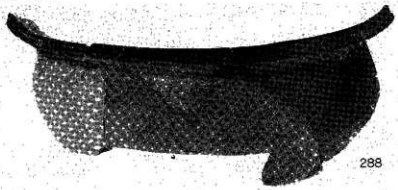
PL.42　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（32）



1．6層出土遺物（側面）



2．6層出土遺物（側面）

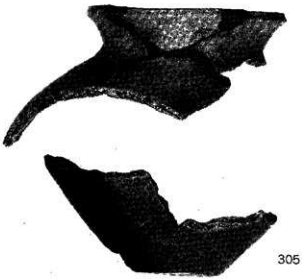


3．6層出土遺物（側面）

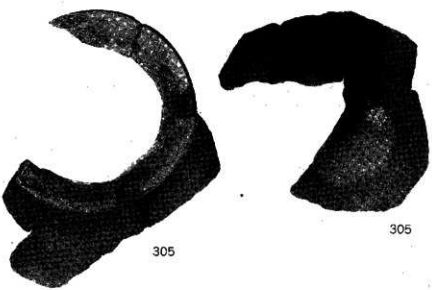
4．6層出土遺物（288口縁部接写）

5．6層出土遺物（288文様接写）

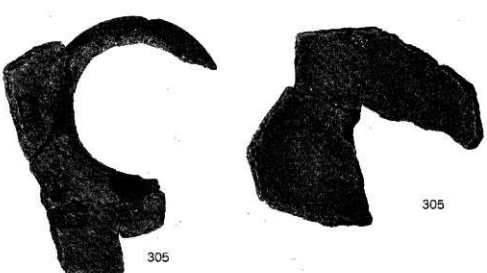
PL.43　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（33）



1．6層出土遺物（側面）

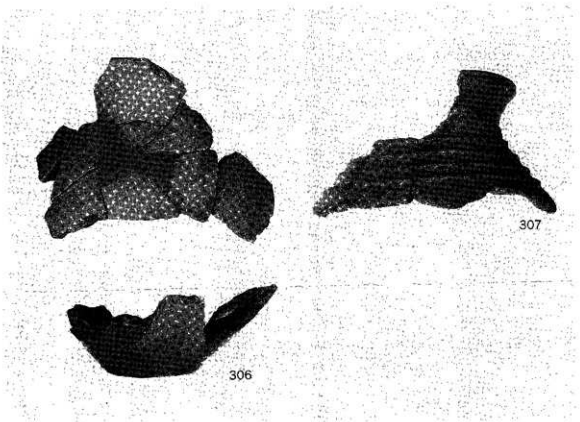


2．6層出土遺物（表）

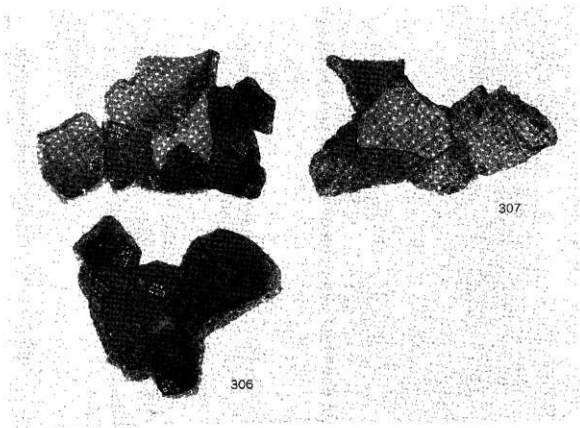


3．6層出土遺物（裏）

PL.44　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（34）



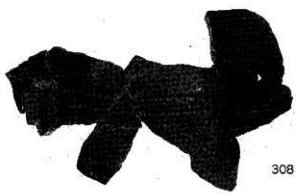
1．6層出土遺物（表）



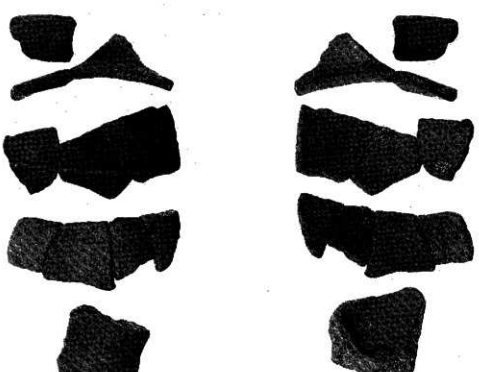
2．6層出土遺物（裏）

PL.45　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（35）

1．6層出土遺物（側面）



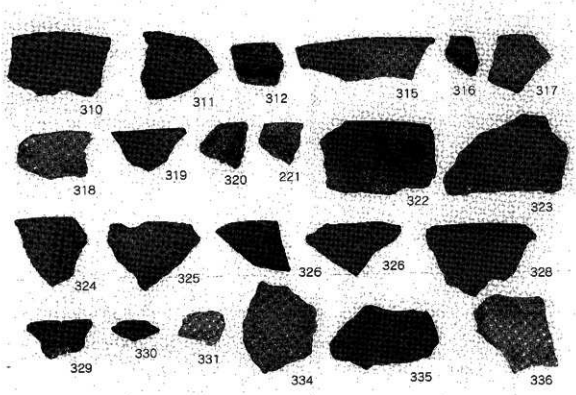
2．6層出土遺物（側面）



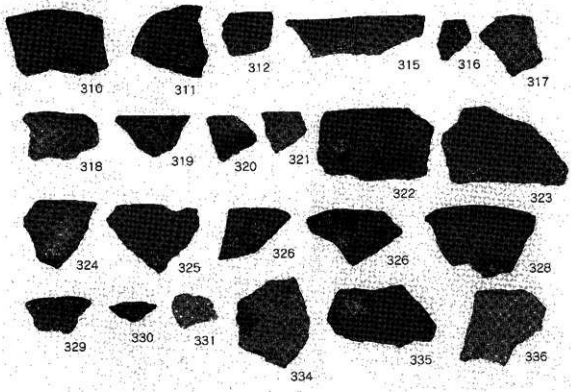
3．6層出土遺物（表）

4．6層出土遺物（裏）

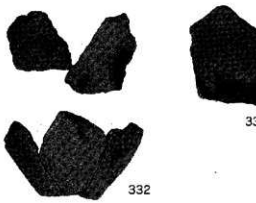
PL.46　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（36）



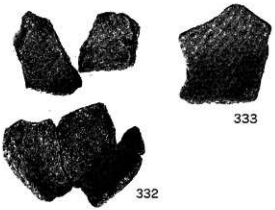
1．6層出土遺物（表）



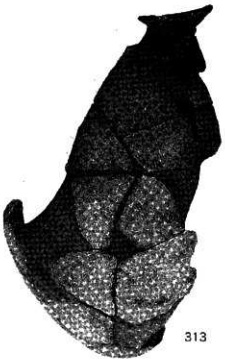
2．6層出土遺物（裏）



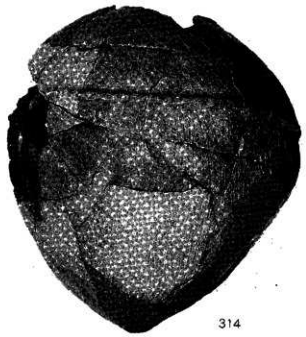
1．6層出土遺物（表）



2．6層出土遺物（裏）



3．6層出土遺物（側面）

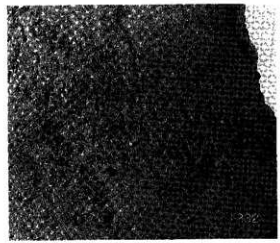


4．6層出土遺物（側面）

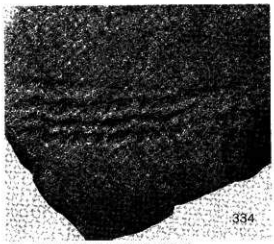
5．6層出土遺物（側面）

PL.48　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（38）

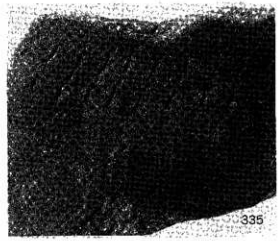
1．6層出土遺物（327文様接写）



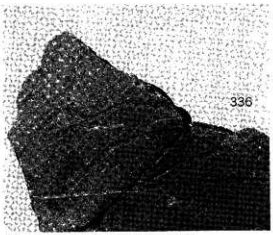
2．6層出土遺物（332文様接写）



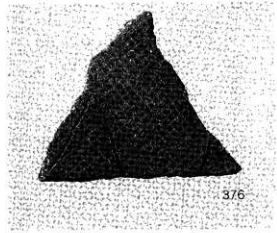
3．6層出土遺物（334文様接写）



4．6層出土遺物（335文様接写）

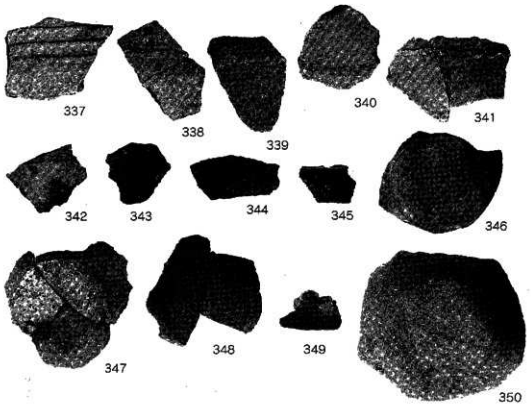


5．6層出土遺物（336文様接写）

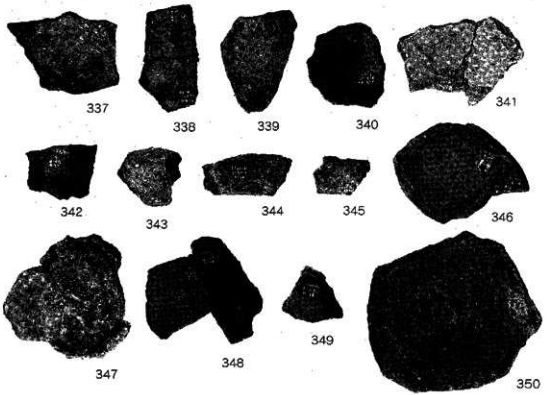


6．6層出土遺物（376文様接写）

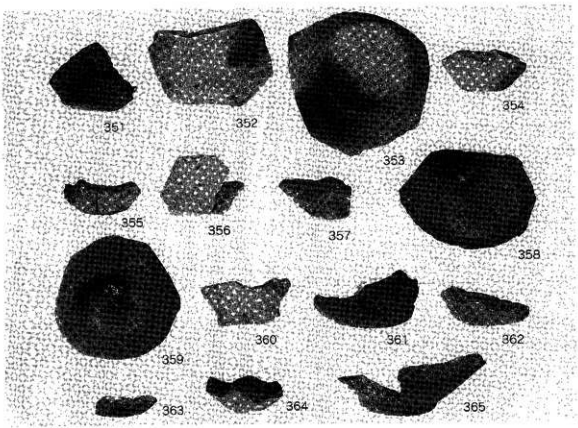
PL.49　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（39）



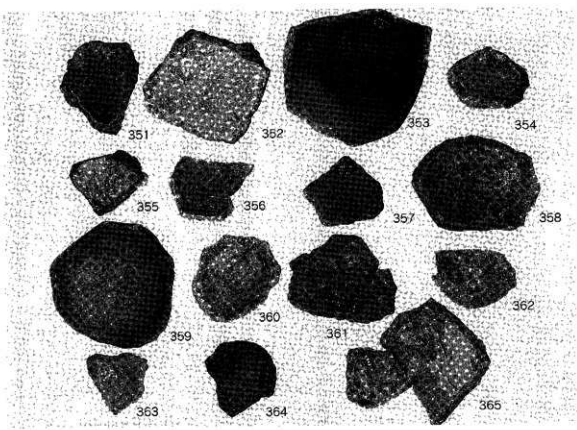
1．6層出土遺物（表）



2．6層出土遺物（裏）



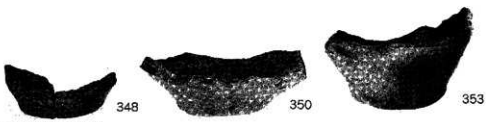
1．6層出土遺物（表）



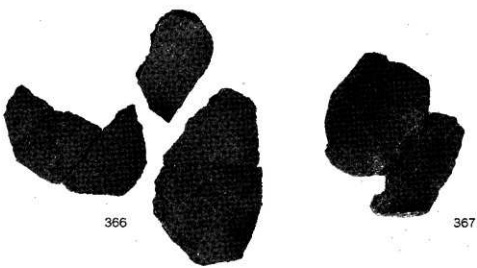
2．6層出土遺物（裏）

PL.51　郡元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（41）

1．6層出土遺物（側面）



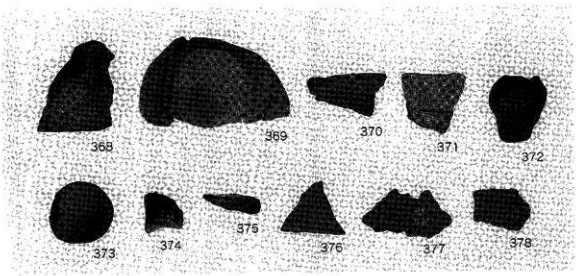
2．6層出土遺物（側面）



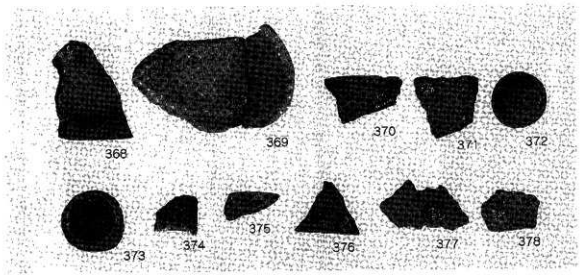
3．6層出土遺物（表）

4．6層出土遺物（裏）

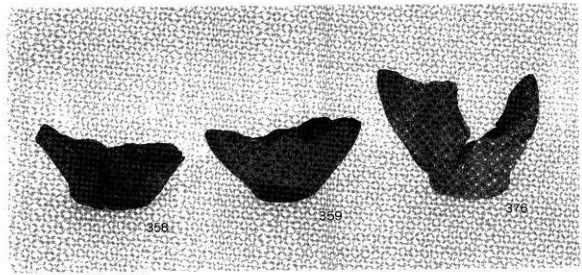
PL.52　都元団地P-5区（教育実践研究指導センター）における発掘調査（42）



1．6層出土遺物（表）



2．6層出土遺物（裏）



3．6層出土遺物（側面）

SUMMARY

This is the report of the rescue excavations and surveys of the sites in the campuses of Kagoshima University. Kagoshima University Archaeological Research Center made them for the duration from January 1995 to March 1996. This report also includes the results of the excavations carried in an appendix. Appendix reports the excavations of Area P-5 in Korimoto campus.

LOCATION AND HISTORICAL BACKGROUND

Kagoshima University is located in the center of Kagoshima city, south Kyushu Island. The western part of the city is highland and the eastern part is lowland. Active volcano Mt.Sakurajima is in the center of Kagoshima Bay.

This report includes the results of excavations and field surveys at Korimoto campus and Sakuragaoka campus. Korimoto campus are located in the lowland. Sakuragaoka campus is situated in the highland.

The sites at Korimoto campus are registered to be those of late Kofun period at 500 to 700 AD, and those at Sakuragaoka campus are registered to be the site of Jomon and Yayoi periods.

EXCAVATIONS IN KORIMOTO CAMPUS

The center carried three excavations, three test excavations and three surveys. They were all rescue archaeological surveys. This report includes detail results of the test excavations and field surveys.

There have been two different habitation areas of Kofun period in Korimoto Campus, we found new habitation area in Area Q-4·5. Four pit houses and two buildings with pillars enbedded directly in the ground were excavated. In Area K-5·6, a ditch was found and a lot of potteries of Kofun period in it. Many pit houses have been found in along this area, this ditch is one part of this habitation area.

EXCAVATIONS IN SAKURAGAOKA CAMPUS

Two excavations in Sakuragaoka campus revealed archaeological remains and layers in early Yayoi, early Jomon and Palaeolithic periods. We found potteries and microblades of early Jomon period and Palaeolithic period.

APPENDIX I : Area P-4 in Korimoto Campus

Archaeological Research Center made a rescue excavation from October 12 to December 24, 1993, before the construction of a building at Faculty of Education.

Archaeological remains were found between the second to the sixth layers. We found the wet-rice field site of the medieval times and archaeological layers that contained the artifacts of later Yayoi period. The potteries of Setouchi or Kinki direction were contained in these artifacts.

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうじゅういち
書　名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報11
巻　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	中村直子・大西智和
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒890　鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号　TEL.099-285-7270
発行年月日	西暦1997年３月

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査起因
かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうだんち 鹿児島大学構内遺跡郡元団地Ｃ－６区	かごしましこおりもとまち 鹿児島市郡元一丁目21番24号	46201		31 34 11	130 32 48	19950301 ～ 19950315	10	建物建設
かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうだんち 鹿児島大学構内遺跡郡元団地Ｊ・Ｋ－10・11区	かごしましこおりもとまち 鹿児島市郡元一丁目21番40号					19960226 ～ 19960308	10	
かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうだんち 鹿児島大学構内遺跡Ｑ－４区	かごしましこおりもとまち 鹿児島市郡元一丁目20番６号					19920616 ～ 19941003	18	
かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうだんち 鹿児島大学構内遺跡郡元団地Ｐ－５区						19921019 ～ 19921225	673	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鹿児島大学構内遺跡郡元団地Ｃ－６区	河跡 散布地	近世	河川跡	陶磁器	
鹿児島大学構内遺跡郡元団地Ｊ・Ｋ－10・11区	散布地	古墳			
鹿児島大学構内遺跡Ｑ－４区	水田跡 散布地	近世 古墳			
鹿児島大学構内遺跡郡元団地Ｐ－５区	水田跡 集落	近世 弥生	溝状遺構 畦 堀立柱建物跡	陶磁器 土師器 古墳時代の土器 弥生土器	

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報11

1997年3月発行

編集・発行　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目21番24号
TEL　099-285-7270

印刷　斯文堂株式会社
鹿児島市新屋敷町14番16号
TEL　099-226-3747

Kagoshima University Archaeological Research Center Report Vol.11

CONTENTS

Chapter
I Location and historical background of Kagoshima University ····· 1
II Report of archaeological research in fiscal year 1994 ····· 7
II.1 The test excavation at Area C-6 in Korimoto Campus ····· 9
II.2 Report of the Plant Opal Analysis at Area C-6 in Korimoto Campus ····· 16
III Report of archaeological research in fiscal year 1995 ····· 19
III.1 General outline of archaeological research ····· 21
III.2 The test excavation at Area Q-4 in Korimoto Campus ····· 23
III.3 The test excavation at Area J・K-10・11 in Korimoto Campus ····· 28
III.4 Reports of rescue surveys ····· 32

Appendix
Report of excavations at Area P-5 in Korimoto campus ····· 45

Published by
Kagoshima University Archaeological Research Center
1997